

カリキュラムマップ

年度	2024年度
学部名	文学部
学科名	英語英文学科

英語英文学科のディプロマ・ポリシー

<知識・技能> 英語という言語、英語圏の文学、文化及び英語によるコミュニケーションについて客観的に理解し、英語を通じた相互理解ができる語学的な知識と聞き、話し、読み、書くという英語の運用能力を有する。	<思考・判断・表現力> 英米文学、英語、英語圏の文化やコミュニケーションの仕組みを理解し、それについての情報を分析する力や再構築するための論理的思考力、理解力を有する。英語で書かれた文献、文学作品の多数の実例に触れ、異なる価値観を持つ異文化を理解し、自分で考え、判断ができる能力を有する。英語圏を中心とした異文化を理解し、文化を超えた相互理解ができるための知識と表現力を持っている。	<主体性> 異なった文化、社会、価値観に関心を持ち、それについての理解・知識を社会に活用し、自らの意志と判断をもとに国際社会へ貢献する意欲を持っている。
---	--	---

英語英文学科のカリキュラム・ポリシー

<知識・技能> リベラル・アーツの精神に基づき、1・2年次は専門分野を決定する準備段階として、学科の履修科目を「基礎科目」と「専攻科目」の2つに分類し、前者によって、英語の運用能力、後者によって、英語圏の文学、文化、言語、コミュニケーションについての専門知識を修得し、これらを自ら活用する力を獲得できるようなカリキュラムを構成する。また、2年次には、「英米文学」「英語学・言語学」「国際コミュニケーション」の3つのコースの基礎となる科目群を自由に選択できるように配置する。そして3年次から専攻分野に分かれ、3つの履修コースのいずれかを専攻する学生に専門的知識をいっそう深化させることができる科目群を配置する。英語という言語、英語圏の文学、文化及び英語によるコミュニケーションを理解し、英語による相互理解ができる運用能力をはぐくむに十分な科目群を配置する。(基礎科目群、学科専攻科目群など)	<思考・判断・表現力> 英米文学、英語という言語、英語圏のコミュニケーションの仕組みを理解し、それについての情報を分析し、再構築するための思考力を育成するために学科専攻科目を配置する。英語で書かれた文献、文学作品の多数の実例に触れ、異なる価値観を持つ異文化を理解し、自分で考える力を育成するために、講読、演習、研究などの学科専攻科目を配置する。英語圏を中心とした異文化を理解し、文化を超えた相互理解ができるための知識と表現力を育成するため、演習・研究等の少人数の学生による発表を伴う専攻科目群を配置する。	<主体性> 異なった文化、社会、価値観に関心を持ち、それについての理解・知識を社会に活用し、自らの意志と判断をもとに国際社会へ貢献する意欲をはぐくむための科目を配置する。
---	---	--

各授業科目の到達目標と学科のディプロマ・ポリシーとの関係

授業コード	授業科目	単位数	配当年次	到達目標1			到達目標2			到達目標3			到達目標4			到達目標5							
				到達目標 1	知識・技能	思考・判断・表現力	主体性	到達目標 2	知識・技能	思考・判断・表現力	主体性	到達目標 3	知識・技能	思考・判断・表現力	主体性	到達目標 4	知識・技能	思考・判断・表現力	主体性				
20002	Active English I [22]	2	I	Students can actively participate in a college-level conversation.	○	○	○	Students can actively read a college level text, engaging its primary purpose	○	○	○	Students can actively listen to a college level presentation and take meaningful notes	○	○	○	Students can actively present their own thoughts about material via writing and discussion in English	○	○	○	Students can make a college level presentation in English before an audience, using appropriate professional audio visual aids, such as PowerPoint	○	○	○
20004	Communicative English I	1	I	The course will improve the learner's ability to communicate successfully in a variety of language and cultural contexts. Classes are conducted in English and will primarily focus on the development of speaking and listening skills, communication strategies, extensive reading and vocabulary building.	○	○	○																
20006	Active English I [24]	1	I	Students can actively participate in a college-level conversation.	○	○	○	Students can actively read a college level text, engaging its primary purpose	○	○	○	Students can actively listen to a college level presentation and take meaningful notes	○	○	○	Students can actively present their own thoughts about material via writing and discussion in English	○	○	○	Students can make a college level presentation in English before an audience, using appropriate professional audio visual aids, such as PowerPoint	○	○	○
20012	Active English II [22]	2	I	Students can actively participate in a college-level conversation.	○	○	○	Students can actively read a college level text, engaging its primary purpose	○	○	○	Students can actively listen to a college level presentation and take meaningful notes	○	○	○	Students can actively present their own thoughts about material via writing and discussion in English	○	○	○	Students can make a college level presentation in English before an audience, using appropriate professional audio visual aids, such as PowerPoint	○	○	○
20014	Communicative English II	1	I	This is the second of two Communicative English courses. This will build on what was learnt in the first semester. The course will improve the learner's ability to communicate successfully in a variety of language and cultural contexts. Classes are conducted in English and will primarily focus on the development of speaking and listening skills, communication strategies, extensive reading and vocabulary building.	○	○	○																

各授業科目の到達目標と学科のディプロマ・ポリシーとの関係

授業コード	授業科目	単位数	配当年度	到達目標1			到達目標2			到達目標3			到達目標4			到達目標5							
				到達目標 1	知識・技能	思考・判断・表現力	主体性	到達目標 2	知識・技能	思考・判断・表現力	主体性	到達目標 3	知識・技能	思考・判断・表現力	主体性	到達目標 4	知識・技能	思考・判断・表現力	主体性	到達目標 5	知識・技能	思考・判断・表現力	主体性
20016	Active English II [24]	1	I	Students can actively participate in a college-level conversation.	○	○	○	Students can actively read a college level text, engaging its primary purpose	○	○	○	Students can actively listen to a college level presentation and take meaningful notes	○	○	○	Students can actively present their own thoughts about material via writing and discussion in English	○	○	○	Students can make a college level presentation in English before an audience, using appropriate professional audio visual aids, such as PowerPoint	○	○	○
20100	英文法 I	2	I	英語を専攻する学生として、英文法に関する専門的な知見を持ち、よりよい発話行為や英文解釈及び英作文の手助けとなるような実践的能力を養うことができる。	○	○	○																
20120	英文法 I I	2	I	英語を専攻する学生として、英文法に関する専門的な知見を持ち、よりよい英文解釈や英作文の手助けになるような能力を養う。	○	○	○																
20140	英語講読 I	2	I	英語の基礎的読解力を身につけ、理解した内容を正確に説明することができる。	○	○	○	英語を通じて関連分野の基本的な概念やトピックに関する知識を得る。	○	○	○	精読に必要な語彙・文法力を高め、自律的に学習することができる。	○	○	○	大学生としての学びの基礎を理解し、実践できる。	○	○	○				
20142	Foundation Seminar I	2	I	英語の基礎的読解力を身につけ、理解した内容を正確に説明することができる。	○	○	○	英語を通じて関連分野の基本的な概念やトピックに関する知識を得る。	○	○	○	精読に必要な語彙・文法力を高め、自律的に学習することができる。	○	○	○	大学生としての学びの基礎を理解し、実践できる。	○	○	○				
20200	英語講読 I I	2	I	1. 英語の基礎的読解力を身につけ、理解した内容を正確に説明することができる。	○	○	○	2. 英語を通じて関連分野の基本的な概念やトピックに関する知識を得る。	○	○	○	3. 精読に必要な語彙・文法力を高め、自律的に学習することができる。	○	○	○	4. 大学生としての学びの基礎を理解し、実践できる。	○	○	○				
20202	Foundation Seminar II	2	I	1. 英語の基礎的読解力を身につけ、理解した内容を正確に説明することができる。	○	○	○	2. 英語を通じて関連分野の基本的な概念やトピックに関する知識を得る。	○	○	○	3. 精読に必要な語彙・文法力を高め、自律的に学習することができる。	○	○	○	4. 大学生としての学びの基礎を理解し、実践できる。	○	○	○				
20271	Independent Study IA	1	I	Students can identify their own strengths and weaknesses and create their own independent study goals each week.	○	○	○	Students can meet the set goal of reading 75,000 words (each semester) in the Extensive reading program.	○	○	○	Students can create interesting video shorts on a variety of topics, and give feedback to other students.	○	○	○	Students can increase their listening skills in order to perform better on the TOEIC test.	○	○	○				
20281	Independent Study IB	1	I	Students can identify their own strengths and weaknesses and create their own independent study goals each week.	○	○	○	Students can meet the set goal of reading 75,000 words (each semester) in the Extensive reading program.	○	○	○	Students can create interesting video shorts on a variety of topics, and give feedback to other students.	○	○	○	Students can increase their reading skills in order to perform better on the TOEIC test.	○	○	○				
20300	英文学概論 I	2	I	英語圏の文学作品やそのジャンルを知り、分析するための基礎的方法を身につける。また、それを用いて、レポートを作成する力をつける。	○	○	○																
20310	英文学概論 I I	2	I	英語圏の文学作品やそのジャンルを知り、分析するための基礎的方法を身につける。また、それを用いて、レポートを作成する力をつける。	○	○	○																
20340	英国文学史 I	2	I	イギリス文学における代表的な作家や作品に関する知識を身につける。	○	○	○	各々の作品について、それらが生まれた時代背景を理解し、説明できる。	○	○	○	時代と結びついた多様な文学的特質について説明できる。	○	○	○								
20350	英国文学史 I I	2	I	イギリス文学における代表的な作家や作品に関する知識を身につける。	○	○	○	各々の作品について、それらが生まれた時代背景を理解し、説明できる。	○	○	○	時代と結びついた多様な文学的特質について説明できる。	○	○	○								
20360	米国文学史 I	2	II III IV	植民地時代から19世紀後半までのアメリカ文学の流れと、この時代の代表的な作家・作品を把握する。	○	○	○	アメリカ文学の背景知識を身につけ、自分の言葉で説明できる。	○	○	○	探検で紹介された作品のうち興味を持ったものを手にとって読み、自分なりの感想をもつことができる。	○	○	○								
20370	米国文学史 I I	2	II III IV	19世紀末から現代までのアメリカ文学の概要と、代表的な作家・作品を把握する。	○	○	○	19世紀末から現代までのアメリカ文学の背景知識を身につけ、自分の言葉で説明できる。	○	○	○	探検で紹介された作品のうち興味を持ったものを手にとって読み、自分なりの感想をもつことができる。	○	○	○								
20380	西洋現代文学概論 I	2	III IV	20世紀アメリカ文学の多民族性・多文化性を理解し説明できる。	○	○	○	インタセクシュアリティを自分なりに説明することができる。	○	○	○	史料/作品分析の視点を論理的に表現できる。	○	○	○	英文を的確に読解できる。	○	○	○				
20390	西洋現代文学概論 I I	2	III IV	20世紀アメリカ文学の多民族性・多文化性を理解し説明できる。	○	○	○	インタセクシュアリティの批評実践について説明することができる。	○	○	○	史料/作品分析の視点を論理的に表現できる。	○	○	○	英文を的確に読解できる。	○	○	○				

各授業科目の到達目標と学科のディプロマ・ポリシーとの関係

授業コード	授業科目	単位数	配当年次	到達目標1				到達目標2				到達目標3				到達目標4				到達目標5			
				到達目標 1	知識・技能	思考・判断・問題解決能力	主体性	到達目標 2	知識・技能	思考・判断・問題解決能力	主体性	到達目標 3	知識・技能	思考・判断・問題解決能力	主体性	到達目標 4	知識・技能	思考・判断・問題解決能力	主体性	到達目標 5	知識・技能	思考・判断・問題解決能力	主体性
21050	英語学・言語学研究ⅠⅡB	2	ⅡⅢⅣ	理論に対する見識を深めることができる。	○	○	○	理論を使ってデータを分析する能力を身につけている。	○	○	○	英語の専門書を読み、英語で論文を書くことができる。	○	○	○	論理的な思考力を身につけている。	○	○	○				
21060	英語学・言語学研究ⅠⅤA	2	ⅢⅣ	日常的に観察される文法現象に気づき、分析ができるようになる。	○	○																	
21080	英語学・言語学研究ⅤA	2	ⅢⅣ	英語で書かれた初歩的なテキストを読み理解することができる。	○	○		意味論と語用論における基本的な概念を理解し、分析ができる。	○	○	○	英語で読んだ内容を人にわかるように発表することができる。	○	○	○								
21090	英語学・言語学研究ⅤB	2	ⅢⅣ	言語変化についての入門的な英語のテキストを読んで理解することができる。	○	○		発表を通して、相手にわかりやすく自分の考えや知識を伝えることができる。	○	○	○												
21100	英語学・言語学研究ⅤⅠA	2	ⅢⅣ	理論言語学の基礎となる内容を理解し、使うことができる。	○	○		論理的な考え方を学び自分の意見を表現できる	○	○	○	分かりやすく人に説明できる	○	○									
21110	英語学・言語学研究ⅤⅠB	2	ⅢⅣ	理論言語学の基礎となる内容を理解し、使うことができる。	○	○		論理的な考え方を学び自分の意見を表現できる	○	○	○	分かりやすく人に説明できる	○	○									
21120	英語学講読Ⅰ	2	ⅡⅢⅣ	言語学の考え方について、基本的な知識を身につける。	○	○		英語で書かれた英語学の研究文献を読めるようになる。	○	○	○	学んだ内容を課題を通して定着させる。	○	○									
21130	英語学講読ⅠⅠ	2	ⅡⅢⅣ	言語学の考え方について、基本的な知識を身につける。	○	○		英語で書かれた英語学の研究文献を読めるようになる。	○	○	○	学んだ内容を課題を通して定着させる。	○	○									
21200	英語学・言語学演習Ⅰ	2	ⅢⅣ	第二言語習得研究に関する概念やこれまでの知見を理解し、批判的に文献を読みこなすことができる。	○	○	○	発表やディスカッションにおいて自身の考えを明確に述べ、論理的・建設的に論じることができる。	○	○	○												
21210	英語学・言語学演習ⅠⅠ	2	ⅢⅣ	第二言語習得研究に関する概念やこれまでの知見を理解し、批判的に読みこなすことができる。	○	○	○	発表やディスカッションにおいて自身の考えを明確に述べ、論理的・建設的に論じることができる。	○	○	○	これまで身につけた知識と方法論のもとに、適切な研究課題を設定することができる。	○	○	○								
21380	Independent Study IIA	1	Ⅱ	リスニング・セクションの4つの出題形式それぞれに対応した技能を修得し、実践することができる。	○	○	○	リーディング・セクションの3つの出題形式それぞれに対応した技能を修得し、実践することができる。	○	○	○	各自が主体的に学習をコントロールしながら目標を達成することができる。	○										
21390	Independent Study IIB	1	Ⅱ	リスニング・セクションの4つの出題形式それぞれに対応した技能を修得し、実践することができる。	○	○	○	リーディング・セクションの3つの出題形式それぞれに対応した技能を修得し、実践することができる。	○	○	○	各自が主体的に学習をコントロールしながら目標を達成することができる。	○										
21405	Interactive English I	2	Ⅱ	The goal of this course is to have students reach the level of proficiency so as to express personal opinions and discuss plans, exchange information, ask for clarification, and offer suggestions, etc. in English. Students will master the skills through active participation in classroom activities including discussions and presentations.	○	○	○																
21415	Interactive English II	2	Ⅱ	The goal of this course is to have students reach the level of proficiency so as to express personal opinions and discuss plans, exchange information, ask for clarification, and offer suggestions, etc. in English. Students will master the skills through active participation in classroom activities including discussions and presentations.	○	○	○																

各授業科目の到達目標と学科のディプロマ・ポリシーとの関係

授業コード	授業科目	単位数	配当年次	到達目標1			到達目標2			到達目標3			到達目標4			到達目標5							
				到達目標1	知識・技能	思考・判断・問題解決能力	主体性	到達目標2	知識・技能	思考・判断・問題解決能力	主体性	到達目標3	知識・技能	思考・判断・問題解決能力	主体性	到達目標4	知識・技能	思考・判断・問題解決能力	主体性				
21620	Advanced English I	1	III	学生は、4つのスキルを使って、アカデミックなトピックについてコミュニケーションを図り、本格的なタスクに取り組み能力を向上させることができます。Students will improve their ability to use all four skills to communicate about academic topics and engage in authentic tasks	○	○	○	自分の意見を正当化するための議論に積極的に参加し、明確で詳細な描写を提示することができます。Students can take an active part in discussion to justify their views, and present clear, detailed descriptions.	○	○	○	グループ内で協力して、上級レベルの英語でのグループプロジェクトやプレゼンテーションを行うことができます。Students can collaborate within a group to create a group project or presentation at an advanced level of English.	○	○	○	明確で詳細な分析論文が書けるようになる。Students can write a clear, detailed analytical paper.	○	○	○				
21630	Advanced English II	1	III	学生は、4つのスキルを使って、アカデミックなトピックについてコミュニケーションを図り、本格的なタスクに取り組み能力を向上させることができます。Students will improve their ability to use all four skills to communicate about academic topics and engage in authentic tasks	○	○	○	自分の意見を正当化するための議論に積極的に参加し、明確で詳細な描写を提示することができます。Students can take an active part in discussion to justify their views, and present clear, detailed descriptions.	○	○	○	グループ内で協力して、上級レベルの英語でのグループプロジェクトやプレゼンテーションを行うことができます。Students can collaborate within a group to create a group project or presentation at an advanced level of English.	○	○	○	明確で詳細な分析論文が書けるようになる。Students can write a clear, detailed analytical paper.	○	○	○				
21650	英語 I	1	I II III IV	英検準1級に必要な語彙・文法を学習し、読解へ応用することができる。	○			リーディングスキルを学習し、制限時間内に読解問題を解く力に活用することができる。	○			さまざまなリスニング練習を通し、英検準1級に対応できる聞く力を養うことができる。	○	○		ライティングの全体的な構成を分析し、順序立てて論旨を展開する力に活用することができる。	○	○	与えられた条件に従って正しく英文を作り、発話することができる。	○	○		
21660	英語 I I	1	I II III IV	英検準1級合格に必要な語彙・文法を学習し、読解へ応用することができる。	○			リーディングスキルを学習し、制限時間内に読解問題を解く力に活用することができる。	○			聞く力を鍛えることにより、英検準1級合格に必要なレベルまで理解力を高めることができる。	○	○		ライティングの全体的な構成を分析し、順序立てて論旨を展開する力に活用することができる。	○	○	与えられた条件に従って正しく英文を作り、発話することができる。	○	○		
21670	英語 I I I	1	I II III IV	Students can learn and understand vocabulary used in long sentences.	○	○		Students can use and understand practical conversation.	○	○		Students can improve their TOEIC abilities through building vocabulary, focusing on grammar and gaining confidence for taking tests.	○	○									
21680	英語 I V	1	I II III IV	Students can learn and understand vocabulary used in long sentences.	○	○		Students can use and understand practical conversation.	○	○		Students can improve their TOEIC abilities through building vocabulary, focusing on grammar and gaining confidence for taking tests.	○	○									
21705	English Writing I	2	II	Learning to write clear, well-organized paragraphs with supporting details and ideas.	○	○	○																
21715	English Writing II	2	II	Learning to expand a variety of genres of writing including the five paragraph essay and specific writing skills for	○	○	○																
21805	English Writing III	2	III IV	Students can identify and produce the standard features and structure of an academic essay.	○	○	○	Students can identify and produce strong thesis statements and topic sentences.	○	○	○	Students can create and employ standard planning strategies for academic writing (e.g. outlines and mind-mapping).	○	○	○	Students can identify and use appropriate language (vocabulary and grammar) for academic writing and avoid plagiarism.	○	○	○	Students can improve writing through the process of both giving and incorporating feedback on writing.	○	○	○
21815	English Writing IV	2	III IV	Students can structure and draft the introduction part of their research.	○	○	○	Students can review previous research and theoretical concepts critically.	○	○	○	Students can identify and explain the methodology used in their study.	○	○		Students can write up the necessary information for the study appropriately (in quotations, tables, figures, footnotes, appendixes, reference list, etc.).	○	○					
21885	Media Literacy II	2	III IV	In this course, learners will develop reading, listening and writing skills in order to understand, evaluate and respond to various media messages.	○	○		Learners will learn principles and practice strategies to identify the purpose, stakeholders and audience of media messages as well as how to respond appropriately to these messages.	○	○		By the end of the course, learners will be able to identify and explain the basic requirements of media literacy, as well as demonstrate their ability to communicate responsibly using various forms of media.	○	○	○								

各授業科目の到達目標と学科のディプロマ・ポリシーとの関係

授業コード	授業科目	単位数	配当年次	到達目標1			到達目標2			到達目標3			到達目標4			到達目標5					
				到達目標 1	知識・技能	思考・判断・問題解決能力	主体性	到達目標 2	知識・技能	思考・判断・問題解決能力	主体性	到達目標 3	知識・技能	思考・判断・問題解決能力	主体性	到達目標 4	知識・技能	思考・判断・問題解決能力	主体性		
21890	Business English I	2	III IV	Students will be able to build vocabulary related to an international workplace.	○	○	○	Students will be able to develop English communication skills (including oral, aural, and written) useful for the workplace.	○	○	○	Students will gain knowledge and awareness of international work culture.	○	○	○						
21892	Business English II	2	III IV	Students can understand a range of English vocabulary in job-hunting situations.	○			Students can communicate appropriately in various job-hunting situations in English.			○	○									
21895	English for Study Abroad I	2	II III IV	Students will obtain the necessary communication skills and information when they travel or take language training courses in English-speaking countries.	○	○	○	Students will be able to clarify their motivation for studying abroad and to learn what to prepare before their departure.	○	○	○	The Students can appreciate their own culture and they will be ready to share their culture with others when they go abroad.	○	○	○						
21897	English for Study Abroad II	2	II III IV	Students are aware of the importance of their English qualification and academic skills when they study at an English-speaking university.	○	○	○	Students can express and exchange their ideas and opinions through groupwork.	○	○	○	Students can express/present their ideas logically through writing assignments.	○	○	○						
21900	異文化理解 I	2	II III IV	世界の文化の多様性や異文化コミュニケーションの現状と課題を理解し、論じることができる。	○	○	○	アメリカという多様な文化的背景を持った人々との交流を通して、文化の多様性及び異文化交流の意義について体験的に理解し、応用することができる。	○	○	○	英語が使われている国や地域の歴史、社会、文化について基本的な内容を理解し、応用することができる。	○	○							
21910	異文化理解 I I	2	II III IV	世界の文化の多様性や異文化コミュニケーションの現状と課題を理解し、多様な文化的背景を持った人との交流する。	○	○	○	文化の多様性及び異文化交流の意義について体験的に理解する。	○		○	英語が使われている国や地域の歴史、社会、文化について基本的な内容を理解する。	○	○							
22200	英語科教育法 I	2	II	中・高の生徒が英語による基礎的なコミュニケーション能力を身につけることができるようにするための指導法の基礎が理解できている。	○	○	○														
22210	英語科教育法 I I	2	III	第二言語習得論、外国語教授法の歴史的流れと現在の主たる教授法について英語を通して理解し、指導の実践に生かすことができる。	○	○	○														
23110	General Introduction to International Communication I	2	I	Students will be able to understand the key terms and basic concepts of intercultural communication.	○	○		Students will be able to discuss the relevant topics and exchange their thoughts in class .		○	○	Students will develop basic knowledge, skills, and vocabulary necessary for effective intercultural communication in English.	○	○	○	Students will be able to communicate with people from different cultural backgrounds and gain an experiential understanding of cultural diversity and the importance of intercultural exchange.	○	○	Students will develop a basic understanding of the history, society, and culture of English-speaking countries and regions.	○	○
23210	General Introduction to International Communication II	2	I	Students will learn the key concepts of intercultural communication and acquire the basic knowledge and skills to be competent intercultural communicators.	○	○	○	Students will be able to think independently and express their thoughts clearly.		○	○	Students will be able to build vocabulary related to intercultural communication.	○			Students will be able to communicate with people from different cultural backgrounds to gain an experiential understanding of cultural diversity and the importance of intercultural exchange.	○	○	Students will be able to develop a basic understanding of the history, society, and culture of English-speaking countries and regions.	○	○
23310	International Communication IA	2	II III IV	一つの学問分野の基礎を理解することができる。	○			一つの学問分野を体系的に学ぶことができる。		○		特定のテーマについて自分で調べて書くことができる。									
23320	International Communication IB	2	II III IV	一つの学問分野の基礎を理解することができる。	○			一つの学問分野を体系的に学ぶことができる。		○		特定のテーマについて自分で調べて書くことができる。									
23410	International Communication IIA	2	II III IV	ことばの使用に対する観察力と問題意識をもち、主体的に考えられるようになる。	○	○	○	ことばの使用における興味深い現象を取り上げ、研究のための問いを立てることができる。	○	○	○	社会言語学および関連分野の基礎的な概念を理解している。	○	○							

各授業科目の到達目標と学科のディプロマ・ポリシーとの関係																								
授業コード	授業科目	単位数	配当年次	到達目標1			到達目標2			到達目標3			到達目標4			到達目標5								
				到達目標1	知識・技能	思考・判断・問題解決力	主体性	到達目標2	知識・技能	思考・判断・問題解決力	主体性	到達目標3	知識・技能	思考・判断・問題解決力	主体性	到達目標4	知識・技能	思考・判断・問題解決力	主体性					
23420	International Communication IIB	2	II III IV	ことばの使用に対する観察力と問題意識をもち、主体的に考えられるようになる。	○	○	○	ことばの使用における興味深い現象を取り上げ、研究のための問いを立てることができる。	○	○	○	社会言語学の基礎的な概念を理解し、日本語と英語で説明することができる。	○	○										
23510	International Communication IIIA	2	II III IV	Students can recognise improvement in the 4 skills of language learning.	○	○	○	Students can do fieldwork to find connections between nature and culture.	○	○	○	Students can engage with multiple perspectives and reflect on cross-cultural connections.	○	○	○	Students can communicate critically and creatively on local, global and planetary topics.	○	○	○					
23520	International Communication IIIB	2	II III IV	Students can think about big, human questions from various viewpoints in a culturally sensitive and empathetic manner with better knowledge of religious traditions.	○	○	○	Students develop an informed understanding of the diversity of (and within) world religions.	○	○	○	Students foster a respectful awareness of the meaning of the beliefs and practices for the person of the faith.	○	○	○	Students develop an awareness of how religion affects peoples' lives.	○	○	○	Students develop visual literacy of various religious traditions.	○	○	○	
23600	International Communication Research IA	2	III IV	Knowing and UnderstandingUnderstand the ways that an individual affects and is affected by the world around them.	○	○	○	Investigate and be able to describe the perspectives of people from different social groups.	○	○	○	Communicate and take an active part in discussion to justify their views, and present clear, detailed descriptions.	○	○	○	Think critically about and describe the effects of intersectionality of social factors on individuals.	○	○	○					
23650	International Communication Research IB	2	III IV	Students will continue to develop their ability to responsibly and knowledgeable explore and talk about differences between various cultures and how that manifests itself in cultural practice and behavior.	○	○	○	Students will practice and develop the ability to write a concise research paper about a social issue or topic.	○	○	○	Students will have the opportunity to express and respond to the opinions of others about various social issues.												
23660	International Communication Research IIA	2	III IV	Students will understand the application of anthropological qualitative research methods to industrial practices.	○	○		students will deepen their understanding of cultural issues in industrial societies.	○	○		Students will learn how to apply ethnographic research analysis to service design.	○	○	○									
23900	Practical Communication IA	2	III IV	旅行・観光業のサービス場面で求められる英語コミュニケーションが適切に行える。	○	○	○	旅行・観光業に関する基礎的知識を習得している。	○	○	○	旅行・観光業に関する事柄について、分かりやすい英語で説明することができる。	○	○										
23950	Practical Communication IB	2	III IV	日本の世界遺産や文化、歴史、伝統に関する知識を習得し、説明することができる。	○	○	○	日本の世界遺産や文化、歴史、伝統に関することがらを英語で表現することができる。	○	○	○													
24100	Practical Communication IIIA	2	III IV	Students can understand the key elements of delivering a speech at an advanced level of English.	○			Students will significantly increase their public speaking skills in English.	○	○	○	Students can objectively evaluate their peers based on knowledge gained and skills practiced throughout the course.	○	○	○	Students will be able to present themselves confidently speaking in front of an audience.	○	○	○					
24150	Practical Communication IIIB	2	III IV	Students can understand the key elements of delivering a speech in English at an advanced level.	○			Students will significantly increase their public speaking skills in English.	○	○	○	Students can objectively evaluate their peers based on knowledge gained and skills practiced throughout the course.	○	○	○	Students will be able to present themselves confidently at online job interviews.	○	○	○					
24300	International Communication Seminar I	2	III IV	Students will be able to understand key terms and basic concepts in sociolinguistics, pragmatics, and related fields.	○	○		Students will acquire methodologies for the study of language and communication.	○	○	○	Students will develop the research, analytical, organizational, and English language skills necessary to write papers in English.	○	○	○									
24400	International Communication Seminar II	2	III IV	Students will be able to understand key terms and basic concepts in sociolinguistics, pragmatics, and related fields.	○	○		Students will acquire methodologies for the study of language and communication.	○	○	○	Students will develop the research, analytical, organizational, and English language skills necessary to write papers in English.	○	○	○									
25000	卒業論文	6	IV	的確な研究課題を設定することができる。	○	○	○	深い知的興味と洞察力を持って研究を自ら計画し、計画通りに遂行することができる。	○	○	○	研究課題に見合った資料の内容を正確に解釈し、論理的に説明、議論することができる。	○	○	○	各研究分野において定められた論文の形式や用語を正しく用いて、英語または日本語で論点を明確に書くことができる。	○	○		各研究分野で必要とされる分析方法で研究内容を論じ、それを応用して自身の研究成果の当該分野における示唆を考えることができる。			○	○

カリキュラムマップ

年度	2024年度
学部名	文学部
学科名	日本語日本文学科

日本語日本文学科のディプロマ・ポリシー

<p><知識・技能></p> <p>学科専門科目の履修を通して、日本文学、日本語学、言語文化の知識と方法を修得するとともに、全学共通科目の履修を通して、幅広い教養と世界の言語・文学・文化についての多様な視点をも身に付ける。</p>	<p><思考・判断・表現力></p> <p>日本文学分野・日本語学分野・言語文化分野に関する研究を通して、問題意識を高めることで問題発見力を養い、資料を用いた論理的な方法と思考によって課題探究をし、柔軟な思考力と判断力を身に付けている。それを通して、人間を見つめる豊かな知性と感性の涵養のもとで、自らの内面と「ことば」を磨き、リテラシーと教養を基礎とした表現力を高め、発信することができる。</p>	<p><主体性></p> <p>日本文学分野・日本語学分野・言語文化分野を総合的に見渡すことのできる広い視野と、主体的に自らあるいは他者と協働して問題を発見し解決する力をもって、多様な社会や他者のために貢献する意欲がある。</p>
---	---	---

日本語日本文学科のカリキュラム・ポリシー

<p><知識・技能></p> <p>古典籍を活用し歴史的文化への理解を深め、古典文学・近現代文学を素材として人間の思想や感情とその表現の理解を深める（日本文学分野）。現代のコミュニケーションのあり方を探究し、日本語のしくみについて考える（日本語学分野）。言語による表現力を養うことを目指し、日本文学・日本語学の学びを応用して国語科・書道科教員としての実力を養成する（言語文化分野）。</p> <p>日本文学分野・日本語学分野・言語文化分野に関する基本的な知識を総合的・体系的に修得し、幅広い専門的・教養的視野に立つて、日本の言語・文学・文化を把握することができる。</p>	<p><思考・判断・表現力></p> <p>学科科目において、専門的なテーマに関する情報収集・読解・分析・発表・討論を行い、文学・語学の感性を磨くとともに、情報リテラシー、論理的思考力、問題発見力、問題解決力、表現力を高める。</p>	<p><主体性></p> <p>現代的な問題意識を持って日本の言語、文学、文化を総合的に見渡すことのできる広い視野を養う。専門テーマに関する情報収集・読解・分析・発表・討論を通して、主体的に自らあるいは他者と協働して問題を発見し解決する力を高める。</p>
--	---	--

各授業科目の到達目標と学科のディプロマ・ポリシーとの関係

授業コード	授業科目	単位数	配当年次	到達目標1				到達目標2				到達目標3				到達目標4				到達目標5			
				到達目標1	知識・技能	思考・判断・表現力	主体性	到達目標2	知識・技能	思考・判断・表現力	主体性	到達目標3	知識・技能	思考・判断・表現力	主体性	到達目標4	知識・技能	思考・判断・表現力	主体性	到達目標5	知識・技能	思考・判断・表現力	主体性
30000	古典文学基礎演習	2	I	変体仮名の知識を身に付け、写本・版本を読解できる。	○			古典籍の知識を身に付け、扱うことができる。	○			図書館を自在に利用し、古典研究に必要な辞典・データベースを判断し活用することができる。	○	○		口頭発表の方法を身に付け、有意義な議論を促す発言をすることができる。	○	○	○	読書ノートを作成することで読書習慣を身に付け、自身の関心事について学ぶ意欲を持つことができる。	○	○	○
30100	近代文学基礎演習	2	I	近代文学に親しみ、図書館を自在に利用でき、調査したことを研究に取り入れることができる。	○	○		読書領域を広げ、多角的な文学研究を実践することができる。	○	○	○	口頭発表の仕方やレポートの書き方の基礎を身に付けることができる。	○	○	○								
30210	日本語学基礎演習	2	I	研究課題が理解できる。			○	文献や先行研究の探し方が理解できる。	○			先行研究を読みレジュメとしてまとめて発表できる。得られたデータを蓄積し分析できる。分析結果をレポートとしてまとめることができる。論理的かつレポートらしい文体による文章を書くことができる。	○	○		グループ活動を通して調査が企画できる。調査（フィールドワーク）が実施できる。		○	○	分析結果の発表ができる。			○
30260	古典文学入門	2	I	古典文学の基礎をふまえ、古典を読解することができる。	○			古典の表現方法や技法について説明できる。	○	○		変体仮名の成り立ちや読み方を説明できる。	○	○									
30300	日本語学概論Ⅰ	2	I	日本語の音声の基本的特徴について説明できる。				日本語の類似した音声についての判別（聞き分け）ができる。				指示された音声が発音できる。											
30310	日本語学概論ⅠⅠ	2	I	授業を通して、日本語学という学問の輪郭を各自掘むようになる。	○	○	○																
30400	日本文学概論Ⅰ	2	IⅡ	古代文学の発生と発展に関する基礎的内容について理解することができる。	○		○	古代文学と政治との関わり、及び、古代文学と他の文化現象との関わりについて理解することができる。	○	○		到達目標1・2について、それらに対する自らの見解を適切に表現できる。	○	○	○								
30410	日本文学概論ⅠⅠ	2	IⅡ	文学研究の方法に関して、文学理論の基礎を説明できる。	○			作家・作品について方法論に基づいた客観的な視点を持つことができる。	○	○		方法論に基づいた作品分析によって、自分の意見を論じることができる。	○	○	○								
30500	日本語史Ⅰ	2	IⅡ	「言語が変化する」とはどういうことか、具体的にイメージできるようになる。	○	○	○	またそれを各時代の資料からどのように再構成するのか、その方法について理解を及ぼす。	○	○	○												
30510	日本語史ⅠⅠ	2	IⅡ	日本語の音声の歴史・変遷について説明できる。	○	○	○	音声変化の理由について説明できる。	○		○	現在進行中の音声変化について説明できる。	○	○									
30600	日本文学史Ⅰ	2	I	上代・中古・中世の日本文学史の動態を理解し、説明することができる。	○	○	○	上代・中古・中世の日本文学の特徴と方法を理解し、説明することができる。	○	○	○	時代背景や価値観と文学作品との関係を理解し、説明することができる。	○	○	○								
30610	日本文学史ⅠⅠ	2	I	日本文学史の流れの把握を通して、日本文学の底流にある本質を説明できる。	○	○		前近代の日本文学の特徴と方法について説明できる。	○	○		時代背景について説明できる。		○	○								
30700	日本語音声学Ⅰ	2	IⅡ	日本語の音声・音韻の特徴や、その多様性を説明できる。	○			日本語音声学・音韻論の基礎的知識を身につけることにより、日本語教育や外国語教育に応用できる。		○		日本語の音声・音韻の特徴と多様性について、日本語学習者の日本語習得の視点から観察・分析できる。			○								

各授業科目の到達目標と学科のディプロマ・ポリシーとの関係

授業コード	授業科目	単位数	配当年次	到達目標1			到達目標2			到達目標3			到達目標4			到達目標5				
				到達目標 1	知識・技能	思考・判断・表現力	主体性	到達目標 2	知識・技能	思考・判断・表現力	主体性	到達目標 3	知識・技能	思考・判断・表現力	主体性	到達目標 4	知識・技能	思考・判断・表現力	主体性	
31240	近代文学特講Ⅳ	2	ⅡⅢⅣ	作家と作品について時代背景を理解した上で的確に説明できる。	○	○		現代の社会状況を理解した上で作家と作品の特質を考察できる。	○	○		他メディアとの関わりの中で文学に対する新たな視点を持って論じることができる。	○	○		作家と作品の持つ普遍的な力を理解した上で、現代社会の中での位置づけを考察できる。	○	○		
31250	近代文学特講Ⅴ	2	ⅡⅢⅣ	作品読解の方法論を理解し、それを用いて作品の構造を指摘できる。	○	○		作品内の情報を取り出し、それらを連携・総合して作品の読解を提示できる。	○	○		読解の方法・作品内情報を活かして作品を分析し、新たな読みとして説明できる。	○	○						
32000	古代文学講読Ⅰ	2	ⅡⅢⅣ	『風土記』『古事記』神話の基礎的な読解力を身につけることができる。	○	○		多くの注釈書類や研究史を概観し、作品を多角的に捉える視点を応用できる。	○	○		上代文学の研究手法、ならびに発表方法を身につけることができる。	○	○						
32010	古代文学講読ⅠⅠ	2	ⅡⅢⅣ	『万葉集』の基礎的な読解力を身につけることができる。	○	○		多くの注釈書や研究史を概観し、作品を多角的に捉える視点を応用できる。	○	○		『万葉集』研究の手法、ならびに発表方法を身につけることができる。	○	○						
32100	古代文学講読ⅠⅠⅠ	2	ⅡⅢⅣ	『落窪物語』の基礎的な内容について読解することができる。	○	○		写本の読解方法、諸注釈や先行研究の扱い方等について理解し、自らの力でそれらを活用・運用することができる。	○	○		平安期物語の特徴と問題点について理解した上で、それらに対する自らの見解を適切に表現できる。	○	○						
32110	古代文学講読ⅠⅤ	2	ⅡⅢⅣ	『落窪物語』の基礎的な内容について読解することができる。	○	○		写本の読解方法、諸注釈や先行研究の扱い方等について理解し、自らの力でそれらを活用・運用することができる。	○	○		平安期物語の特徴と問題点について理解した上で、それらに対する自らの見解を適切に表現できる。	○	○						
32230	中世文学講読ⅠⅠⅠ	2	ⅡⅢⅣ	書誌学・文献学についての知識を身につけ、説明することができる。	○	○		古典籍の適切な扱い方を理解し、実践することができる。	○	○		古典籍から得た情報を元に調査カードを作成することができる。	○	○		古典作品を読解するために必要なツールを理解し、ツールを適切に選択利用した上で作品を解釈することができる。	○	○	○	調査に基づきレジュメを作成し口頭発表することができる。
32240	中世文学講読ⅠⅤ	2	ⅡⅢⅣ	『三代集間事』について説明することができる。	○	○		適切な辞書・データベースを用いて古典作品を鑑賞することができる。	○	○		中世歌学と和歌に関する問題について、他文献を適切に用いて考察することができる。	○	○						
32300	近世文学講読Ⅰ	2	ⅡⅢⅣ	翻字と校訂作業を通して、古典を解説する力を得る。	○	○		江戸版・上方版各々を比較して特徴を明らかにする。	○	○		各「桃太郎」に込められたメッセージを解明する。	○	○		理解した内容を適切な表現で纏めることができる。	○	○		
32310	近世文学講読ⅠⅠ	2	ⅡⅢⅣ	翻字と校訂作業を通して、古典を解説する力を得る。	○	○		各「猿蟹合戦」を比較して特徴を明らかにする。	○	○		各「猿蟹合戦」に込められたメッセージを解明する。	○	○		理解した内容を適切な表現で纏めることができる。	○	○		
32410	近代文学講読ⅠⅠ	2	ⅡⅢⅣ	作品から問題点を見出して研究テーマを設定し、的確な分析方法を用いて新たな作品論を展開することができる。他者の見解に対する問題点を指摘しながら独自の作品論を確認することができる。	○	○	○	根拠のしっかりした客観的実証を行い、先行論文を踏まえた説得力のある論にすることができる。	○	○	○	先行研究を的確に用いて自らの論の強調点や新しさを主張できる。	○	○	○	説得力のある論文の書き方を修得し、自らの論を完成できる。	○	○	○	
32430	近代文学講読ⅠⅤ	2	ⅡⅢⅣ	新しい視点を軸とした作品読解と作品分析ができる。	○	○		先行論や根拠を示す資料を利用した発表と発表資料の作成ができる。	○	○	○	口頭発表の中で適切な質疑応答ができる。	○	○		客観的で説得力のある発表内容を資料にまとめることができる。	○	○		
32440	近代文学講読Ⅴ	2	ⅡⅢⅣ	作品を読み、分析したうえで見解を説明することができる。	○	○		作品の背景やこれまでの研究内容を知るための資料調査ができる。	○	○	○	作品読解と分析・資料調査の結果をまとめて発表できる。	○	○		発表に対しての質疑と応答ができる。	○	○		
32450	近代文学講読ⅠⅤ	2	ⅡⅢⅣ	新しい視点を軸にした作品読解と作品分析ができる。	○	○		先行論や根拠を示す資料を利用した発表と資料作成ができる。	○	○		口頭発表の中で適切な質疑応答ができる。	○	○		客観的で説得力のある資料作成の方法を身につける。	○	○		
33000	古代文学演習Ⅰ	2	ⅢⅣ	『万葉集』の基礎的な読解力を身につけることができる。	○	○	○	多くの注釈書や研究史を概観し、作品を多角的に捉える視点を応用できる。	○	○		古代文学を研究する際の、作品の決め方、およびその手法について考察し、実際に調査を行ない発表する学術的な方法を身につけることができる。	○	○						
33010	古代文学演習ⅠⅠ	2	ⅢⅣ	自ら研究テーマを探究し、自ら文献を調査することができる。	○	○	○	論文の書き方を身につけ、また推敲する力を身につけることができる。	○	○		自ら論文をまとめる方法を身につけることができる。	○	○						
33020	古代文学演習ⅠⅠⅠ	2	ⅢⅣ	『源氏物語』の基礎的な内容について読解することができる。	○	○	○	写本の読解方法、諸注釈や先行研究の扱い方等について理解し、自らの力でそれらを活用・運用することができる。	○	○		平安期物語の特徴と問題点について理解した上で、それらに対する自らの見解を適切な方法によって発表・討論することができる。	○	○	○	自らの設定したテーマに則って立論し、説得的に文章化することができる。	○	○	○	

各授業科目の到達目標と学科のディプロマ・ポリシーとの関係

授業コード	授業科目	単位数	配当年次	到達目標1			到達目標2			到達目標3			到達目標4			到達目標5			
				到達目標1	知識・技能	思考・判断・表現力	主体性	到達目標2	知識・技能	思考・判断・表現力	主体性	到達目標3	知識・技能	思考・判断・表現力	主体性	到達目標4	知識・技能	思考・判断・表現力	主体性
33030	古代文学演習ⅠⅤ	2	ⅢⅣ	『源氏物語』の基礎的内容について読解することができる。	○		○	写本の読解方法、諸注釈や先行研究の扱い方等について理解し、自らの力でそれを活用・運用することができる。	○	○		○	○	○	自らの設定したテーマに則って立論し、説得的に文章化することができる。				
33110	中世文学演習Ⅰ	2	ⅢⅣ	題詠歌について説明することができる。	○	○		和歌を学ぶための資料が何かを理解し、調べることができる。	○	○	○	DBを適切に利用し、必要な用例を正しく集めることができる。	○	○	○	和歌・歌学の研究方法を理解し、実践することができる。			
33120	中世文学演習ⅠⅠ	2	ⅢⅣ	これまでに学んできたことから問題提起ができる。	○	○		考察に必要な資料・情報を判断し、調べることができる。	○	○	○	考察したことを論文・レポートの形式で文書作成できる。	○	○	○	発表から発表者の考えを汲み取り、有益な議論をすることができる。			
33130	中世文学演習ⅠⅠⅠ	2	ⅢⅣ	注釈書を参照しての古典和歌の読解の方法を習得し、実行することができる。	○	○	○	新古今時代の和歌の表現の在り方について理解を深め、それを言語化することができる。	○	○	○								
33140	中世文学演習ⅠⅤ	2	ⅢⅣ	注釈書を参照しての古典和歌の読解の方法を習得し、実行することができる。	○	○	○	新古今時代の和歌の表現の在り方について理解を深め、それを言語化することができる。	○	○	○								
33320	近代文学演習Ⅰ	2	ⅢⅣ	作品から問題点を見出して研究テーマを設定し、的確な分析方法を用いて新たな作品論を展開することができる。他者の見解に対する問題点を指摘しながら独自の作品論を確認することができる。	○	○	○	作品から問題点を見出して研究テーマを設定し、的確な分析方法を用いて新たな作品論を展開することができる。	○	○	○	先行研究を的確に用いて自らの論の強調点や新しさを主張できる。	○	○	○	説得力のある論文の書き方を修得し、自らの論を完成できる。			
33330	近代文学演習ⅠⅠ	2	ⅢⅣ	作品から問題点を見出して研究テーマを設定し、的確な分析方法を用いて新たな作品論を展開することができる。他者の見解に対する問題点についても指摘することができる。	○	○	○	根拠のしっかりした客観的実証を行い、先行論文を踏まえた説得力のある論にすることができる。	○	○	○	先行研究を的確に用いて自らの論の強調点や新しさを主張できる。	○	○	○	説得力のある論文の書き方を修得し、自らの論を完成できる。			
33360	近代文学演習Ⅴ	2	ⅢⅣ	他者の見解に対する問題点について論理的に指摘することができる。	○	○	○	作品から問題点を見出して研究テーマを設定し、的確な分析方法を用いて新たな解釈を示すことができる。	○	○	○	先行論を適切に用いて自分の論の強調点と新しさを主張できる。	○	○	○	自分の考えを構成した説得力のある資料を作成できる。			
33370	近代文学演習ⅤⅠ	2	ⅢⅣ	作品から問題点を見出して研究テーマを設定し、的確な分析方法を用いて新たな考察を展開することができる。他者の見解に対する問題点を指摘することができる。	○	○	○	根拠のしっかりした客観的実証を行い、先行研究を踏まえた説得力のある論を組み立てることができる。	○	○	○	先行研究を的確に用いて自分の論の強調点と新しさを主張できる。	○	○	○	説得力のある論文の書き方を習得し、自分の論を完成することができる。			
34020	日本語学特講ⅠⅠ	2	ⅡⅢⅣ	日本語の敬語の基本的なしくみについて説明できる。	○	○	○	さまざまな動詞をさまざまな敬語の形に正しく変えることができる。	○	○	○	方言の敬語や外国語の敬語について説明できる。	○	○	○				
34040	日本語学特講ⅠⅤ	2	ⅡⅢⅣ	文法論的問題にどのようなものがあるのか理解する。	○	○	○	文法論的なものの考え方を理解する。	○	○	○	みずから文法論的問題を発見し、考察できるようにする。	○	○	○				
34070	日本語学講読ⅠⅠ	2	ⅡⅢⅣ	日本語のさまざまな多様性について説明できる。	○	○	○	日本語の多様性に関する身近な事例を考察することができる。		○	○								
34110	日本語学講読ⅠⅤ	2	ⅡⅢⅣ	『詞の玉緒』の検証を通して、古代語の意義・文法の記述を実践し、その方法について理解を深める。	○	○	○	『詞の玉緒』の読解をもとに、近代以前の「注釈」のあり方について理解を深める。	○	○	○								
34160	日本語学演習ⅠⅠ	2	ⅢⅣ	研究課題を自ら定めることができる。			○	先行研究の探し方が理解できる。	○	○	○	先行研究を読みレジュメとしてまとめて発表できる。分析結果の発表ができる。	○	○	○	アンケート調査として設問化できる。得られたアンケートを整理できる。得られたデータを蓄積し分析できる。	○	○	
34200	日本語学演習ⅠⅤ	2	ⅡⅢⅣ	意味論的問題にどのようなものがあるのか理解する。	○	○	○	語の意味について、言語事実に基づいて記述できるようになる。	○	○	○	みずから意味論的問題を発見し、考察できるようにする。	○	○	○				
35000	対照言語学Ⅰ	2	ⅡⅢⅣ	対照言語学の目的や歴史、研究方法に関する知識を持つ。	○	○	○	音声面、語彙面、文法面等、どのポイントからどのような視点を持って言語間の違いを意識化すればよいかを理解し、実践できる。	○	○	○	言語の多様性について知り、各自の複言語能力を伸ばす。	○	○	○				
35050	対照言語学ⅠⅠ	2	ⅡⅢⅣ	対照言語学の目的や歴史、研究方法に関する知識を持つ。	○	○	○	コミュニケーション場面における言語間の類似点や相違点を理解し、他言語からの視野で日本語を捉え直すことができる。	○	○	○	本場に「日本語にしかない特徴」があるのか、「その母語話者にしかない誤用」があるのか等、検証的に考えることができる。	○	○	○	日本語非母語話者と円滑なコミュニケーションを図る工夫をすることができる。			

各授業科目の到達目標と学科のディプロマ・ポリシーとの関係

授業コード	授業科目	単位数	配当年次	到達目標1			到達目標2			到達目標3			到達目標4			到達目標5				
				到達目標1	知識・技能	思考・判断・表現力	主体性	到達目標2	知識・技能	思考・判断・表現力	主体性	到達目標3	知識・技能	思考・判断・表現力	主体性	到達目標4	知識・技能	思考・判断・表現力	主体性	
35100	漢文学Ⅰ	2	ⅡⅢⅣ	中国の古典文学と古典詩の基本的な特徴について説明できます。	○			身につけた知識を他の作品の読解に応用できます。	○	○										
35110	漢文学ⅠⅠ	2	ⅡⅢⅣ	中国の散文と文言小説の基本的な特徴について説明できます。	○			身につけた知識を他の作品の読解に応用できます。	○	○										
35200	日本漢文学史	2	ⅡⅢⅣ	漢詩文を読む上で必要な文法・語法などの基礎知識を持っている。	○	○	○	漢詩文の表現を通じて作者や登場人物の心情を把握できる。	○	○	○	日本における漢文学について、その概要を理解している。	○	○	○					
35310	日本語表現法Ⅰ	2	Ⅲ	文章を書くための知識と方法を実践的に学び、文章表現課題を書いて発表することができる。	○	○		文字言語及び音声言語による表現活動として、紹介文集を作成することができる。	○	○	○									
35320	日本語表現法ⅠⅠ	2	Ⅲ	1.より良く話し聞くための知識と方法を実践的に学び、音声表現課題に取り組み、発表することができる。	○	○		2.音声言語及び文字言語による表現活動として、シナリオを書き、音声表現番組を制作し、発表することができる。	○	○	○									
35330	書論・鑑賞法Ⅰ	2	ⅡⅢ	書の特質や書の構成要素、鑑賞のしかたを理解し、説明できる。	○	○	○	書論を通して書を理論的側面から把握し、説明できる。	○	○	○									
35340	書論・鑑賞法ⅠⅠ	2	ⅡⅢ	書の特質や書の構成要素、鑑賞のしかたを理解し、説明できる。	○	○	○	書論を通して書を理論的側面から把握し、説明できる。	○	○	○									
35380	文学創作論Ⅰ	2	ⅡⅢⅣ	朗読の基本を身につけ発表できる。	○	○	○	創作の基本を身につけ発表できる。	○	○	○	言語感覚をとぎすまし、文学表現によって、自分が最も表現したいことは何かという自らの内面について気づきを得ながら、自分らしい表現力を獲得できる。	○	○	○	他者の作品について、自らの価値観を深めたくて客観的な評価軸から評価することができる。	○	○	○	他者からの評価に対応して自らの判断力をもって推敲ができ、完成度を増して上げることができる。
35390	文学創作論ⅠⅠ	2	ⅡⅢⅣ	創作の基本を自分なりに身につけ発表できる。	○	○	○	言語感覚をとぎすまし、文学表現によって、自分が最も表現したいことは何かという自らの内面についての気づきを得ながら、自分らしい表現手段を獲得できる。	○	○	○	他者の作品について、自らの価値観を深めつつ客観的な評価軸によって評価することができる。	○	○	○	他者からの評価に対応して自らの判断力をもって推敲ができ、完成度を増して上げることができる。	○	○	○	文集の編集過程での作業の意味を理解し、担った仕事について他者とコミュニケーションをとって協働し、責任をもって入念にやり遂げることができる。
35600	書道卒業制作	4	Ⅳ	書の意義について総合的に理解し、自らの力で表現・鑑賞ができる。	○	○	○	履修者全員の協働によって書道卒業制作展を自らの力で開催できる。	○			履修者全員の協働によって所感文集を自らの力で発行できる。	○							
36000	国語科教育法Ⅰ	2	Ⅱ	中学校及び高等学校学習指導要領における国語科の全体構造、目標、学習内容、学習評価、指導上の留意点等を理解し、基礎となる学習指導理論を踏まえ、学習者の実態に基づいて豊かな言語活動を組織し、教材及びICTを効果的に活用して授業設計を行うための基本的な考え方を身につける。	○	○	○													
36020	国語科教育法ⅠⅠ	2	Ⅲ	中学校及び高等学校学習指導要領に示された国語科の目標、育成を目指す資質・能力、学習内容について理解を深め、学習指導理論を踏まえて、具体的な実践事例に基づいて、具体的な授業場面を想定した授業設計を行う基本的な能力を身に付ける。	○	○	○													
36100	書道科教育法Ⅰ	2	Ⅲ	芸術科書道における教育目標、育成を目指す資質・能力を理解し、学習指導要領に示された当該教科の学習内容について背景となる学問領域と関連させて理解を深めるとともに、様々な学習指導理論を踏まえて具体的な授業場面を想定した授業設計を行う方法を身に付ける。	○	○	○													

各授業科目の到達目標と学科のディプロマ・ポリシーとの関係

授業コード	授業科目	単位数	配当年次	到達目標1			到達目標2			到達目標3			到達目標4			到達目標5				
				到達目標1	知識・技能	思考・判断・表現力	主体性	到達目標2	知識・技能	思考・判断・表現力	主体性	到達目標3	知識・技能	思考・判断・表現力	主体性	到達目標4	知識・技能	思考・判断・表現力	主体性	
36110	書道科教育法Ⅰ	2	Ⅲ	芸術科書道における教育目標、育成を目指す資質・能力を理解し、学習指導要領に示された当該教科の学習内容について背景となる学問領域と関連させて理解を深めるとともに、様々な学習指導理論を踏まえて具体的な授業場면을想定した授業設計を行う方法を身に付けることができる。	○	○	○													
36120	書法基礎	1	Ⅰ	書の基礎的な表現技法を理解し、表現できる。	○	○	○	古典の美しさを理解し、字形・全体の構成を分析・表現できる。	○	○	○	書の基礎的な表現技法を理解し、説明できる。	○	○	○					
36130	漢字仮名交じり書法Ⅰ	1	Ⅰ	漢字と仮名の基本的な調和について、その要点を説明できる。	○	○	○	身辺の書に関心を持ち、表現する力を体得する。	○	○	○									
36140	楷・行書法Ⅰ	1	Ⅰ	『蘭亭序』の基本点画・線質・構成を理解し、結構法を修得・表現できる。	○	○	○	『蘇孝慈墓誌銘』の基本点画・線質・構成を理解し、結構法を修得・表現できる。	○	○	○	『蘭亭序』・『蘇孝慈墓誌銘』の各書体について分析し、説明できる。	○	○	○					
36150	仮名書法Ⅰ	1	Ⅰ	仮名の技法を理解し、仮名の美しさを構成する要素を説明できる。	○	○	○	日本独自の仮名の用筆・運筆を表現できる。	○	○	○									
36180	書写法Ⅰ	1	Ⅲ	指導者としての自覚を持って、姿勢・執筆法を説明できる。	○	○	○	硬筆・毛筆の基本点画、構成を理解し、表現できる。	○	○	○	書写の学習指導案を立案することができる。	○	○	○	書写用語を正確に把握し、使用できる。	○	○	○	
36190	書写法ⅠⅠ	1	Ⅲ	授業計画を立案し、教材分析や指導方法を考え、模擬授業ができる。	○	○	○	模擬授業を通じて、指導方法・指導態度などについての問題点を明らかにし、説明できる。	○	○	○									
36200	硬筆書法	1	ⅠⅡⅢ	基礎となる硬筆書写の力を養い、表現方法を習得することができる。	○	○	○	正しく美しく書くという書写の能力を伸ばし、日常の書写の中へ応用することができる。	○	○	○									
36210	書式研究	1	ⅠⅡⅢ	それぞれの書式の基本を理解し、その形式を表現及び説明できる。	○	○	○	応用として陶器の皿に、自由な表現で文字を刻むことができる。	○	○	○									
36240	楷・行書法ⅠⅠ	1	Ⅱ	同じ書体であっても、書風の違いはどこから生まれるのか。用筆・運筆といった技術的な表現及び筆者の個性・時代背景をも説明できる。	○	○	○													
36250	草書法	1	Ⅱ	古典学習を通して、草書の崩し方・用筆・運筆を体得し、躍動的な作品制作へと発展させることができる。	○	○	○	書体の成り立ち、更には草書が省略されて我が国の「かな」が生まれたことへも応用できる。	○	○	○									
36270	漢字仮名交じり書法ⅠⅠ	1	Ⅲ	「漢字仮名交じり書法Ⅰ」の発展として、自らの思いや言葉を探り、作品を通して表現できる。	○	○	○	独自の書風として表現を応用できる。	○	○	○									
36280	篆・隸書法	1	Ⅲ	篆書、隸書それぞれの筆法や特徴を理解し、表現できる。				文字一字一字の構成や作品全体の構成を理解し、表現できる。												
36290	篆刻法	1	Ⅲ	字書から検字して、検字・印稿を制作できる。	○	○	○	用具・用材の特徴を理解し、適切に使用できる。	○	○	○	文字の配置・構成を理解し、表現できる。	○	○	○	篆刻の美しさを理解し、自らの意図に基づいた表現ができる。	○	○	○	
36300	仮名書法ⅠⅠ	1	Ⅲ	基本となる古筆「高野切」の表現を習得した上で卷子本の形式に仕上げるることができる。	○	○	○	他の歴史上の古筆にも取り組み、多彩な古筆の特徴を説明できる。	○	○	○									
36610	総合探究Ⅰ	2	ⅡⅢⅣ	坪田謙治の人生と文学について深く理解を及ぼすことで、その文学の力を、現代の岡山をはじめとする地域社会のどのような問題点の改善につなげることができるか、熟考することができる。	○	○	○	文学的思想内容から、自らが現代に生きる他者に伝えるべきことへの使命感を抱き、その現代的アプローチとなる発信方法を学びながら、工夫して発信することができる。	○	○	○	学外者との交流へと自らの意識を広げ、目的に適った、より効果的な行事の企画・運営について熟考した内容を計画的に実践することができる。	○	○	○	文学を通して、岡山という地域に根ざしつつ国内外の他の地域とつながりある要素や障がいや弱さを越えて人々が大切にしたい要素を深く認識し、人間の心の問題において共通する問題意識を捉えながら、他者理解に基づいた企画と交流を行なうことができる。	○	○	○	社会性への認識を持ち、規定にしたがって書類作成・実践活動を実践することができる。

各授業科目の到達目標と学科のディプロマ・ポリシーとの関係

授業コード	授業科目	単位数	配当年次	到達目標1			到達目標2			到達目標3			到達目標4			到達目標5							
				到達目標1	知識・技能	思考・判断・表現力	主体性	到達目標2	知識・技能	思考・判断・表現力	主体性	到達目標3	知識・技能	思考・判断・表現力	主体性	到達目標4	知識・技能	思考・判断・表現力	主体性				
36620	総合探究II	2	II III IV	『源氏物語』の基礎的内容について理解することができる。	○		○	写本の読解方法、諸注釈や先行研究の扱い方等について理解し、自らの力でそれらを活用・運用することができる。	○	○		○	○	○	自らの設定したテーマに則って立論し、説得的に文章化することができる。	○	○	○	研修の目的に沿って体験的理解を進めることができる。			○	
37020	日本文化史Ⅰ	2	II III IV	近世中期の文化についての学識を身に付けることができる。	○			近世中期文学の多様性を理解し、多角的な観点から文学作品を読解・分析できる。	○	○			○		既存の学問的枠組みにとらわれずに、自らの考えで文学について考えることができる。								
37100	日本美術史Ⅰ	2	II III IV	日本近代美術の歴史的背景を理解し、代表的な作家やその作品に関する基礎知識を身につける。	○			日本近代美術と西洋美術との関係、他のアジア諸国の美術との関係について歴史的背景を説明できる。	○				○		著名な作品を見てその作家や作品名が分かるだけでなく、初見の作品でもその作風などを分析して時代や流派を推測することができる。				○				
38010	卒業論文	6	IV	自らの関心に従ってテーマを発見し、先行の研究論文や様々な文献を読み込んだ上で、問題を設定することができる。	○	○	○	4年間の学びの中で修得した知識と研究方法に基づき、具体的な資料の調査や分析を行うことができる。	○	○			○	○	自らが設定した問題に対して、論理的かつ実証的に結論を導き、新たな知見を提示することができる。				○	○			

カリキュラムマップ

年度	2024年度
学部名	文学部
学科名	現代社会学科

現代社会学科のディプロマ・ポリシー

<知識・技能> 社会学と歴史学を中心に、関連学問領域も含め、専門的な知識を体系的に修得するとともに、フィールドワークや文献調査などを通して、史資料・データを収集・分析する技能を有する。	<思考・判断・表現力> 過去と現在の社会に関するさまざまな課題を発見し、収集した史資料・データを多面的に考察するとともに、その成果を平易かつ客観的・論理的に表現することができる。	<主体性> 社会の諸課題に関心をもって向き合い、多様な人々と調査や議論を通して協働しつつ主体的に学ぶ態度を身につけ、また生涯にわたって社会に貢献する意欲を有している。
---	--	--

現代社会学科のカリキュラム・ポリシー

<知識・技能> 基礎科目・専攻科目やフィールドワークを通じて、社会学、歴史学の2つの分野の研究に必要な理論と方法、史資料・データを収集・分析する技能を修得する。「社会学コース」、「歴史学コース」、共通領域としての「地域学コース」の3コースを設け、各専門領域に応じた知識・技能を獲得する。	<思考・判断・表現力> 演習科目の履修を通じて、研究テーマに関する情報収集、分析、発表、討論、論文作成の能力を培う。これらにより、社会について多角的に考察し、その成果を論理的に表現する力を高める。	<主体性> 演習科目、フィールドワーク、卒業論文を通じて、現在と過去の社会の諸問題に関心をもって意欲的に向き合い、立場の異なる人々と協働しつつ主体的に学ぶ態度を身につける。
--	---	---

各授業科目の到達目標と学科のディプロマ・ポリシーとの関係

授業コード	授業科目	単位数	配当年次	到達目標1			到達目標2			到達目標3			到達目標4			到達目標5			
				到達目標1	知識・技能	思考・判断・表現力	主体性	到達目標2	知識・技能	思考・判断・表現力	主体性	到達目標3	知識・技能	思考・判断・表現力	主体性	到達目標4	知識・技能	思考・判断・表現力	主体性
40010	現代社会学基礎	2	I	社会学の基礎的な事項について説明できる	○		○	現代的なテーマについて社会的観点から考察することができる	○	○									
40020	社会学基礎	2	I	社会学の基礎的な事項について説明できる	○		○	現代的なテーマについて社会的観点から考察することができる	○	○									
40060	社会史基礎	2	I	現代日本社会での常識や一般的な歴史像を相対化し、説明できる。	○	○		史料へのアプローチ方法と多様な分析・解析の方法を修得し、説明できる。	○	○									
40120	基礎演習	2	I	現代社会学科で扱う各領域について、自らの学問的な関心を説明できる。	○		○	学問的に公正な態度とは何かを説明し、実行できる。	○		○	○	ゼミナール形式の授業に積極的に参加できる。			○	○		
40130	社会学概論	2	I	社会学の基礎的な概念について説明できる。	○			社会学的な見方・考え方について理解し、実践できる。		○			社会学を構成する各専門領域の概要を説明できる。	○	○			○	○
40140	社会史概論	2	I	社会史研究とはいかなるものかについて、テーマの多様性と方法論の基礎を身につける。	○	○	○	高等学校までに学んできた歴史とのつながりあるいは相違点を理解することができる。	○	○	○	○	社会史研究のこれまでの流れ（研究史）についての基礎的な知見を獲得する。						
40160	現代社会学基礎演習	2	I	現代社会学領域に対する自らの学問的な関心を説明できる。	○		○	実践的な研究能力を体得し、応用できる。	○	○		○	ゼミナール形式の授業に積極的に参加できる。						
40180	社会学基礎演習	2	I	現代社会学領域に対する自らの学問的な関心を説明できる。	○		○	実践的な研究能力を体得し、応用できる。	○	○		○	ゼミナール形式の授業に積極的に参加できる。						
40210	社会史基礎演習	2	I	社会史領域に対する自らの学問的な関心を説明できる。	○		○	実践的な研究能力を体得し、応用できる。	○	○		○	ゼミナール形式の授業に積極的に参加できる。						
41010	社会学原論	2	I	社会学の基礎的な概念について説明できる。	○			社会学的な見方・考え方について理解し、実践できる。		○			社会学を構成する各専門領域の概要を説明できる。	○	○			○	○
41060	理論社会学	2	II III	社会学に関する主要な学説や理論を説明することができる	○	○		社会学の理論や概念を用いて、現実社会を分析することができる	○	○	○		社会学を学ぶことの意義を見出すことができる						
41070	社会心理学	2	II III	社会心理学という学問の特徴と位置づけを述べることができる。	○	○		社会心理学で扱われる諸概念を、具体的な事例と関連づけて説明することができる。	○	○	○	○	社会心理学の研究方法の一つである実験について、その設計やデータの収集方法を説明することができ、また結果の図表を正しく読み取ることができる。	○	○	○	○	○	○
41090	社会集団・組織論	2	II III	代表的な社会組織の歴史と現状について理解し、その概要を説明することができる。	○	○		社会現象を、社会組織の活動・連関として捉える姿勢を身につけることができる。	○	○	○		関心のある社会組織を、授業で学ぶ手法のいずれかで分析することができる。	○	○				
41100	地域社会学	2	II III IV	地域コミュニティの変容を促したメカニズムや、今日の社会が直面している諸問題を説明できる。	○			現代の地域社会をとりまく諸問題の解決のために必要な条件を論じることができる。	○	○		○	自らと地域社会の関係を批判的に再考し、その成果を記述することができる。			○	○	○	○

各授業科目の到達目標と学科のディプロマ・ポリシーとの関係																								
授業コード	授業科目	単位数	配当年次	到達目標1			到達目標2			到達目標3			到達目標4			到達目標5								
				到達目標 1	知識・技能	思考・判断・表現力	主体性	到達目標 2	知識・技能	思考・判断・表現力	主体性	到達目標 3	知識・技能	思考・判断・表現力	主体性	到達目標 4	知識・技能	思考・判断・表現力	主体性					
41120	宗教学会	2	II III IV	宗教学会学の考え方を理解するとともに、現代社会と宗教の関係を考えるための社会的な素養を身につける。	○			現代社会と宗教をめぐる諸課題について多角的に観察し、他者との共生やコミュニケーションに応用できる。		○		多様化する現代社会や文化に関心を向け、他者に寄り添う態度と意欲をもつことができる。												
41130	家族社会学	2	II III IV	家族研究の基礎的理論・学説および基本的用語を説明することができる。	○			家族変動を社会的な分析視点から説明することができる。		○		家族にかかわる現代的諸問題を、自分の生き方と関連付けながら考察・分析・表現することができる。												
41150	ジェンダー論	2	II III IV	ジェンダー問題を自分にひきつけて考えることができる。			○	日常生活にあふれているさまざまなジェンダー構造に気づき、そこに含まれている問題点を整理することができる。		○	○	ジェンダーにかかわる課題の解決の方策を講ずることができる。			ジェンダー研究に必要な知識を有している。	○								
41190	社会調査論 I	2	I II	社会調査の意義や目的、とりわけ研究における社会調査の位置づけについて、正しく理解し、説明できる。	○			さまざまな社会調査の手法とデータの種類を理解し、目的に応じて適切な調査を設計することができる。量的・質的データのそれぞれの利点と限界を説明することができる。		○		問いの設定から仮説を構成するまでのプロセスを説明することができる。「変数」の位置づけについて理解している。	○	○	○	既存の社会調査にはどのようなものがあるのかを知り、その結果を、正しく、批判的に読み取ることができる。			データの扱いやプライバシーへの配慮など、社会調査を実施する者が身につけていなければならない調査倫理について指摘することができる。	○	○	○		
41230	社会調査論 II	2	II III	調査票の作成やサンプリングなど、調査票調査の調査設計（主として社会調査の後半の作業）について正しく理解し、それらの実施方法について具体的に説明することができる。	○	○		調査票の配布と回収について、作業手順や注意事項等を具体的に説明することができる。		○	○		収集したデータの整理やデータ・ファイルを作成する際の、量的・質的データに応じた作業手順や注意事項等を具体的に説明することができる。	○	○		量的データを適切な統計学的手法を用いて分析・解釈し、適切に図示することができる。	○	○	研究におけるデータの位置づけや、データの解釈時に犯しやすい誤りなどを理解し、データの扱いに際して慎重な態度をもつことができる。	○	○	○	
41260	社会調査論 III	2	II III	質的調査の考え方やその意義について説明できる。	○			さまざまな質的調査の技法と分析の方法、および質的調査のプロセスについて説明できる。		○	○		質的なデータの収集とそれらの分析を実行できる。											
41300	社会統計学 I	2	II III	単純集計、クロス集計、ヒストグラム、散布図などの1変数に関する情報を読み取ることができ、その図表を自身で作成できる。	○	○		平均値や分散などの基礎統計量の意味を理解し、それらを算出できる。		○	○		相関係数や平均値の差など2変数間の関係を記述する方法を理解し、適切な分析と図表の作成ができる。また、因果関係と相関関係の違い、疑似相関などについて説明することができる。	○	○		表計算ソフト（Excel）での分析と図表の作成ができる。	○	○	量的なデータに基づく適切なレポートが作成できる。	○	○	○	
41310	社会統計学 II	2	II III	確率変数・確率分布について説明できる。	○	○		確率分布を用いた推定をおこなうことができる。		○			統計的仮説検定の原理について説明できる。	○	○		統計的仮説検定が適切に使い分けられる。	○	○					
41330	現代社会学特講 I	2	II III IV	国際的な労働力移動を促す要因を、多面的・包括的に説明することができる。	○	○		国際的な労働力移動をめぐる問題について、論理的に洞察することができる。		○	○		グローバルな社会現象を、自分自身の生活と関連させながら主体的・批判的に考察することができる。	○	○	○								
41340	現代社会学特講 II	2	II III IV	「災害」というキーワードについて、社会的観点から考えるための素養を身につける。	○			災害をめぐる生じる困難や災害支援のあり方、災害と社会の関係について、自己の立場に引き付けながら想像し、応用することができる。		○	○		災害と社会、そしてその歴史的背景について理解し、それを踏まえて現代社会の文脈を理解し言語化することができる。											
41350	現代社会学特講 III	2	II III IV	ソーシャルビジネスの基本について説明できる。	○			現代の社会課題について説明できる。		○	○		ソーシャルビジネスを自由に企画し、表現することができる。											
41355	現代社会学特講 IV	2	II III IV	現代社会の事象に関心をもち、身近な事象をよく観察して、それをより大きな社会の問題と関連づけることができる。	○	○	○	「個人化」という社会的概念を理解し、説明することができる。		○	○		資料やデータを用いて、社会の現状を的確に指摘できる。	○	○	○	情報化や消費社会など、現代社会の諸事象を論じる社会学・社会心理学の理論や概念について理解し、それと現実の社会事象とを関連づけて考察することができる。	○	○	○	社会参加の意義を理解し、その阻害要因を説明できると同時に、人びとの社会参加を促すための課題について、自分なりの意見をもつことができる。	○	○	○
41360	社会調査実習	4	III	社会的・学術的意義のある研究テーマを設定することができる。	○			社会調査の企画・設計から、調査の実施、データ分析に至るまでを実行できる。			○		分析の結果を論理的な文章で表現できる。											

各授業科目の到達目標と学科のディプロマ・ポリシーとの関係																		
授業コード	授業科目	単位数	配当年次	到達目標1			到達目標2			到達目標3			到達目標4			到達目標5		
				到達目標1	知識・技能	思考・判断・表現力	主体性	到達目標2	知識・技能	思考・判断・表現力	主体性	到達目標3	知識・技能	思考・判断・表現力	主体性	到達目標4	知識・技能	思考・判断・表現力
41510	社会史原論	2	I	社会史研究とはいかなるものかについて、テーマの多様性と方法論の基礎を身につける。	○	○	○	高等学校までに学んできた歴史とのつながりある相違点を理解することができる。	○	○	○	社会史研究のこれまでの流れ(研究史)についての基礎的な知見を獲得する。	○	○	○			
41530	日本社会史Ⅰ	2	ⅡⅢⅣ	日本社会の原始・古代、中世の基本的歴史知識を説明できる。	○	○	○	日本社会の原始・古代の歴史について、女性を含めた全体像を説明できる。	○	○	○	日本社会の中世の歴史について、武士にとどまらない全体像を説明できる。	○	○	○	歴史と現代を比較し、自分の考えを述べることができる。		
41540	日本社会史ⅠⅠ	2	ⅡⅢⅣ	国家と社会の相互関係に留意しながら、日本社会がどのように変化して現在に至るかをたどり、大きな歴史の流れのなかに個別の歴史事象を位置付けることができる。	○	○	○	史料を通して、地域に生きた人々が抱えた矛盾や葛藤を具体的に読み取り、そこから近世・近代の日本社会の特徴を考察・説明することができる。	○	○	○	現代社会が直面する諸問題について、歴史的経緯を踏まえて考え、自分の意見を整理することができる。	○	○	○			
41550	アジア社会史Ⅰ	2	ⅡⅢⅣ	古代～近代における中国の漢人社会を生きた人々が、どのような社会のしくみの中で、どのような文化を営んでいたのか、専門用語を用いて説明できる。	○	○	○	上記の内容を、科学や宗族などを事例として具体的に説明できる。	○	○	○							
41560	アジア社会史ⅠⅠ	2	ⅡⅢⅣ	中国史上における民衆の蜂起について、その特徴や歴史的役割を、専門的な用語を用いて説明できる。	○	○	○	中国社会における民衆のネットワークについて、その特徴やそれらが果たした歴史的役割について説明できる。	○	○	○							
41570	ヨーロッパ社会史Ⅰ	2	ⅡⅢⅣ	ヨーロッパ社会史のテーマの広がり方法について多角的な知見を獲得する。	○	○	○	文書や画像の資料を歴史的な脈絡に即して読解することができる。	○	○	○							
41580	ヨーロッパ社会史ⅠⅠ	2	ⅡⅢⅣ	ヨーロッパ社会史のテーマの広がり方法について多角的な知見を獲得する。	○	○	○	文書や画像の資料を歴史的な脈絡に即して読解することができる。	○	○	○							
41600	宗教社会史	2	ⅡⅢⅣ	社会と宗教の関係について、その歴史的事象と通説について説明することができる。	○	○	○	歴史とは過去の実事を記憶する学問ではなく、通説を再検討、批判し、新しい歴史像を描こうとするものであるという歴史学の本質について述べることができる。	○	○	○	古代ローマ史の概略を説明できる。	○	○	○	ローマ皇帝がどのようにキリスト教徒を迫害したかを説明できる。	○	○
41615	ジェンダー史	2	ⅡⅢⅣ	現代日本社会に存在するジェンダー非対称な現実を知覚し、指摘することができる。	○	○	○	近代社会における固定的な性別役割分業観、異性愛の絶対的優位の確立を説明することができる。	○	○	○	前近代史上、固定的な男女像に収まり切らずに生きた人びとの存在や、自己表現と学問に生きた女性たちの葛藤、非対称な性愛と権力の不平等な配分との密接な関係に気づき、考察を述べることができる。	○	○	○			
41620	考古学Ⅰ	2	ⅡⅢⅣ	考古学についての基本的な方法論を理解し、説明することができる	○	○	○	考古学データを活用し、その意味について論じることができる	○	○	○							
41630	考古学ⅠⅠ	2	ⅡⅢⅣ	オリエント考古学についての基本的な方法論を理解し、説明することができる	○	○	○	オリエント考古学のデータを活用し、その意味について論じることができる	○	○	○							
41640	民俗学Ⅰ	2	ⅡⅢⅣ	民俗学の基礎的な知識と研究方法を身につける。	○	○	○	様々な民俗事象・生活事象の民俗学的な意義を理解し、自分の言葉で説明できる。	○	○	○	調査や議論を通じてコミュニケーション能力を身につけ、社会に貢献することができる力を身につける。	○	○	○			
41650	民俗学ⅠⅠ	2	ⅡⅢⅣ	今日にみられる庶民と仏教の関係がどのように形成されたのか、仏教が民俗化する過程を理解できる。	○	○	○	日本の歴史的な諸事象や、岡山県をはじめとする各地の身近な民俗文化を理解し、自らのことばで説明することができる。	○	○	○	調査や議論を通じてコミュニケーション能力を身につけ、社会に貢献することができる力を身につける。	○	○	○			

各授業科目の到達目標と学部のディプロマ・ポリシーとの関係																		
授業コード	授業科目	単位数	配当年次	到達目標1			到達目標2			到達目標3			到達目標4			到達目標5		
				到達目標 1	知識・技能	思考・判断・表現力	主体性	到達目標 2	知識・技能	思考・判断・表現力	主体性	到達目標 3	知識・技能	思考・判断・表現力	主体性	到達目標 4	知識・技能	思考・判断・表現力
41660	社会史特講Ⅰ	2	ⅡⅢⅣ	日本社会の歴史を、婚姻や家族、女性やジェンダーの問題を視野に入れて、説明できる。	○	○	○	婚姻や家族、男女の生き方や役割、子どもの養育などが、いつの時代も現代と同じなのではなく、歴史的に変化していることを説明できる。	○	○	○	現代日本と異なる時代の社会や文化の中にいる人びとに対して、人間的想像力を及ぼすことができる。	○	○	○			
41670	社会史特講ⅠⅠ	2	ⅡⅢⅣ	伊藤博文・福田英子・犬養毅の政治家としての特徴について、それぞれ説明できる。	○	○	○	近代日本における政治と社会の関係について、自分の意見を整理できる。	○	○	○	歴史学における人物研究の意義について説明できる。	○	○	○			
41680	社会史特講ⅠⅠⅠ	2	ⅡⅢⅣ	キリスト教世界とイスラム教世界の基本的な価値観を理解し、説明することができる	○	○	○	今日のヨーロッパ世界の繁栄が、西アジア世界の盛衰と深くかかわっていることを、諸データを活用し、その意味について論じることができる	○	○	○							
41690	社会史特講ⅠⅤ	2	ⅡⅢⅣ	漢人の社会・文化とは異なる世界をもちながら、現代中国にも影響を強く与えた満洲人の社会、およびかれらの建てた大清帝国の特色について説明できる。 Yn	○	○	○	広大な領域を有し、多民族によって構成される現代中国が、どのような歴史的経緯によって形成されたのかを説明できる。	○	○	○							
41700	史料講読Ⅰ	4	ⅡⅢⅣ	取り上げる史料の時代的背景を理解するとともに、できるだけ正確に史料を読解できる。	○	○	○	史料の読解をどのように新たな歴史像に結びつけていくか、その発想と手法に習熟する。	○	○	○							
41730	史料講読ⅠⅠ	4	ⅡⅢⅣ	基本的なくずし字で書かれた近世～近代の古文書をほぼ読解することができる。	○	○	○	近世～近代の史料について、各種の事・辞典や関連する文献・史料を参照しながら、書かれている内容の特徴・背景・性格を正確に把握できる。	○	○	○	古文書解読を通じ、基礎的な技量を身につけることで物事を探究する深度は格段に増すことを理解し、説明できる。	○	○	○			
41750	史料講読ⅠⅠⅠ	4	ⅡⅢⅣ	「返り点」や「送りがな」のない漢文史料を解釈し、日本語に訳すことができる。	○	○	○	前近代の中国社会に関する専門用語や概念について具体的に説明できる。	○	○	○							
41760	史料講読ⅠⅤ	4	ⅡⅢⅣ	取り上げる史料の時代的背景を理解するとともに、できるだけ正確に史料を読解できる。	○	○	○	史料の読解をどのように新たな歴史像に結びつけていくか、その発想と手法に習熟する。	○	○	○							
41830	観光学	2	ⅡⅢⅣ	日本の観光事情を説明できる。	○	○	○	関連分野の研究事例や地域情報を書籍、統計、メディア情報から収集できる能力を習得できる。	○	○	○	事例から課題を導く能力を身につけることができる。	○	○	○	課題解決能力を身につけることができ、改善策を提言できる。		
41840	フィールドワーク論	2	ⅡⅢⅣ	調査方法としてのフィールドワークの意義について、自分の意見を整理できる。	○	○	○	社会学・歴史学・地理学におけるフィールドワークの方法について、それぞれの特徴を説明できる。	○	○	○	調査の倫理とルールを遵守して、フィールドワークを実践できる。	○	○	○			
41930	地理学概論	2	ⅠⅡⅢⅣ	地域を分析するための地理学な見方や考え方の基本を習得し、授業課題やレポートに表現できる。	○	○	○	地形図等の読図をはじめ、各種地図が効果的に活用できる。	○	○	○	大学での地理学研究に必要な基本的な知識や中学校・高校での地理の学習指導に必要な基礎力が獲得できる。	○	○	○			
41940	人文地理学	2	ⅠⅡⅢⅣ	人文地理学の主要分野の研究内容についての基礎的知識と研究方法が習得し、授業課題やレポートを作成できる。	○	○	○	地理の見方・考え方を授業課題やレポートで表現できる。	○	○	○	地域研究と社会人として必要な資料収集及び分析方法の基礎的素養が獲得できる。	○	○	○			
41950	自然地理学	2	ⅠⅡⅢⅣ	自然地理学の基礎となる全地球規模の気候・地形に関する知識および日本の気候・地形の特徴を説明でき、それをもとに考える事ができる。	○	○	○	地理的技能を習得し、読図ができる。	○	○	○	地理的な見方・考え方を習得することで、何気ない見慣れた景色が意味のある景観として説明でき、文化・歴史・生活・社会と自然景観・環境とを結びつけて捉えられることである。	○	○	○			

各授業科目の到達目標と学科のディプロマ・ポリシーとの関係																						
授業コード	授業科目	単位数	配当年次	到達目標1			到達目標2			到達目標3			到達目標4			到達目標5						
				到達目標 1	知識・技能	思考・判断・表現力	主体性	到達目標 2	知識・技能	思考・判断・表現力	主体性	到達目標 3	知識・技能	思考・判断・表現力	主体性	到達目標 4	知識・技能	思考・判断・表現力	主体性			
41965	地誌学II	2	I II III IV	世界の諸地域について、地理的特色を把握し、地誌の見方から地域を理解し、説明できる。	○	○		地理的な見方・考え方を通じて中学校社会科、高等学校地理歴史科の指導はもとより、社会人として不可欠な地域理解のための手法を身につけ、地域の課題について主体的に考えて説明できる。	○	○	○											
41970	文化人類学	2	II III IV	文化とはどのようなものであるかを説明できる。	○	○		日本社会を世界との比較など通じて日本や世界の多様な文化について知見を広め、多様さを説明できる。	○	○	○								日本社会の在り方の問題点を見出し、あるべき姿について提案ができる。	○	○	
42000	哲学基礎	2	I II III IV	西洋近代の哲学史についての専門的な知識を修得しその概要を説明できるとともに、哲学的文献を読み解く基礎的なスキルを身につけて応用できる。	○			西洋近代哲学史における主要概念が現在の私たちの考え方に与えた影響について多面的に考察し、その成果を論理的に表現することができる。		○		○										
42010	行政法	2	II III IV	身近で具体的な事例を素材にして行政法の基本的な仕組みを理解することができる。	○	○		行政に対する授権と統制の法としての行政法を実社会の中で活用できる。	○	○												
42030	社会法	2	II III IV	国家公務員（II種）、地方公務員上級試験の受験を希望する場合の基礎的な知識や基本的な思考方法を理解し公務員試験の土台にできる。	○	○		一生のうちで関わる社会政策への理解と就業に関する基本的なルールを理解する。	○	○		○	○	○					社会保障制度の専門的知識を将来の仕事や自分自身の生活に役立てることができる。			
42050	経済学基礎	2	I II III IV	基礎的なゲーム理論の考え方に基いて現実世界の問題を深く理解できるようになること。	○	○	○															
42055	社会倫理学	2	I II III IV	現代における生命倫理問題についての基本知識を備え、その問題点を説明することができる。	○	○		倫理的な問題意識から、生と死の問題を考察することができるようになる。		○		○							「いのち」のあり方について、自分自身の生の問題と結びつけて問うことができるようになる。			
42060	社会倫理学 I	2	I II III IV	現代における生命倫理問題についての基本知識を備え、その問題点を説明することができる。	○	○		倫理的な問題意識から、生と死の問題を考察することができるようになる。		○		○							「いのち」のあり方について、自分自身の生の問題と結びつけて問うことができるようになる。			
42100	社会教育学	2	II III IV	社会教育についての基本的な考え方、基本となっている法規や規定などについて理解するとともに、今日の社会教育の課題を把握する。	○	○																
42130	社会・地歴科教育法 I	2	II	明確な教育理論と実践力を併せ持った教育者を目指し、先行実践事例に学びながら、社会・地理歴史科教員としての基礎的指導力と方法を習得する。	○	○	○	学習指導案を作成し、模擬授業の実践ができるようになる。	○	○	○								しっかりとした教育理念と指導技術を持ち、現代的な教育課題に対応でき、ICTを活用した教材作成ができるようになる。			
42140	社会・地歴科教育法 I	2	II	明確な教育理論と実践力を併せ持った教育者を目指し、先行実践事例に学びながら、社会・地理歴史科教員としての基礎的指導力と方法を習得し、表現できる。	○	○	○	学習指導案を作成し、模擬授業の実践ができるようになる。	○	○	○								しっかりとした教育理念と指導技術を持ち、様々な教育課題に対応でき、ICTを活用した発展的な教材作成ができるようになる。			
42150	社会・公民科教育法 I	2	II	社会・公民科教員として必要な専門的知識や教育方法の基礎を学び、教材研究、学習指導案の作成、模擬授業等を通して、実践的指導力と資質を身につける。	○	○	○															

各授業科目の到達目標と学科のディプロマ・ポリシーとの関係																										
授業コード	授業科目	単位数	配当年次	到達目標1			到達目標2			到達目標3			到達目標4			到達目標5										
				到達目標 1	知識・技能	思考・判断・表現力	主体性	到達目標 2	知識・技能	思考・判断・表現力	主体性	到達目標 3	知識・技能	思考・判断・表現力	主体性	到達目標 4	知識・技能	思考・判断・表現力	主体性							
42160	社会・公民科教育法Ⅰ	2	Ⅲ	平成29年3月告示の中学校新学習指導要領社会科、平成30年3月告示の高等学校新学習指導要領公民科の目標と内容を理解することができる。	○			平成29年3月告示の中学校新学習指導要領社会科、平成30年3月告示の高等学校新学習指導要領公民科の内容を踏まえて、年間指導計画や単元指導計画を作成することができる。	○	○		年間指導計画や単元指導計画を踏まえて、実際の授業を構想し、実践・評価することができる。	○	○	○	学習指導要領に示された教科の中核的な学習内容として探究について、単元を構想・計画することができる。	○	○	○	カリキュラム作成や模擬授業等の経験を通して、学校で教壇に立つ上でのあり方や課題等を理解して整理し、まとめることができる。				○		
44020	現代社会学演習	4	Ⅲ	社会学の方法論や分析視点を援用した研究方法を説明することができる。	○	○		先行研究、必読文献を読みこなし、説明することができる。			○	必要なデータ、資料を収集することができる。	○		○	首尾一貫した論理的な文章を書くことができる。			○	自分の研究について、的確なプレゼンテーションをすることができる。				○	○	
44100	社会史演習	4	Ⅲ	関連する文献検索や地形図読図・空中写真読解・統計処理・主題図作成などの基本的技術が習得し、表現できる。	○		○	フィールドワークを通して、地域に関する実践的分析力を獲得することができる。	○	○		文献調査やフィールドワークに基づく地域調査の結果を、効果的な手法で発表できる。	○	○		最終的に卒業論文を作成する力量が獲得できる。	○	○	○							
45000	卒業論文	6	Ⅳ	意義のある研究テーマを設定することができる。	○	○	○	信頼のおける文献・資料・史料の調査と収集を行うことができる。	○	○	○	客観的かつ公平なデータの整理・分析・考察を行うことができる。	○	○	○	自らの研究の独自性がどこにあるのかを明示することができる。	○	○	○	収集した空間データを図表で表現したり、GISなどを活用したりすることで、根拠を明示できる。	○	○	○	○	○	

カリキュラムマップ

年度	2024年度
学部名	人間生活学部
学科名	人間生活学科

人間生活学科のディプロマ・ポリシー

<知識・技能> 人間・福祉、経営・経済、生活・環境の各分野の学びを通じ、人間性に満ちた、幅広い教養を持ちつつ、課題に対する専門的な分析を行うために必要な知識と技能を有している。	<思考・判断・表現力> 人間の生活を多面から学ぶことにより、多角的に物事を捉えることのできる視野の広さを備え、社会の変化に柔軟に対応できる思考力を持っている。幅広い知識と専門性を有機的に連携させ、人間生活に関わるさまざまな課題に関する情報を的確に分析・統合し、総合的に判断できる力を持っている。課題研究を通じて専門的な視点から考察し、それを口頭及び文章の形で他者に論理的に伝える力を持っている。	<主体性> 社会人としての礼節とともに、他者への共感や奉仕の精神など、キリスト教的情操を身に付けている。それを基盤に、人と人の関わり、人とモノとの関わりを学ぶことに主体的・積極的に取り組み、人間としての生き方を深く考えようという意欲を有している。知識の背後にある人間性を尊重し、他者の人格価値に共感できる感受性を身につけ、それを実践の場で活用できる。
---	--	--

人間生活学科のカリキュラム・ポリシー

<知識・技能> 人間性に満ちた、幅広い教養と高い専門性を両立させるための知識と実践力をはくくむため、学問の基礎を学ぶ「基礎科目」、学科の基盤となる科目及び演習・論文作成で構成する「共通科目」、専門分野を学ぶ「専攻科目」を設ける。「専攻科目」は人間関係学や福祉学など、人間に関する研究を行う「人間福祉学履修コース」と、経営学や経済学など、社会の構造に関わる研究を行う「経営経済学履修コース」、家政学、環境学など生活のあり方を研究する「生活環境学履修コース」という3つのコースにより構成する。これにより、人間生活学科が重視する「人間・福祉、経営・経済、生活・環境」分野の科目群を幅広く配置することを可能としている。	<思考・判断・表現力> 人間の生活を多面から学ぶため、1年次の演習で論理的な思考力を培い、2年次後半からは教員が運営するいずれかのゼミに所属し課題研究・実践研究に取り組み準備を始める。これを通じて専門性を深めるとともに、幅広い知識を有機的に連携させる力を養う。3年次からは、自らを選定したテーマに関する研究指導を受ける。このように研究関心を段階的に絞っていくことが可能のようにカリキュラムを構成している。テーマ研究を通じて卒業論文の作成、審査会での報告等を行い、学生の思考力、判断力、表現力を総合的に高める。	<主体性> 人と人との関わり、人とモノとの関わりを学び、人間としての生き方を深く考える機会を十分に得られるよう、基礎・共通・専攻各科目を配置する。学んだ知識の背後にある人間性を尊重し、他者の人格価値に共感できる感受性を身につけるため、人と暮らしを見つめようという基本方針のもとで構成されたカリキュラムを設ける。その上で福祉団体での実習、教育実習、地域連携・共同研究活動など、様々な人々との協働の機会を提供する。
--	---	--

各授業科目の到達目標と学科のディプロマ・ポリシーとの関係

授業コード	授業科目	単位数	配当年次	到達目標1			到達目標2			到達目標3			到達目標4			到達目標5			
				到達目標 1	知識・技能	思考・判断・表現力	主体性	到達目標 2	知識・技能	思考・判断・表現力	主体性	到達目標 3	知識・技能	思考・判断・表現力	主体性	到達目標 4	知識・技能	思考・判断・表現力	主体性
50015	人間福祉学概論	2	I	人が人を大切にすること。それが人間福祉の原点である。この原点に立ち返る眼を養い、日常生活において自他を尊重することができる。				物質的豊かさにとどまらない人間性に満ちた人間生活について、多角的に捉えて述べるができる。				人間の尊厳を実現・維持していくための人間福祉の営みについて考察し記述することができる。							
50020	経営経済学概論	2	I	経営経済に関する研究領域の基礎知識を説明できる。				現代の企業活動や消費行動について生活者の視点から分析できる。				経営経済に関する研究領域に関心を持ち、その関心に基づき主体的に考え、記述することができる。							
50025	生活環境学概論	2	I	人間生活を巻き取り諸問題を多角的に捉えて述べるができる。				生活上の諸問題の背景を考察し説明することができる。				人間生活の変化に関心を持ち、生活の質の向上について記述することができる。							
50032	人間生活学基礎研究I	2	I	大学での学修・研究に必要なアカデミック・スキルを実行できる。				研究に必要な文献・資料を検索・収集し、それらの情報を適切に取り扱うことができる。				レポートの作成によりアカデミック・スキルを定着できる。				プレゼンテーションにより自分の考えをわかりやすく他者に表現する。			
50034	人間生活学基礎研究II	2	I	大学での学修・研究に必要なアカデミック・スキルを実行できる。				研究に必要な文献・資料を検索・収集し、それらの情報を適切に取り扱うことができる。				テーマを設定し、テーマに沿った文献・資料を収集し、整理できる。				発表・レポート作成を繰り返すことで、アカデミック・スキルを定着させる。			他者の発表に対し質問や意見を積極的に述べるができる。
50040	人間生活学演習 I A	2	II	人間生活学科における幅広い多様な学びを理解するとともに、それらの関連性について分野横断的に考察して記述することができる。				テーマに基づく情報収集・整理、ディスカッション、レポート作成の一連のアカデミック・スキルを実行できる。				論理的・説得的な意見を述べるとともに、他者の意見を共感的に理解し建設的なディスカッション・グループ研究ができる。							
50050	人間生活学演習 I B	2	II	人間生活に関わる様々な課題について、情報を収集・分析・統合させ、多角的な視点から考察して、説明・記述することができる。				人間生活学科の研究領域の中から、自分の問題意識や関心に基づき、研究テーマを設定することができる。				意欲的に他者に働きかけ、メンバーと協働しながらコース・ゼミ運営ができる。							
50100	人間生活学演習IIA	2	III	人間生活学科において習得した豊富な知識を自分の研究に応用できる。				人間生活を取り巻く諸問題に対する問題意識に基づき、自分の研究テーマの設定や調査・考察を遂行できる。				これまでに体得した研究スキルをもとに、卒業論文作成に関する一連の作業に取り組み、順調に進めることができる。							
50200	人間生活学演習IIB	2	III	人間生活学科において習得した豊富な知識を自分の研究に応用できる。				人間生活を取り巻く諸問題に対する問題意識に基づき、自分の研究テーマの設定や調査・考察を遂行できる。				これまでに体得した研究スキルをもとに、卒業論文作成に関する一連の作業に取り組み、順調に進めることができる。							
51010	人間関係学 I	2	I III IV	他者への想像力やケア的な生き方にもとづいた健全な人間関係の形成と、そのうえで妨げとなる諸問題についての基本的知識について説明できる。				自己と他者、身体、魂などの哲学的諸概念について理解に基づき、コミュニケーションの具体的問題について考察できる。				悲嘆や苦悩に寄り添うグリーフケアの視点から人間関係を捉え、他者とのコミュニケーションを構築することができる。							
51030	女性学 I	2	II III IV	ジェンダー問題を自分にひきつけて考えることができる。				日常生活にあふれているさまざまなジェンダー構造に気づき、そこに含まれている問題点を整理することができる。				ジェンダーにかかわる課題の解決の方略を講ずることができる。				ジェンダー研究に必要な知識を有している。			

各授業科目の到達目標と学科のディプロマ・ポリシーとの関係

授業コード	授業科目	単位数	配当年次	到達目標1			到達目標2			到達目標3			到達目標4			到達目標5			
				到達目標 1	知識・技能	思考・判断・表現力	主体性	到達目標 2	知識・技能	思考・判断・表現力	主体性	到達目標 3	知識・技能	思考・判断・表現力	主体性	到達目標 4	知識・技能	思考・判断・表現力	主体性
51035	女性学	2	ⅡⅢⅣ	ジェンダー問題を自分にひきつけて考えることができる。			○	日常生活にあふれているさまざまなジェンダー構造に気づき、そこに含まれている問題点を整理することができる。	○	○	ジェンダーにかかわる課題の解決の方策を講ずることができる。			ジェンダー研究に必要な知識を有している。	○				
51040	社会倫理学Ⅰ	2	ⅠⅡⅢⅣ	現代における生命倫理問題についての基本知識を備え、その問題点を説明することができる。	○	○		倫理的な問題意識から、生と死の問題を考察することができるようになる。		○	○		○	「いのち」のあり方について、自分自身の生の問題と結びつけて問うことができるようになる。					
51042	社会倫理学	2	ⅠⅡⅢⅣ	現代における生命倫理問題についての基本知識を備え、その問題点を説明することができる。	○	○		倫理的な問題意識から、生と死の問題を考察することができるようになる。		○	○		○	「いのち」のあり方について、自分自身の生の問題と結びつけて問うことができるようになる。					
51120	家族社会学	2	ⅡⅢⅣ	家族研究の基礎的理論・学説および基本的用語を説明することができる。	○			家族変動を社会的な分析視点から説明することができる。		○		○	○	家族にかかわる現代的諸問題を、自分の生き方と関連付けながら考察・分析・表現することができる。					
51130	地域社会学	2	ⅡⅢⅣ	地域コミュニティの変容を促したメカニズムや、今日の社会が直面している諸問題を説明できる。	○			現代の地域社会をとりまく諸問題の解決のために必要な条件を論じることができる。	○	○		○	○	自らと地域社会の関係を批判的に再考し、その成果を記述することができる。		○	○	より望ましい地域社会のあり方について考え、その実現に向けて自分が行動すべきことを広い視野から具体的に論じることができる。	
51135	社会学と社会システム	2	Ⅱ	現代社会で起きている事象について、その構造を説明することができる。	○			現代における人間と社会の関係について分析し、解説することができる。	○	○		○	○	社会問題について、その原因や背景、対策について分析することができる。		○	○	社会的格差や差別・偏見などについて考え、議論することができる。	
51137	心理学と心理的支援	2	Ⅱ	人の心の基本的な仕組みと機能を理解し、環境と社会との相互作用の中で生じる心理的反応を説明できる。	○	○		人の成長・発達段階の各期に特有な心理的課題を理解し、説明できる。	○	○		○	○	日常生活と心の健康との関係について理解し、説明できる。		○	○	心理学の理論を基礎としたアセスメントの方法と心理的支援の基本について理解し、それをどのように計画し実行するのかを説明できる。	
51140	社会福祉学Ⅰ	2	Ⅰ	社会福祉についての理念、歴史、制度について理解し、説明することができる。	○	○		利用者の権利を実現するために何が必要か考え、提言することができる。	○	○		○	○	利用者に必要な制度を検討し、具体的に提示することができる。		○	○	少子高齢化、人口減少などのなかでの社会福祉のあり方を提言することができる。	
51150	社会福祉学ⅠⅠ	2	ⅠⅡ	社会福祉学が対象とする問題領域についての説明することができる。	○	○		利用者の立場から福祉供給について議論していくことができる。	○	○		○	○	福祉計画のあり方を考え、発言していくことができる。		○	○	職業倫理を踏まえた専門職者として、教育や福祉の実践に携わることができる。	
51162	高齢者福祉論	2	Ⅰ	高齢者の生活実態、取り巻く社会環境、福祉・介護需要について説明することができる。	○	○		高齢者福祉に関する法律や制度、専門職について説明することができる。	○	○		○	○	充実した高齢期の生活のために必要なことについて関心をもって考察し、意見を述べることができる。		○	○	地域社会の一員として、高齢社会における誰もが豊かに暮らせる地域社会づくりについて考察し、具体例を示しながら記述することができる。	
51180	児童福祉論	2	ⅠⅡ	子どもや家庭を取り巻く社会状況や福祉ニーズについて説明できる。	○		○	現代社会における子ども家庭福祉の意義と歴史の変遷について説明できる。	○	○		○	○	子どもの権利保障・子ども家庭福祉の制度について説明することができる。		○	○	子ども家庭福祉の現状や動向を理解し、記述することができる。	
51182	児童家庭福祉論	2	ⅠⅡ	子どもや家庭を取り巻く社会状況や福祉ニーズについて説明できる。	○		○	現代社会における子ども家庭福祉の意義と歴史の変遷について説明できる。	○	○		○	○	子どもの権利保障・子ども家庭福祉の制度について説明することができる。		○	○	子ども家庭福祉の現状や動向を理解し、記述することができる。	
51190	児童の生活と福祉	2	ⅡⅢⅣ	子育て家庭に対する支援の意義・目的を説明することができる。	○		○	保育の専門性を活かした子ども家庭支援の意義と基本について説明することができる。	○	○		○	○	育て家庭に対する支援の体制について説明することができる。		○	○	子育て支援の場で、実際の支援を行うことができる。	
51200	障害者福祉論	2	Ⅱ	障害のある人の生活実態とこれらを取り巻く社会情勢や福祉・介護需要(地域移行や就労の実態を含む。)について理解し、他者に説明できるようになる。	○		○	障害者総合支援法や障害者の福祉・介護に係る他の法制度について理解し、他者に説明できるようになる。	○	○		○	○						
51220	社会保障論Ⅰ	2	ⅢⅣ	社会保障とは何か、社会保障がなぜ必要かについて説明することができる。	○	○		社会保障をとりまく課題に対して、政策を提言することができる。		○	○		○	○	医療保障制度を活用して、傷病者を支援することができる。		○	○	介護保険制度を活用して、要介護高齢者を支援することができる。
51230	社会保障論ⅠⅠ	2	ⅢⅣ	年金制度の概要を理解し、わかりやすく説明することができる。	○	○		年金制度の本質を踏まえ、制度改正について提案することができる。		○	○		○	○	雇用保険制度の概要を理解し、説明することができる。		○	○	労災保険制度の概要を理解し、説明することができる。

各授業科目の到達目標と学科のディプロマ・ポリシーとの関係

授業コード	授業科目	単位数	配当年次	到達目標1			到達目標2			到達目標3			到達目標4			到達目標5							
				到達目標1	知識・技能	思考・判断・表現力	主体性	到達目標2	知識・技能	思考・判断・表現力	主体性	到達目標3	知識・技能	思考・判断・表現力	主体性	到達目標4	知識・技能	思考・判断・表現力	主体性				
51240	公的扶助論	2	II III IV	貧困・低所得者問題について、その原因や解決策について分析・提案できる。	○	○	○	社会の発展のなかでの貧困の意味について説明できる。	○	○	○	貧困の自己責任論に対して、貧困の社会的性格について説得的に反論できる。	○	○	○	生活保護制度について説明できる。	○	○	○	低所得者に対して相談に応じ、利用できる制度について提案できる。また、生活困窮者への支援計画を立案できる。	○	○	○
51250	地域福祉論Ⅰ	2	III IV	地域福祉の基本的な考え方、展開、動向について理解し、他者に説明できる。	○	○	○	地域生活課題の変化と現状を踏まえ、包括的支援体制における社会福祉士及び精神保健福祉士の役割について理解し、他者に説明できる。	○	○	○	包括的支援体制の考え方と、多職種及び多機関協働の意義と実際について理解し、他者に説明できる。	○	○	○								
51260	地域福祉論ⅠⅠ	2	III IV	地域福祉における主体と対象、住民の主体形成の概念について理解し、他者に説明できる。	○	○	○	地域福祉計画をはじめとした福祉計画の意義・目的及び展開について理解し、他者に説明できる。	○	○	○	地域福祉を推進するための、福祉行財政の実施体制と果たす役割について理解し、他者に説明できる。	○	○	○								
51410	福祉科教育法Ⅰ	2	II	福祉科の目標や内容を理解し、学習内容に対応した指導上の留意点や学習評価の考え方を理解して教材研究に活用することができるとともに、発展的な学習内容を探索して学習指導への位置づけを考察することができる。	○	○	○																
51420	福祉科教育法ⅠⅠ	2	III	生徒の実態を考慮してICTや教材を効果的に活用した福祉科の授業設計ができるとともに、作成した学習指導案に沿った模擬授業の実施と振り返りを通して実践的な授業改善の視点を身に付けている。	○	○	○																
51451	ソーシャルワークの基盤と専門職Ⅰ	2	I	ソーシャルワークとは何か、社会福祉士とは何かを説明することができる。	○	○	○	ソーシャルワークの歴史について理解し、考えることができる。	○	○	○	ソーシャルワークの価値と倫理を理解し、実践につなげることができる。	○	○	○								
51461	ソーシャルワークの基盤と専門職Ⅱ	2	II	専門職としてのソーシャルワーカーの意義を理解する。	○	○	○	ソーシャルワーカーとして、現在の生活の諸問題に対してどう対応していくべきか、個々の事例に則して考えることができる。	○	○	○												
51471	ソーシャルワークの理論と方法Ⅰ	2	II	人と環境との交互作用に着目して介入するソーシャルワークの特性について説明できる。	○	○	○	ソーシャルワークの構造と過程に係る価値・知識・技術を習得する。	○	○	○	ソーシャルワークのさまざまな実践モデルとアプローチについて概要を説明できる。	○	○	○								
51481	ソーシャルワークの理論と方法Ⅱ	2	III	マイクロ・メゾ・マクロの各レベルにおけるソーシャルワークについて概要を説明することができる。	○	○	○	コミュニティワークの具体的展開について説明することができる。	○	○	○	スーパービジョンの重要性を理解し、スーパーバイザーとしての役割を果たすことができる。	○	○	○								
51491	ソーシャルワークの理論と方法Ⅲ	2	III	ケースマネジメントとグループワークについて具体的に説明することができる。	○	○	○	相談援助における、多職種・多機関連携、ネットワークング、社会資源の開発の重要性について理解し、具体的に説明することができる。	○	○	○	相談援助の対象と様々な実践モデル・アプローチについて対比させながら説明することができる。	○	○	○	インタビューや事例検討において、積極的に他者と協働しながら、社会福祉士として必要な態度や技術を習得する。	○	○	○				
51495	社会福祉援助技術論ⅤⅠ	2	IV	ソーシャルワークにおける事例分析の意義と方法を理解し実施できる。	○	○	○	ソーシャルワークの対象と様々な実践モデル・アプローチについて理解し、クライアントシステムの状況に応じたアプローチ方法が選択できる。	○	○	○	演習において、積極的に他者と協働することで視野を広げ、多角的に考察する力を獲得する。	○	○	○								
51501	ソーシャルワークの理論と方法Ⅳ	2	IV	ソーシャルワークにおける事例分析の意義と方法を理解し実施できる。	○	○	○	ソーシャルワークの対象と様々な実践モデル・アプローチについて理解し、クライアントシステムの状況に応じたアプローチ方法が選択できる。	○	○	○	演習において、積極的に他者と協働することで視野を広げ、多角的に考察する力を獲得する。	○	○	○								
51502	社会福祉調査の基礎	2	III IV	社会福祉調査の意義と目的、方法について概要を説明・記述することができる。	○	○	○	社会福祉調査における倫理と個人情報保護について説明・記述することができる。	○	○	○	ソーシャルワークにおける評価の意義と方法について説明・記述することができる。	○	○	○	量的調査及び質的調査の知識と技術を習得する。	○	○	○				

各授業科目の到達目標と学科のディプロマ・ポリシーとの関係

授業コード	授業科目	単位数	配当年次	到達目標1			到達目標2			到達目標3			到達目標4			到達目標5					
				到達目標 1	知識・技能	思考・判断・表現力	主体性	到達目標 2	知識・技能	思考・判断・表現力	主体性	到達目標 3	知識・技能	思考・判断・表現力	主体性	到達目標 4	知識・技能	思考・判断・表現力	主体性		
51520	社会福祉経営	2	IV	「福祉サービスの組織と経営」について、社会的に重要な役割をもった組織の目的や事業のあるべき姿、組織の目指すべき理念や使命、それを実現するための手段等について明らかにすることができる。	○	○	○	重要項目について自分の言葉で表現することができる。	○	○	○										
51532	保健医療と福祉	2	III IV	保健医療サービスの制度や仕組みを説明することができる。	○	○	○	クライアントに対して、適切な保健医療サービスを提案することができる。	○	○	○	保健医療サービスにおける社会福祉士の役割を理解し、他職種と連携・協働することができる。	○	○	○						
51552	権利擁護を支える法制度	2	III IV	権利擁護とはなにか説明できる	○			権利擁護支援が必要な対象者について説明できる	○			権利擁護のための法制度・特に成年後見制度について説明できる	○	○		意思決定支援の概要と支援の方法について説明できる	○	○	事例を通じてソーシャルワーカーが果たすべき役割を説明できる	○	
51560	刑事司法と福祉	2	III IV	刑事司法手続の概要について説明できる	○			刑事司法福祉の担い手や関係機関について説明できる	○			累犯障害者・高齢者の存在背景と支援の必要性について説明できる	○	○		刑事司法と社会福祉の連携について事例をもとに対応を検討・考察できる					
51601	ソーシャルワーク演習	2	II	援助者としての自己の特徴について把握することができる。		○	○	個人の価値観と専門職としての価値観を説明することができる。	○	○		福祉サービスを必要とする人と適切なコミュニケーションをとることができる	○	○	○	非言語的コミュニケーションを活用することができる。	○	○	福祉サービスの利用者との面接を適切に行うことができる。	○	○
51611	ソーシャルワーク演習（専門）Ⅰ	2	II	事例を読み解いて、問題の所在を指摘したり、解決方法を提案することができる。	○	○	○	先行事例における援助プロセスについて、問題点や課題を指摘することができる。		○	○	個々の事例について、活用できる社会資源を提案することができる。	○	○	○	自らがかわった事例について、適切に記録し説明することができる。	○	○	困難事例であっても解決の方策を提案することができる。	○	○
51621	ソーシャルワーク演習（専門）Ⅱ	2	III	コミュニティワークの展開過程や援助原則について具体的に説明することができる。	○			演習事例を読み込み、問題点や課題を指摘することができる。	○	○		演習を通して学ぶことによって、地域援助技術を用いた課題解決方法について提案することができる。	○	○	○						
51631	ソーシャルワーク演習（専門）Ⅲ	2	III	相談援助にかかわる価値・知識・技術について、具体的に説明することができる。	○	○	○	援助を概念化・理論化し、体系立てて説明することができる。	○	○		エンゲージメント・アセスメント・プランニングなどの相談援助技術および、その過程で必要な面接技術を習得し、適切に実行することができる。	○	○	○						
51641	ソーシャルワーク演習（専門）Ⅳ	2	III	実習体験をもとにした事例を完成させ説明できる。	○	○	○	社会福祉士に求められる価値・知識・技術を統合化し応用することができる。	○	○		演習に積極的に参加することで、視野を広げ、多角的な視野で事例検討ができる。	○	○	○						
51661	ソーシャルワーク実習	6	II III	ソーシャルワークの基盤と方法・ソーシャルワークの理論と方法で学んだ知識・技術を現場で活用することができる。	○			福祉現場の課題について、解決策を提案することができる。	○			利用者への支援計画を立案することができる。	○	○		「社会福祉士の倫理綱領」にそった援助をすることができる。	○	○	実践を記録にまとめることができる。	○	○
51685	ソーシャルワーク実習指導	3	II III	大学で学んだ知識、技術をソーシャルワーク実習の具体的な体験で理解することができる。	○	○	○	ソーシャルワーカーを目指すにあたっての課題を明らかにすることができる。	○	○		社会福祉の制度や理論を、現場の実態のなかで具体的に取り上げることができる。	○	○	○	「社会福祉士の倫理綱領」を理解し説明することができる。	○	○	実習に関連する計画書・報告書を作成することができる。	○	○
51710	介護理論及び介護技術	2	II III	介護の知識と方法について説明することができる。	○	○	○	介護のあり方について、双方向性を理解したうえで考察し、記述することができる。	○	○		介護の基礎的な技術を習得し実践できる。	○	○	○	実技や見学実習において、メンバーと積極的に協働することができる。					
51750	社会福祉総合実習	2	III	利用者支援を通して、コミュニケーション能力の向上や教育者としての責任感を高める。	○	○	○	介護も含めた福祉実践について理解を深め、それを適切に整理し伝えていく力を身につける。	○	○											
51800	こころからだの理解Ⅰ	2	I	根拠に基づいた介護の実践を行うために必要な身体構造や心身機能の基礎について概要を説明できる。	○			日常生活動作の基本的な知識をもって、自立に向け安全に介護するための方法を説明できる。	○	○											
51810	こころからだの理解ⅠⅠ	2	II	ICFについて説明できる。	○	○	○	老化による心身機能や心理的影響が説明できる。	○	○		認知症の概要を理解し支援方法の留意点がわかる。	○	○		障がい児・者の特性を説明できる。	○	○			
52005	生活経営学	2	I	1.身近な生活課題を経営・経済的知識を活用して理解し、それらを論理的、構造的に説明することができる。	○			2.自らが生きる社会を鳥瞰したうえで、生活目標を設定し、合理的かつ戦略的にそれを実現する方法を見つけ出すことができる。	○	○		3.単に自己の利益のみを追求するのではなく、地域社会との共生を包摂した独自のウェルビーイング（よい生き方）像を創りあげることができる。	○	○	○	4.授業内でディスカッションの機会が設けられた場合、積極的に発言しつつ、時間内に意見を取りまとめるなど、リーダーシップ、メンバーシップを発揮することができる。	○	○			

各授業科目の到達目標と学科のディプロマ・ポリシーとの関係

授業コード	授業科目	単位数	配当年次	到達目標1				到達目標2				到達目標3				到達目標4				到達目標5									
				到達目標1	知識・技能	思考・判断・表現力	主体性	到達目標2	知識・技能	思考・判断・表現力	主体性	到達目標3	知識・技能	思考・判断・表現力	主体性	到達目標4	知識・技能	思考・判断・表現力	主体性	到達目標5	知識・技能	思考・判断・表現力	主体性						
52015	現代経営学	2	I II III IV	1.企業経営で用いられている、目的を達成するための様々な戦略ツールや理論を理解し、具体的な経営課題に対して活用することができる。	○	○			2.様々な組織における経営課題を、経営学的な視点から論点を導き出し、適切な対処方法を明らかにすることができる。	○	○			3.自らが、企業が提供する財・サービスの需要者（消費者）であり、かつ将来企業などの組織でキャリアを積み上げる者であることを自覚し、様々な場面の対処に関して合理的な判断を行うことができる。	○	○	○	○	4.授業内でディスカッションの機会が設けられた場合、積極的に発言しつつ、時間内に意見を取りまとめるなど、リーダーシップ、メンバーシップを発揮することができる。	○	○	○							
52020	生活経営学特講	2	III IV	1.マクロ経済学の基本である国民経済計算の内容を理解し、その実態に関しデータと比較しながら的確な評価を加えることができる。	○	○			2.マクロ経済モデルを理解し、財政政策、金融政策の効果について分析できるとともに、現状（実際）の景気状況に関する改善策を具体的、説得的に提案することができる。	○	○			3.数学的なモデルの解析を理解し、かつ道具として、実際のデータを用いてシミュレーションするなど使いこなすことができる。	○	○			4.授業内でディスカッションの機会が設けられた場合、積極的に発言しつつ、時間内に意見を取りまとめるなど、リーダーシップ、メンバーシップを発揮することができる。	○	○	○							
52040	家族関係学	2	II III	現代社会における家族関係の諸問題について倫理的・人間論的視点から理解し、説明することができる。	○	○			自己自身の家族観を見つめ直すことを通じて、家庭生活という場や、そこにおける関わりに固有の意義や豊かさについて考察し、論じることができる。	○	○	○																	
52043	ミクロ経済学	2	I II	1.経済学の基本的考え方と分析ツールを理解し、説明できる。	○				2.現実の社会問題を経済学の視点から分析でき、解決策を提示できる。	○	○	○																	
52046	マクロ経済学	2	II	1.マクロ経済学の基本である国民経済計算の内容を理解し、その実態に関しデータと比較しながら的確な評価を加えることができる。	○	○			2.マクロ経済モデルを理解し、財政政策、金融政策の効果について分析できるとともに、現状（実際）の景気状況に関する改善策を具体的、説得的に提案することができる。	○	○			3.数学的なモデルの解析を理解し、かつ道具として、実際のデータを用いてシミュレーションするなど使いこなすことができる。	○	○			4.授業内でディスカッションの機会が設けられた場合、積極的に発言しつつ、時間内に意見を取りまとめるなど、リーダーシップ、メンバーシップを発揮することができる。	○	○	○							
52050	環境資源経済学	2	III IV	環境・資源問題が発生するメカニズムを理解し、説明できる。	○	○			現実の環境・資源問題を解決する対策を提言できる。	○	○	○																	
52053	国際経済学	2	III IV	なぜ貿易が起きるのかを説明できる。	○				貿易政策がどのような影響をもたらすのかを具体的事例に基づいて分析できる。	○	○	○																	
52055	生活経済学	2	II III IV	1.生活に身近な現象の背景にある経済構造や機能を、経済理論のフレームワークを用いて説明することができる。	○	○			2.現実の経済の動きを把握し、自らの生活を充実させるための基礎的知識として活用できる。	○	○	○		3.個人の生活と経済現象を結び付け、社会的課題に積極的にいかかわるための方法論を、自分の言葉で表現することができる。	○	○	○	○	4.授業内でディスカッションの機会が設けられた場合、積極的に発言しつつ、時間内に意見を取りまとめるなど、リーダーシップ、メンバーシップを発揮することができる。	○	○	○							
52060	現代経済学	2	IV	1.現代的な経済課題に対する幅広い知識を持ちつつ、自分の考えにこだわらず多様な解釈をすることができる。	○	○			2.関心のあるテーマについて調査し、それを自発的に論点を見つけたうえで、参加者に分かりやすくプレゼンテーションすることができる。	○	○	○		3.グループディスカッションの目的を認識し、適切な役割を理解したうえで積極的に参加することができる。	○	○	○												
52074	広告デザイン演習	2	IV	現代広告について、多様な学術的視座による知見を説明できる。	○				広告のデザインや表現に関する研究テーマに基づき適切な方法論により分析できる。	○	○			広告のデザインや表現について自身の関心や研究テーマに基づき実証調査を遂行できる。	○	○	○												
52076	マーケティングコミュニケーション論	2	III IV	マーケティング・コミュニケーションに関する基本的知識や理論を説明できる。	○				マーケティング・コミュニケーションに関する実践的な戦略を立案できる。	○	○			講義で説明した事例や自身が立案したマーケティング・コミュニケーション戦略などについて、他の受講者とディスカッションできる。	○	○	○												
52078	マーケティング論I	2	I II III IV	マーケティングに関する基礎的な知識を身につける。	○				マーケティングの基本的な理論や概念について説明することができる。	○	○			日常生活において、またインターネットや新聞記事を通じて、企業のマーケティング活動に興味・関心を持つ。	○	○	○	○	企業のマーケティング活動の事例について、マーケティングの概念と結び付けて考え、論じることができる。	○	○	○							
52079	マーケティング論II	2	II III IV	マーケティングに関する基礎的な知識を身につける。	○				マーケティングの基本的な理論や概念について説明することができる。	○	○			日常生活において、またインターネットや新聞記事を通じて、企業のマーケティング活動に興味・関心を持つ。	○	○	○	○	企業のマーケティング活動の事例について、マーケティングの概念と結び付けて考え、論じることができる。	○	○	○							
52080	被服学 I	2	I	被服の時代性や地域性について理解し、説明できる。	○	○			被服の素材や製造、管理と環境との関わりなどの基本的な知識を理解し、被服について総合的に説明することができる。	○	○			被服の社会的な役割を理解し、TPOやライフステージに応じた被服の選択について説明できる。	○	○	○	○	衣生活の変化に関心を持ち、これからの衣生活のありかたを提案できる。	○	○	○							

各授業科目の到達目標と学科のディプロマ・ポリシーとの関係

授業コード	授業科目	単位数	配当年次	到達目標1			到達目標2			到達目標3			到達目標4			到達目標5								
				到達目標1	知識・技能	思考・判断・表現力	主体性	到達目標2	知識・技能	思考・判断・表現力	主体性	到達目標3	知識・技能	思考・判断・表現力	主体性	到達目標4	知識・技能	思考・判断・表現力	主体性					
52081	応用マーケティング論	2	IV	マーケティングとブランドとの関係を説明できる	○	○	○	自身の研究テーマあるいは興味とブランドとの関連が説明できる	○	○	○	自身が興味を持った商品についてブランド経営の視点で説明できる	○	○	○	ブランドについてプレゼンテーションおよびディスカッションすることができる	○	○	○	他者のブランドについてのプレゼンテーションに対して質問することができる	○	○	○	
52082	ブランド論	2	II III IV	ブランドの基本的な知識や理論を説明できる。	○	○	○	市場や顧客・商品/サービスに関する分析を行うことができる。	○	○	○	ブランドの基本的な事例研究から、基本的な課題発見や戦略立案ができる。	○	○	○									
52083	情報技術論	2	IV	経営シミュレーションの有用性と限界について説明できる	○	○	○	「待ち行列」などのモデルをExcelで作成し、シミュレーション実行できる	○	○	○	エージェントベースモデルを使ったシミュレーションの意義を説明できる	○	○	○	「囚人のジレンマ」のモデルをPythonで作成、シミュレーション実行できる	○	○	○					
52084	マーケティングリサーチ論	2	III IV	適切なグラフを作成することができる	○	○	○	分析手法について簡潔に説明することができる	○	○	○	多様な分析を行うことができる	○	○	○	目的に合った質問票を作成することができる	○	○	○					
52085	ビジネス情報処理I	2	II III IV	統計学について基本的なことが概説できる。	○	○	○	表計算ソフトを用いてデータを整理できる。	○	○	○	表計算ソフトで算出された結果を説明できる。	○	○	○									
52086	ビジネス情報処理II	2	III IV	記述統計について基本的なことが概説できる。	○	○	○	表計算ソフトを用いて多変量解析をすることができる。	○	○	○	多変量解析結果の解説ができる。	○	○	○									
52090	被服学 I I	2	III IV	繊維製品の手入れ、保存、管理の基本となることを理解して正確に説明できる。	○	○	○	洗剤及び洗濯方法について正しく説明できる。	○	○	○	繊維製品の染色方法を理解し、その取り扱いについて説明することができる。	○	○	○	自らの被服管理について課題や改善点を的確に判断し、日常生活に反映させることができる。	○	○	○					
52096	ビジネスマナー	2	I II	ビジネスマナーの必要性を理解し、説明することができる。	○	○	○	最低限必要なビジネスマナーが実践できる。	○	○	○	好感のもてるコミュニケーション能力を身につけることができる。	○	○	○									
52100	衣科学	2	II III	繊維（天然、再生、半合成、合成繊維）の性質について理解し、説明することができる。	○	○	○	糸や織物、編み物などの被服材料の構造や性質について理解し、説明することができる。	○	○	○	被服に付けられている表示を理解し、説明できる。	○	○	○	被服材料の特徴や性質等を総合的に判断して、着用目的に適応した被服を提案できる。	○	○	○					
52113	インターンシップ実践I	2	II	予想される社会構造の変化と自らのキャリア形成の関係について他者に表明することができる。	○	○	○	正解を1つに定めることができない課題に対して自らの仮説によって結論を定めることができる。	○	○	○	他者の考えに対して謙虚に耳を傾け、尊重しながら受け止めようとして、自らの意見を表明することができる。	○	○	○	自分自身のキャリアの方向性と実現に向けた課題について表現することができる。	○	○	○					
52115	インターンシップ実践II	2	III	1.課題解決プロジェクトへの参加において、キャリア選択やインターンシップが必要とされる、思考や判断ができ、伝えるべき内容を適切に表現することができる。	○	○	○	2.課題解決プロジェクトへの参加経験を活かし、他の様々な課題に対しても主体的、積極的に取り組むことができる。	○	○	○	3.これから必要とされる、キャリア選択やインターンシップ実践を適切にこなすための知識や技能が身につく、それを活用することができる。	○	○	○									
52122	被服実習基礎I	1	II	被服設計の基本事項を理解し、被服設計に必要な人体計測ができる。	○	○	○	被服の構成を理解し、被服の仕組みと制作工程が説明できる。	○	○	○	基本的な縫製知識・技術を理解し、正しい縫製工程で正確な縫製ができる。	○	○	○									
52126	被服実習基礎II	1	II	被服設計の基本事項を理解し、被服設計に必要な人体計測ができる。	○	○	○	被服の構成を理解し、被服の仕組みと制作工程が説明できる。	○	○	○	基本的な縫製知識・技術を理解し、正しい縫製工程で正確な縫製ができる。	○	○	○									
52132	被服実習発展I	1	III	被服の様々な製図方法を理解し、原型を用いた製図ができる。	○	○	○	被服デザインに適応した被服材料の選択ができる。	○	○	○	被服の構成を理解し、被服の仕組みと制作工程を説明することができる。	○	○	○	被服制作に必要な縫製技術を理解し、適した縫製方法を選択して制作することができる。	○	○	○					
52134	被服実習発展II	1	III	被服の様々な製図方法を理解し、原型を用いた製図ができる。	○	○	○	被服デザインに適応した被服材料の選択ができる。	○	○	○	被服の構成を理解し、被服の仕組みと制作工程を説明することができる。	○	○	○	被服制作に必要な縫製技術を理解し、適した縫製方法を選択して制作することができる。	○	○	○					
52142	被服実習発展III	1	III IV	和服（ひとえ長着）を扱うための布の特徴、用布量を理解し、自分に合った反物を準備できる	○	○	○	各自の体型を理解し、適切な採寸に基づいた裁断、しるし付けができる	○	○	○	和服の構成を理解した上で、縫製することができる	○	○	○	縫い方の種類と違いを正しく理解し、縫い進めることができる	○	○	○	縫い上げた和服（ひとえ長着）に適した和装小物を組み合わせ、自分で着装することができる	○	○	○	○
52145	調理学	2	I	食品の特性及び調理による食品の科学的变化を説明することができる。	○	○	○	調理による食品の科学的变化を踏まえ、調理の工夫や改善方法を示すことができる。	○	○	○													
52157	調理実習基礎I	1	II	調理操作による食品の変化を理解し、科学的な視点から説明できる。	○	○	○	調理技術の基礎を活かして調理できる。	○	○	○	計画に沿って協働しながら、安全や衛生に配慮して実験実習に取り組める。	○	○	○	実験実習を振り返り、課題を明確にして改善策を示すことができる。	○	○	○					
52159	調理実習基礎II	1	II	調理操作による食品の変化を理解し、科学的な視点から説明できる。	○	○	○	調理技術の基礎と応用を活かして調理できる。	○	○	○	計画に沿って協働しながら、安全や衛生に配慮して実験実習に取り組める。	○	○	○	実験実習を振り返り、課題を明確にして改善策を示すことができる。	○	○	○					

各授業科目の到達目標と学科のディプロマ・ポリシーとの関係

授業コード	授業科目	単位数	配当年次	到達目標1			到達目標2			到達目標3			到達目標4			到達目標5					
				到達目標 1	知識・技能	思考・判断・表現力	主体性	到達目標 2	知識・技能	思考・判断・表現力	主体性	到達目標 3	知識・技能	思考・判断・表現力	主体性	到達目標 4	知識・技能	思考・判断・表現力	主体性		
52172	調理実習発展I	1	III	様式別の献立に沿った調理計画を立てることができる。		○		調理技術を活かして様式別の調理や食卓づくりができる。	○			調理計画に沿って協働しながら安全や衛生に配慮して主体的に実習に取り組むことができる。		○		実習を振り返り、課題の改善策や応用例を検討することができる。		○			
52173	調理実習発展II	1	III	様式別の献立に沿った調理計画を立てることができる。		○		調理技術を活かして様式別の調理や食卓づくりができる。	○			調理計画に沿って協働しながら安全や衛生に配慮して主体的に実習に取り組むことができる。		○		実習を振り返り、課題の改善策や応用例を検討することができる。		○			
52175	栄養学	2	II III	栄養素と食品の関わりについて説明できる	○			食物の消化・吸収のしくみについて説明できる	○			栄養素の種類と働きについて説明できる	○	○		バランスのとれた食事について説明できる	○	○	○	食品成分表を用いて栄養価を算出できる	
52195	食品学	2	III IV	日常的に摂取される代表的な食品の特徴を説明できる	○			食品表示の内容を理解し、食品を選択できる	○	○		食品成分表を活用できる	○	○	○	食品衛生法、食品安全基本法等の法令を理解し、食品の変質や食中毒の発生機序などについて説明できるようになる					
52210	生活環境学 I	2	I II III IV	1. 瀬戸内地域の環境の現状と課題を理解し、説明することができる。	○	○		2. 環境問題の原因とメカニズムを説明することができる。	○	○		3. 持続的で豊かな生活環境を維持するために何が必要かを判断し、行動に移すことができる。		○	○						
52220	生活環境学 I I	2	II III IV	1.水島の公害について多面的な視点で学び、被害者・加害者双方の立場から説明することができる。	○	○		2.企業・行政が公害を経験しどのように環境対策をしているかを学び、自分が直面した時に判断できる。	○	○	○	3.現在の水島の問題を知り、過去の歴史とどう結びついているのかを理解し、説明できる。		○	○	○	4.和解を通し、どのような協力関係を結ぶことが重要であるかを知り、説明することができる。	○	○		5.将来の企業人・地域人として、このような問題を未然に防ぐため必要な倫理や取組を考え、応用することができる。
52260	環境デザイン論	2	III IV	1.西洋建築の様式・造形原理の歴史的な変遷を説明できる。	○	○		2.日本の歴史的な住まいや環境の特徴についてグローバルな視点から説明できる。	○	○		3.日本の歴史的環境を評価できる。	○	○		4.快適な都市生活を送る上での都市環境の重要性を理解し、まちづくりに係る様々な考え方を評価できる。	○	○	○	5.現代の住まいと環境を批判的に考察し、これからの環境デザインについて考え提言できる。	
52270	住居学	2	II III	1.日本の住まいの歴史的な変遷を説明できる。	○	○		2.住まいの計画について評価できる。	○	○	○	3.将来の自分が住まう住居の在り方について、考えを説明できる。		○	○	○	4.これからの新しい住まい方について提案できる。	○	○	○	
52282	住居計画学I	1	III IV	基本的な住宅図面を作成することができる。	○	○		住居計画に関わる様々な問題を整理分析して目標を設定することができる。	○	○	○	自らが考えるこれからの住まいのあり方について、図面を用いて表現できる。		○	○	○	自らが考えるこれからの住まいのあり方についてプレゼンテーションし、的確に質疑応答ができる。	○	○		
52284	住居計画学II	1	III IV	基本的な住宅図面を作成することができる。	○	○		住居計画に関わる様々な問題を整理分析して目標を設定することができる。	○	○	○	自らが考えるこれからの住まいのあり方について、図面を用いて表現できる。		○	○	○	自らが考えるこれからの住まいのあり方についてプレゼンテーションし、的確に質疑応答ができる。	○	○		
52290	住環境学	2	II III IV	1.住環境を守る法律について説明できる。	○			2.高齢社会における住環境づくりについて提言できる。	○	○	○	3.住まいづくりの変遷から、将来の住まいの在り方について提言できる。		○	○	○	4.多岐にわたる住環境問題・都市問題を理解し、次の時代にふさわしい住まいづくり・まちづくりについて提言できる。	○	○		
52301	食生活論	2	I II III IV	食生活の歴史をふまえて、食の多様性を説明することができる。	○	○	○	日本人の伝統的な食文化を説明することができる。	○			食生活に興味をもち、食事の楽しさを記述することができる。	○	○	○	関連分野の研究事例を引用できる。	○	○			
52311	食経営論	2	II III IV	食料の生産から消費までの流れを示す「フードシステム」の概念を説明できる。	○	○		自分の食生活がフードシステムの中でどのように位置づけられ、影響を受けているのかを説明できる。		○	○										
52321	食政策論	2	III IV	食料に関する政府関係の公表資料を自分で入手し、読みこなすことができる。	○		○	FTAやTPPなどの国際的な貿易交渉に関するマスメディアの報道を理解し、交渉の結果が自分の生活に及ぼす影響のメリット、デメリットを判断できる。	○	○	○	日本の食料・農業がおかれている状況を理解し、自分なりの問題解決案を提示できる。		○	○						
52331	比較食文化論	2	II III IV	食文化の多様性を説明することができる。	○	○	○	日本人の食文化の成り立ちを説明することができる。	○			固有な食文化を多面的に考察し、特徴を記述することができる。	○	○	○	関連分野の研究事例を引用できる。	○	○			
52400	保育学	2	II III	①保育の理論及び乳幼児の特性について理解を深め、保育において大切にすべきことを記述できる。	○	○		②現代社会における保育の諸問題について考え、説明できる。	○	○	○	③演習を通して乳幼児に対する関わり方がわかり、実行できる。		○							
52410	家庭機械及び家庭電気	2	II III IV	身の回りの機械や製品の仕組みや構造について理解し、説明することができる。	○	○		主体的に課題意識を持ち、解決するための方法を探索しまとめることができる。	○	○	○	課題を解決するために、情報手段を適切に活用し、目的に応じた情報の収集・加工・表現を行うことができる。		○	○						
52416	生活情報処理	2	I II III IV	情報機器やネットワークの基礎的なことを理解し、説明できる。	○			プレゼンテーションの素材(表、グラフ、画像、図など)を作ることができる。	○	○	○	ウェブページを作成できる。	○	○	○	PowerPointを利用してわかり易い発表ができる。	○	○	○		

各授業科目の到達目標と学科のディプロマ・ポリシーとの関係

授業コード	授業科目	単位数	配当年次	到達目標1			到達目標2			到達目標3			到達目標4			到達目標5							
				到達目標 1	知識・技能	思考・判断・表現力	主体性	到達目標 2	知識・技能	思考・判断・表現力	主体性	到達目標 3	知識・技能	思考・判断・表現力	主体性	到達目標 4	知識・技能	思考・判断・表現力	主体性				
52430	家庭科教育法Ⅰ	2	Ⅱ	家庭科の目標や内容を理解するとともに、学習内容に対応した指導上の留意点や学習評価の考え方を理解して教材研究に活用することができる。	○	○	○																
52440	家庭科教育法ⅠⅠ	2	Ⅲ	個別の学習内容について指導上の留意点を考察することができるとともに、発展的な学習内容を探究し学習指導への位置付けを考察することができる。	○	○	○																
52500	家庭看護学	2	ⅡⅢⅣ	身体的・精神的症状に関する家庭での看護を理解できる。	○	○	○	家庭看護の基本的な看護技術について説明でき、実行できる。1. 体温・呼吸・脈拍・血圧測定2. 身体の清潔・更衣3. 包帯法4. 救急処置	○	○	○	家庭で起こりやすい事故について発達段階をふまえ理解し、それに対しての安全教育を行うことができる。	○	○	○	家庭看護学の視点から現代社会の様々な健康課題について考察ができる。	○	○	○				
53000	卒業論文	6	ⅢⅣ	1. 人間生活学科の卒業論文としてふさわしい研究課題（リサーチ・クエストョン）を設定することができる。	○	○	○	2. 研究に必要な文献・資料的的確な収集と分析（テーマによっては実践活動による研究データの収集）を行うことができる。	○	○	○	3. 論理的・批判的思考を用いて課題について適切に考察し、結論を導き出すことができる。	○	○	○	4. 研究内容を学術論文の形式で構成し表現することができる。	○	○	○	5. 研究成果について、定められたスケジュールに従って提出、発表することができる。		○	○

カリキュラムマップ

年度	2024年度
学部名	人間生活学部
学科名	児童学科

児童学科のディプロマ・ポリシー

<知識・技能> 児童学の6つの領域（心理学、インクルーシブ学、文化学、教育学、音楽、美術）の基礎的知識を習得し、そのうえで自ら選択した領域についての専門的探求を深めている。また、こうした理論的・実践的理解に基づき、人生の出発点にある子どもを教養育む者にふさわしい知識と技能を身につけている。	<思考・判断・表現力> 資料や情報を収集し、批判的に読み解くことによって、また子どもと関わる実践において状況を多面的に理解することによって、新たな理解を生み出す思考力をもっている。こうした探求を遂行するための論理的思考力、実践的判断力と、その成果を他者に伝えていく表現力を身につけている。また、自らの理解や実践を振り返り、現実を改善していこうとする省察的な思考力を身につけている。	<主体性> 児童学において自らのテーマを探究することを通して、生涯にわたる知的・実践的探求を進めていくための基本的な学ぶ姿勢を育んでいる。児童学の学びや子どもと出会う体験を通して、現代の教育現場における様々な課題を理解し探求していこうことができる。また、ディスカッションを通して、主体的に学び、他者との対話の中で理解を深めていくことができる。子どもに対して共感と敬意をもち、人間の多様なあり方を尊重しながら、自ら学びを深めたり、共に学び育ち合ったりすることのできる態度をもっている。
--	---	--

児童学科のカリキュラム・ポリシー

<知識・技能> 1年次必修の「基礎科目」においては、児童学の6つの領域（心理学、インクルーシブ学、文化学、教育学、音楽、美術）について学ぶ。また、「総合演習」の少人数グループにおいて、研究・調査方法の基礎を学び、プレゼンテーションやディスカッションに主体的に取り組む中で学び方を修得する。1.2年次では、学生自身の関心に基づいて自らの研究テーマを見出せるよう、6つの領域の講義を幅広く学ぶことで、それらの基礎的な知識を身につける。	<思考・判断・表現力> 3年次以降は、「児童学演習」を中心に様々な科目を通して、自ら主体的に資料や情報を収集し、少人数でのディスカッションを通してテーマを探究する。また、6つの領域から1つを選択し、各研究室のゼミに所属する。「児童学演習」及び「卒業論文（卒業研究）」を通して、当該領域における専門的な研究方法と実践方法を修得する。4年次の終わりには卒業論文（または制作、演奏）を完成させ、発表する。これらの探求を通して、思考力・判断力・表現力等の能力を身につける。	<主体性> 上記のような講義や演習、少人数でのディスカッション等に加えて、本学科では1年次より、附属小学校・幼稚園でのボランティア実習をはじめ、通常の講義の枠組みを超えた体験の機会を用意している。2年次以降には、教職・保育職にかかわる実習（「初等教育実習」「特別支援教育実習」「保育実習」等）により、教員・保育士に求められる実践知を修得する。実習を通して子どもの実際の姿に触れて学ぶことは、児童学に関する他の科目を学ぶうえでも有機的に生かされる。これらを通して体験的な学びを支援することで、子どもへの理論的・実践的理解を固り、より深く学ぶ姿勢を育む。他者とかわかり、協働しながら探求を深める体験を重ねることで、主体性をもって多様な人々と協働して学ぶ態度を修得する。
--	---	---

各授業科目の到達目標と学科のディプロマ・ポリシーとの関係

授業コード	授業科目	単位数	配当年次	到達目標1				到達目標2				到達目標3				到達目標4				到達目標5										
				知識・技能	思考・判断・表現力	主体性	知識・技能	思考・判断・表現力	主体性	知識・技能	思考・判断・表現力	主体性	知識・技能	思考・判断・表現力	主体性	知識・技能	思考・判断・表現力	主体性												
80110	総合演習Ⅰ	2	I	演習形式の授業に慣れる。	○	○	○	研究課題を通して、視野を広げ、問題点を見つげることができる。	○	○	○	他者の意見を聞き、自分の考えを表明することができる。	○	○	○	自らが調べた内容について、論理的で分かり易く、説得力のあるレポート作成をすることができる。	○	○	○											
80200	総合演習ⅠⅠ	2	I	演習形式の授業に慣れる。	○	○	○	研究課題を通して、視野を広げ、問題点を見つげることができる。	○	○	○	他者の意見を聞き、自分の考えを表明することができる。	○	○	○	自らが調べた内容について、論理的で分かり易く、説得力のある発表やレポート作成等を行うことができる。	○	○	○											
80300	心理学概論	2	I	心理学とはどのような学問かを説明することができる。	○	○	○	人間の心への興味と理解を深め、日々の生活をよりよいものにするための実践ができる。	○	○	○	心理学の学習を通して、教育者・保育者・養育者になるための意欲を持つことができる。	○	○	○															
80500	教育原理	2	I	教育の理念や概念について、一般的に体系化された教育理論を理解するとともに、歴史や思想について把握し、これまでの教育や学校の営みを理解する。また、具体的な社会や人々の姿を反映させて教育課題を考えていき、これらの社会を切り拓く教育像を考える力を養うことを目標とする。																										
80600	児童文化論Ⅰ	2	I	1.現代のメディア文化のなかで育ってきたことの意味とそこに潜む問題について認識し、世間の風潮に流されることのない判断力を持つ	○	○	○	2.子どもの本の現状を理解し、絵本や児童書についての深い洞察力を持つ	○	○	○	3.わらべうたや、様々な児童文化財についての基本的な理解ができ、実際に子どもたちの前で実践できる	○	○	○															
80710	音楽基礎	2	I	基本的な楽譜の読み書きができる。	○	○	○	音楽の諸要素を理解した上で、移調や旋律の和音付けを実施することができる。	○	○	○	楽譜を見て音程通り、リズム通りに正しく歌うことができる。	○	○	○															
80800	美術基礎	2	I	美術の基礎を通して表現、鑑賞することの楽しさを味わう事が出来る。		○	○	基礎的な技術の向上をはかることができる。	○																					
81000	児童学演習Ⅰ	2	III	心理学関連の卒業論文作成に必要なとされる研究能力の基礎として、文献検索、文献読解、文献批判等ができる。	○	○	○	雑誌論文を講読し、心理学領域の幅広い研究テーマに触れ、それぞれの心理学論文の概要を説明できる。	○	○	○	授業を通して、各自の研究テーマの絞り込みができる。	○	○	○	科学的・論理的な考え方を身につけ、調査データについて説明することができる。	○	○	○											

各授業科目の到達目標と学科のディプロマ・ポリシーとの関係																				
授業コード	授業科目	単位数	配当年次	到達目標1			到達目標2			到達目標3			到達目標4			到達目標5				
				到達目標1	知識・技能	思考・判断・表現力	到達目標2	知識・技能	思考・判断・表現力	到達目標3	知識・技能	思考・判断・表現力	到達目標4	知識・技能	思考・判断・表現力	到達目標5	知識・技能	思考・判断・表現力		
81100	児童学演習Ⅰ	2	Ⅲ	心理学関連の卒業論文作成に必要とされる研究能力の基礎として、文献検索、文献読解、文献批判等ができる。	○	○	○	雑誌論文を講読し、心理学領域の幅広い研究テーマに触れることができる。	○	○	○	授業を通して、各自の研究テーマの絞り込みができる。	○	○	○	科学的・論理的な考え方を身につけ、調査データについて説明することができる。	○	○	○	
81210	心理学実験演習Ⅰ	2	Ⅱ	心理学の実験的手法を通して、心理学研究法の基礎を学ぶことができる。	○	○	○	データの分析やレポートを通して、論理的思考力を身につけるとともに、論理的に表現することができる。	○	○	○	実験レポート（論文）の書き方の基礎やデータの処理方法を理解し、応用することができる。	○	○	○					
81260	心理学実験演習Ⅰ	2	Ⅱ	心理学の実験的手法を通して、心理学研究法の基礎を学ぶことができる。	○	○	○	データの分析やレポートを通して、論理的思考力を身につけるとともに、論理的に表現することができる。	○	○	○	実験レポート（論文）の書き方の基礎やデータの処理方法を理解し、応用することができる。	○	○	○					
81300	心理教育統計	2	Ⅱ	統計的なものの見方・考え方を身につけることができる。	○	○	○	心理学研究法に関する基礎知識を身につけることができる。	○	○	○	どのような場合にどのような検定を使用すべきかを判断できるようになる。	○	○	○					
81440	福祉心理学	2	ⅢⅣ	家族・家庭の意義や機能を理解し、説明することができる。	○	○	○	親子関係や家族関係等について発達の・心理臨床学的な観点から理解し、子どもとその家庭を包括的に捉えた視点を習得し提示することができる。	○	○	○	子育て家庭をめぐる現代的社会的状況と課題について理解し、福祉現場において生じる問題及びその背景について説明できるとともに、その心理的な支援について考え、提示することができる。	○	○	○	虐待、心的外傷後ストレス障害について説明できる。	○	○	○	
81450	社会心理学	2	ⅢⅣ	社会心理学という学問の特徴と位置づけを述べることができる。	○	○	○	社会心理学で扱われる諸概念を、具体的な事例と関連づけて説明することができる。	○	○	○	社会心理学の研究手法の一つである実験について、その設計やデータの収集方法を説明することができ、また結果の図表を正しく読み取ることができる。	○	○	○	社会心理学の知見を、現代社会に生じる具体的な事象の説明に応用することができる。	○	○	○	個人の行為と社会現象との関係を説明することができる。
81500	心理学特講Ⅰ	2	Ⅱ	1.認知心理学の代表的な研究知見を知ることができる	○	○	○	2.認知心理学の理論や方法論を学ぶことができる	○	○	○	3.認知心理学の基礎用語について説明できるようになる	○	○	○					
81510	心理学特講Ⅰ	2	ⅡⅢ	心理学における研究方法の基礎を学ぶことで、心理学についての理解を深め、それぞれの研究方法について説明できる。	○	○	○	科学的な考え方を身につけ、研究テーマに基づいて研究方法を適切に選択することができる。	○	○	○									
81750	児童教育学特講Ⅰ	2	Ⅳ	○教育理論と実践をつないで、「何をすべきか」「どのようにすべきか」を具体的に考えることができる。	○	○	○	○模擬授業（保育）、模擬学級経営などの実践を通して、学校現場で担任になったときの方策を身に付けることができる。	○	○	○									
81850	児童文化論Ⅰ	2	Ⅰ	保育・教育現場において、読み聞かせをすることの意義を説明できる	○	○	○	絵本の基本構造やジャンルごとの特徴を理解し、子どもに手渡す適切なものを選択することができる	○	○	○	児童文化に関する教材の作成・実践等を通じ、自らの実践力をつける	○	○	○					
81860	児童文化論Ⅲ	2	ⅡⅢⅣ	子どもにとっての「わらべうたの必要性」について記述できる	○	○	○	わらべうたの内容を自分のものとし、子どもに伝えながら一緒に遊びを楽しむことができる	○	○	○	保育・教育者の立場として、子どもの発達段階や季節等に応じたわらべうたを選ぶことができる	○	○	○					
81900	児童文学	2	ⅡⅢⅣ	昔話の語りや、詩の朗読などを聞く中で、自らの「聞く力」を伸ばし、物語を楽しむとはどういうことか説明できる	○	○	○	児童文学作品に関心を持ち、積極的に読書する中で、子ども理解を深め、自分なりの意見を述べることができる。	○	○	○	絵本から児童文学への橋渡しの大切さを実感し、説明できる	○	○	○	幼児期の「遊び」と「お話体験」について理解を深め、教材を作成し実践できる	○	○	○	
81920	子どもと健康	1	Ⅱ	○幼児の心身の発達、基本的な生活習慣、安全な生活、運動発達などにおける幼児期の特徴や意義を理解し、それらを説明することができる。	○	○	○	○幼児の心身の発達、基本的な生活習慣、安全な生活、運動発達など、幼児期の特徴や意義について理解したことを、実際の保育の場面でどのように関連させていくことができるのかを話し合ったり、発表したりすることができる。	○	○	○	○幼児の心身の発達、基本的な生活習慣、安全な生活、運動発達など、幼児期の特徴や意義について学んだことと、ボランティアなどで経験したことを結びつけて、今後の自身の保育をどのように行っていきたいかについてまとめることができる。	○	○	○					

各授業科目の到達目標と学科のディプロマ・ポリシーとの関係																			
授業コード	授業科目	単位数	配当年次	到達目標1			到達目標2			到達目標3			到達目標4			到達目標5			
				到達目標1	知識・技能	思考・判断・表現力	到達目標2	知識・技能	思考・判断・表現力	到達目標3	知識・技能	思考・判断・表現力	到達目標4	知識・技能	思考・判断・表現力	到達目標5	知識・技能	思考・判断・表現力	
81930	子どもと人間関係	1	Ⅲ	・幼児を取り巻く人間関係をめぐる現代的課題を理解する。	○	○	・乳幼児期の人と関わる力の育ちと、集団生活における人間関係の育ちを総合的に理解する。	○	○										
81940	子どもと環境	1	Ⅲ	・幼児を取り巻く環境と幼児の発達との関係性やその意義を理解する。	○	○	・幼児期の施行・科学的概念の発達を理解する。	○	○	・標識や文字等、日常生活の中にある情報や施設等と乳幼児との関わりについて、幼児の発達と関連付けて理解する。	○	○							
81950	子どもと言葉	1	Ⅲ	1)人間にとっての言葉の意義や機能を理解する2)人間にとっての話言葉や書き言葉などの言葉の意義と機能について、説明できる	○	○	乳幼児の言葉の発達過程について、理解し説明できる	○	○	言葉に対する感覚を豊かにする実践について理解する	○	○	言葉の楽しさや美しさに気付き、言葉を豊かにする実践を、幼児の発達の姿を合わせて説明できる	○	○	○	1)幼児の発達における児童文化財の意義について理解する2)児童文化財について、基礎的な知識を身に付ける	○	○
81960	子どもと表現	2	Ⅲ	○領域「表現」における理念を踏まえ、幼児期の子どもの表現やその発達について説明することができる。	○	○	○領域「表現」のねらいや内容、理論を理解するとともに、子どもの表現の育ちを支える保育者の援助や環境構成を考え、記述することができる。	○	○	○自らが表現することを楽しみ、それを実現するための環境について分析することができる。	○	○							
82050	国語Ⅰ	2	Ⅱ	○国語科の目標と内容の構成について、系統的に学んでいくことで、何を旨とする教材なのかを理解することができる。	○	○	○教材研究の進め方を知り、実践することができる。			○国語科の指導に必要な知識・技術と素養を身に付けることができる。	○								
82100	国語ⅠⅠ	2	Ⅳ	○国語科を学ぶこと（学力観）について、自分なりの考えをもつことができる。	○	○	○「話すこと・聞くこと」「書くこと」「読むこと（文学教材・説明文教材）」の単元を構想して、授業のつくりかたを身につけることができる。	○	○	○漢字指導、ノート指導、音読指導など、日常の授業の中で出会うであろう諸問題について、具体的な指導の方策を身につけることができる。	○	○							
82150	書道	2	ⅢⅣ	文字教育の意義が説明できる。	○	○	正しい姿勢・執筆法が実行できる。	○	○	字形の整え方を理解し、演習・実技を通して用筆法を実行できる。	○	○	実技の結果について、自己評価・相互評価を実行できる。	○		○			
82200	社会	2	Ⅱ	・小学校社会科の目標・内容について理解し、概要を説明することができる。	○		・社会科の授業づくりに関する基礎的な知識や技能を習得し、それらを反映した学習指導案を作成することができる。	○	○										
82250	算数	2	Ⅱ	・算数科の目標と内容の構成について系統的に学んでいくことで、何を旨とする教材なのかを説明することができる。	○		・算数科の指導に必要な教材研究の方法を知り、実践することができる。		○	○									
82300	理科	2	Ⅱ	1 学習指導要領の理科の目標や内容について読み解き、学年ごとの観察、実験の特色や学年間の系統性について考えることができる。	○	○	2 めあてに対する予想やその根拠を考えた後、班内で協力して観察、実験を行い、考察を書くことができる。	○	○	3 観察、実験の基礎となる測定機器や観察・実験器具を安全かつ正確に操作することができる。	○	○	4 観察や実験をした後、教える立場の教師目線で考えたことを小レポートにまとめることができる。	○	○				
82340	生活	2	Ⅰ	・生活科創設の趣旨、目標、内容の構成について学んでいくことで、何を旨とする教材なのかを説明することができる。	○		・生活科の内容に関わる具体的な活動や体験を行う演習を通して、生活科の指導に必要な教材研究の方法を身に付けることができる。	○	○										
82450	音楽Ⅰ	2	Ⅱ	保育所・幼稚園や小学校で扱われることの多い歌唱教材について、ピアノ伴奏とともに歌うことができる。	○	○	保育所・幼稚園や小学校で使用する楽器を用いて、基本的な演奏方法を理解し、合奏することができる。	○	○	音の違い（強弱・リズム・音色等）に気づき、表現することができる。	○	○							
82500	音楽ⅠⅠ	2	Ⅱ	保育所・幼稚園や小学校で扱われることの多い歌唱教材について、ピアノ伴奏とともに音楽的な表現ができる。	○	○	音の違い（強弱・リズム・音色・ニュアンス等）に気づき、表現することができる。	○	○	各課題曲の音楽的要素について深く理解した上で表現することができる。	○	○							

各授業科目の到達目標と学科のディプロマ・ポリシーとの関係																													
授業コード	授業科目	単位数	配当年次	到達目標1			到達目標2			到達目標3			到達目標4			到達目標5													
				到達目標1	知識・技能	思考・判断・表現力	主体性	到達目標2	知識・技能	思考・判断・表現力	主体性	到達目標3	知識・技能	思考・判断・表現力	主体性	到達目標4	知識・技能	思考・判断・表現力	主体性	到達目標5	知識・技能	思考・判断・表現力	主体性						
82541	音楽III	2	III IV	楽譜を正確に読み、演奏することができる。	○	○	○	楽譜から音楽的な要素(強弱・リズム・音色・ニュアンス等)を読み取り、ふさわしい表現ができる。	○	○	○																		
82548	音楽IV	2	III IV	童謡・唱歌等子どもの周りにおける歌唱教材について、コード・ネームに基づいた伴奏付けができる。	○	○	○	子どもの動きに合わせて、既存の曲をアレンジしてピアノで弾くことができる。	○	○	○	童謡・唱歌等子どもの周りにおける歌唱教材について、歌詞や曲の性質に合った簡易伴奏を作ることができる。																	
82550	ピアノ演習I	2	II III	楽譜を正確に読み、演奏することができる。	○	○	○	楽譜から様々な要素を読み取り、作品にふさわしい表現ができる。	○	○	○																		
82600	ピアノ演習II	2	III IV	楽譜を正確に読み、演奏することができる。	○	○	○	音楽的な要素を活かしながら演奏することができる。	○	○	○	その曲にふさわしい音楽的な表現ができる。																	
82750	声楽演習I [20]	2	III	歌唱法の基礎となる正しい呼吸法や発声法を学び、実行できる。	○	○	○	音程やリズムなど、楽譜を正確に読み、正しく歌唱できる。	○	○	○	正確な日本語の発音方法を学び、詩をはっきりと伝えることができる。	○	○	○	外国語の意味を理解し、発音に気をつけながら歌うことができる。	○	○	○	楽譜・詩から内容を深く読み取ることができ、音楽的な表現ができる。	○	○	○						
82751	声楽演習I [23]	2	II III	歌唱法の基礎となる正しい呼吸法や発声法を学び、実行できる。	○	○	○	音程やリズムなど、楽譜を正確に読み、正しく歌唱できる。	○	○	○	正確な日本語の発音方法を学び、詩をはっきりと伝えることができる。	○	○	○	外国語の意味を理解し、発音に気をつけながら歌うことができる。	○	○	○	楽譜・詩から内容を深く読み取ることができ、音楽的な表現ができる。	○	○	○						
82810	声楽演習II	2	III IV	美しい声を出すための正しい呼吸法、発声法を深め、実行できる。	○	○	○	音程やリズムなど、楽譜を正確に読み、正しく歌唱できる。	○	○	○	詩の内容を理解し、発音に気をつけながら、歌唱することができる。	○	○	○	楽譜・詩から内容を深く読み取ることができ、その曲にふさわしい音楽的な表現ができる。	○	○	○										
82950	作曲演習 I	2	III	童謡・唱歌等子どもの周りにおける歌唱教材について、コード・ネームに基づいた伴奏付けができる。	○	○	○	子どもの動きに合わせて、既存の曲をアレンジしてピアノで弾くことができる。	○	○	○	童謡・唱歌等子どもの周りにおける歌唱教材について、歌詞や曲の性質に合った簡易伴奏を作ることができる。																	
83000	作曲演習 II	2	III	童謡・唱歌等子どもの周りにおける歌唱教材について、コード・ネームに基づいた伴奏付けができる。	○	○	○	子どもの動きに合わせて、既存の曲をアレンジしてピアノで弾くことができる。	○	○	○	童謡・唱歌等子どもの周りにおける歌唱教材について、歌詞や曲の性質に合った簡易伴奏を作ることができる。																	
83150	絵画I	1	I	絵画の基礎的な実習を通して表現することの楽しさを味わうことができる。	○	○	○	基礎的な技術の向上をはかることができる。	○																				
83200	絵画 II	1	III	絵画の基礎的な実習を通して表現することの楽しさを味わうことができる。	○	○	○	基礎的な技術の向上をはかることができる。	○																				
83250	絵画III	1	IV	絵画の基礎的な実習を通して表現することの楽しさを味わうことができる。	○	○	○	表現技術の向上を図ることができる。	○																				
83300	絵画 IV	1	IV	油絵、木炭デッサンを通して絵画表現について、知識、関心を深めることができる。	○	○	○	作品制作を通して自分の眼で観て考え表現することができる。	○	○																			
83310	表現と鑑賞の美術	1	IV	美術鑑賞を通して日本美術に関する専門的な知識を深めるとともに、鑑賞する姿勢(見方・感じ方)を学ぶことができる。	○	○	○	実技を通して表現することの楽しさを味わうとともに、技術の向上をはかることができる。	○			広い視野で芸術領域を俯瞰し、興味のある対象を見つけ、学びを深めることができる。	○	○	○														
83350	絵画 V	1	IV	美術鑑賞を通して日本美術に関する専門的な知識を深めるとともに、鑑賞する姿勢(見方・感じ方)を学ぶことができる。	○	○	○	実技を通して表現することの楽しさを味わうと共に、技術の向上をはかることができる。	○			広い視野で芸術領域を俯瞰し、興味のある対象を見つけ学びを深めることができる。	○	○	○														
83360	彫塑 I	1	II	1.頭像制作による造形表現を行い、彫塑作品を完成させることができる。	○	○	○	2.材料や道具の使い方や素材としての粘土や石膏について特質を理解し、状況に応じて正しく使用できる。	○	○		3.基本的な彫刻の歴史と造形要素を理解し応用できる。	○			4.幼児期の造形活動を学び、彫塑の本質的な意味について自分なりの考えを持つことができる。	○	○	○										

各授業科目の到達目標と学科のディプロマ・ポリシーとの関係																			
授業コード	授業科目	単位数	配当年次	到達目標1			到達目標2			到達目標3			到達目標4			到達目標5			
				到達目標1	知識・技能	思考・判断・表現力	主体性	到達目標2	知識・技能	思考・判断・表現力	主体性	到達目標3	知識・技能	思考・判断・表現力	主体性	到達目標4	知識・技能	思考・判断・表現力	主体性
83365	彫塑	1	II	1.頭像制作による造形表現を行い、彫塑作品を完成させることができる。	○	○	○	2.材料や道具の使い方や素材としての粘土や石膏について特質を理解し、状況に応じて正しく使用できる。	○	○	○	3.基本的な彫刻の歴史と造形要素を理解し応用できる。	○	○	○	4.幼児期の造形活動を学び、彫塑の本質的な意味について自分なりの考えを持つことができる。	○	○	○
83400	造形 I	2	IV	多様な造形表現があることを知り、体験的学習として作品を制作することが出来る。			○	技法遊びのための素材・用具の特徴と扱い方を知ることが出来る。	○			子どもが扱うときの留意点、発達に合わせた援助の方法を考えることが出来る。	○						
83450	造形 I I	2	II	造形教育に関する知識、関心を深めることができる。	○	○	○	造形指導上に必要な技術を身につけることができる。	○										
83600	家庭	2	II	家庭科の衣・食・住に関する基礎的・基本的な知識・技能を身に付けることができる。	○	○	○	「家庭」の実践的・体験的な活動を通して、どの題材を用いて、どのように授業を行いたいかを考えながら受講し、前期の家庭科指導法に活用することができる。	○	○	○	新しい教材開発を考えることができる。	○	○	○				
83670	体育	2	II	○幼児期の運動遊びから小学校低学年の運動遊びへの接続のポイントと、小学校体育科の目標及び、各発達段階における目標と学習内容の概要について理解し、説明することができる。	○		○	○小学生の発達段階に応じた授業の大まかな流れを捉え、作成した指導案をポイントに沿って話し合ったり、検討したり、修正したりすることができる。		○	○	○	○授業を通して「運動好きな子どもを育てる体育科の授業づくりについて」の考えを深め、それをレポートにまとめることができる。						
83680	小学校英語	2	III	小学校外国語活動・外国語科の授業を担当するために必要な実践的な英語運用力を、授業場面を意識しながら身に付けることができる。	○	○	○	小・中学校の接続を踏まえながら、小学校における外国語活動・外国語科の授業を担当するために必要な背景知識を理解し、記述することができる。	○	○	○								
83690	教職基礎論	2	I	・教職の意義、教職の役割、教員の役割、資質能力、職務内容等について身に付けることができる。			○	・教職の実務について観察体験することで、教職を志す意欲を高めることができる。			○	・自らの適性を判断し、進路選択に資する教職のあり方を理解することができる。	○						
83750	教育思想史	2	IV	学校を中心とする教育の歴史、それを支えてきた教育思想の展開について学び、学校教育史と教育思想に関する基礎的な知識を身につける。	○			「教育」の広い概念の中でも特に「教える」という行為に着目し、それについての思索や工夫の歴史、そのための専門の場としての「学校」の登場と変遷について学び、学校のもつ意味について考えることができる。			○	○	○	○					
83840	教育・学校心理学	2	II III IV	教育心理学に関する基礎的な理解を通じて、教育者としての子どものかかわりについて、各自の考察を深めることができる。	○	○	○												
83850	発達心理学 I	2	I II III IV	授業を通して、心の発達のメカニズムを多面的に理解することができる。	○	○	○	自らの成長のプロセスと照らし合わせながらこれまでの人生を振り返るとともに、自らのこれからの育ちを見通しつつ、明日への成長に繋がるための実践的な学びができる。			○								
83900	発達心理学 I I	2	I II III IV	子ども理解を深めることができる。	○	○	○	保育者・教師としての力量形成を行う。	○	○	○								
84000	学校経営論	2	III IV	○学校経営の基礎的な知識を身に付けて、それに関連する課題についてディスカッション等を通して考えることができる。		○	○	○学校と地域との連携の大切さについて理解することができる。	○	○		○	○	○	○	○	○	○	○

各授業科目の到達目標と学科のディプロマ・ポリシーとの関係																			
授業コード	授業科目	単位数	配当年次	到達目標1			到達目標2			到達目標3			到達目標4			到達目標5			
				到達目標1	知識・技能	思考・判断・表現力	主体性	到達目標2	知識・技能	思考・判断・表現力	主体性	到達目標3	知識・技能	思考・判断・表現力	主体性	到達目標4	知識・技能	思考・判断・表現力	主体性
84050	教育法規	2	IIIIV	我が国の教育の根拠となっている法規について、基礎的知識を身に付け、教育の社会的、制度的仕組みを理解することができる。	○	○		教育に関する法的思考の重要性を理解し、教育の在り方について、法規を通して体系的に理解できる。	○	○		現実の教育上の諸課題について、教育法規的な観点からも考察し、判断できる。	○	○					
84100	家庭教育	2	IV	・現代社会における家庭教育に関する問題意識をもち、説明することができる。	○	○	○	・家族のニーズに応じた多様な支援活動についての理解し、説明することができる。	○	○		・子どもを愛することと甘やかすことの違いを知り、愛が伝わるコミュニケーションを学び、よい人間関係の構築に活かすことができる。	○	○	○				
84110	特別支援教育基礎論	2	I	特別な支援を必要とする幼児、児童及び生徒の学習上又は生活上の困難を理解し、そのための指導・支援を行うための基礎的知識を扱う。主たる障害についての特性を理解して、それらを自分のことばで表現できる。				主たる障害の特性を理解し、それらを踏まえての実践的な指導についての基礎的事項を自分のことばで表現できる。				特別支援の視点を取り入れた保育・教育の基礎的事項を自分のことばで表現できる。							
84120	特別支援教育の視点と教科指導	2	IV	通常学級における特別な教育的ニーズのある児童生徒を包摂するための教育方法、指導方法について理解できる。	○			通常学級における特別な教育的ニーズのある児童生徒を包摂する授業づくりの在り方について自分の言葉で表現できる。	○	○	○	通常学級における特別な教育的ニーズのある児童生徒を包摂する授業をデザインし、実践することができる。	○	○	○				
84160	教育課程論	2	II	教育課程の意義、学習指導要領の内容等を理解し、説明することができる。	○			教育課程編成に必要な事項を整理しながら、教育のあり方や子どもの学びの質を高めるカリキュラムマネジメント等について考えたことをレポートやプレゼンなどで表現することができる。		○		グループ・ディスカッションの中で、学んだ事を基に教育課程についての理解や考えを深め、よりよい教育課程を創り上げるための自分の考えを積極的に出し合うことができる。			○				
84200	特別活動の指導法	2	III	・学習指導要領に示された特別活動の目標・内容について理解し、学校教育における特別活動の意義について説明することができる。	○			・特別活動の特質や指導原理を理解した集団形成への効果的な指導の在り方や教育課題を踏まえた学級経営等について考えたことをレポートや指導案などに表現したり模擬授業を行ったりすることができる。		○		・グループ・ディスカッションや模擬授業を行ったりする中で、特別活動で育むことが求められている「人間関係形成」「社会参画」「自己実現」に関する自分の考えを積極的に示したり、よりよい模擬授業にするために工夫をしたりすることができる。			○				
84260	教育課程の理論と方法	2	II	・幼児教育における望ましい教育課程等の編成の在り方や内容について理解する。	○	○	○	・教育課程等と指導計画の関係や内容について理解する。	○	○	○	・幼稚園等における「カリキュラム・マネジメント」の意義や重要性を理解する。	○	○	○				
84300	国語科指導法	2	II	・学習指導要領に示された国語科の目標や内容を理解する。	○			・国語科の学習内容とその背景となる学習指導理論について理解を深める。		○		・具体的な授業場面を想定した授業設計を行い、指導案に記すことができる。	○	○	○				
84350	社会科指導法	2	III	・学習指導要領に示された社会科の目標や内容について説明することができる。				・社会科の学習内容とその背景となる学習理論について理解を深め、授業づくりに活用することができる。				・具体的な場面を想定した学習指導案を作成し、模擬授業を行うことができる。							
84400	算数科指導法	2	II	・学習指導要領に示された算数科の目標と学習内容を知り、説明することができる。	○			・算数科の学習内容とその背景となる学問・数学とを関連付けて教材研究を行い、学習指導理論を踏まえて授業づくりを実践することができる。	○	○		・具体的な授業場面を想定して学習指導案を作成し模擬授業を行い振り返りの中で、よりよい授業づくりの方法を身に付けることができる。			○	○			

各授業科目の到達目標と学科のディプロマ・ポリシーとの関係																							
授業コード	授業科目	単位数	配当年次	到達目標1			到達目標2			到達目標3			到達目標4			到達目標5							
				到達目標1	知識・技能	思考・判断・表現力	到達目標2	知識・技能	思考・判断・表現力	到達目標3	知識・技能	思考・判断・表現力	到達目標4	知識・技能	思考・判断・表現力	到達目標5	知識・技能	思考・判断・表現力					
85356	幼児理解及び教育相談の理論と方法	2	II	・幼児理解の知識と、幼児理解を深めるための基礎的な態度を身に付ける。	○	○	○	・幼児を理解するための具体的な方法について知る。	○	○	○	・教育相談の意義と理論を学び、保育におけるカウンセリングマインドの必要性を理解する。	○	○	○								
85400	初等教育実習事前事後指導	1	III	・教育実習の意義を理解し、幼稚園実習に積極的に向き合うことができる。	○	○	○	・教育実習生として園の教育活動に参画する意識をもつことができる。	○	○	○	・指導計画作成の意義について理解を深め、保育を構想することができる。	○	○	○	・教育実習を経て得られた成果と課題等を省察し、教員免許取得までに習得すべき知識や技能等について明確にすることができる。	○	○	○				
85450	初等教育実習	4	III	1.実習日誌の記述を通して、日々の保育を適切に振り返ることができる。	○	○	○	2.幼稚園現場の組織や運営の在り方、幼児理解や人間関係づくり、学級経営や環境整備、教材研究の在り方などを学び、保育を構想し実践することができる。	○	○	○	3.教師としての豊かな資質と力量を身につけ、積極的に子どもと関わるることができる。	○	○	○								
85470	教職実践演習(幼・小)	2	IV	・大学4年間で学んだ学習知と教育実習、基礎実習・インターンシップなどで得られた実践知とを総合して考えることができる。	○	○	○	・使命感や責任感に裏打ちされた確かな実践的な指導力をもった教員としての自覚をもつことができる。	○	○	○												
85905	特別支援教育総論	2	I	特別支援教育の理念と特別支援学校の制度との関係を理解できる。	○	○	○	障害のある幼児児童生徒への教育に関する歴史と特別支援学校の変遷を理解できる。	○	○	○	特別支援学校の教育の実際について理解し、自分のことばでその意味について表現できる。	○	○	○	特別支援学校の教育制度を支える関連法規及び学習指導要領との関連を理解できる。	○	○	○	インクルーシブ教育と特別支援学校の教育との関連について理解し、自分のことばでその意味について表現できる。	○	○	○
85950	知的障害児の心理・生理・病理	2	II	知的障害の状態像を理解し説明することができる。	○	○	○	知的障害児を取り巻く環境について説明することができる。	○	○	○	一人ひとりの特性と生活環境との相互作用について理解し、その影響について説明できる。	○	○	○	個々の特徴に応じた支援に関する概要・方法を理解し、計画できる。	○	○	○				
86000	肢体不自由児の心理・生理・病理	2	II	脳の解剖、局在機能、感覚器官、運動器官の基本的な働きを関連性を知る。	○	○	○	脳の発生、脳の分化、成り立ちについて学ぶ。	○	○	○	染色体異常、遺伝子異常、発生過程の異常、外因による障害、と病理について学ぶ。	○	○	○	肢体不自由児成り立ちについて学ぶ。肢体不自由児にまつわる、生育的な課題、環境の課題などについて理解する。	○	○	○	障害児の心理・生理及び病理を理解し、教育・療育・地域の支援についての仕方の基本を知る。	○	○	○
86050	病弱児の心理・生理・病理	2	II	1. 主な基礎疾患の原因や症状、日常生活上の留意点を説明することができる。	○	○	○	2. 病氣と共に生きる子どもたちの心理や社会性・認知などの特性を、発達の・心理社会的観点に立って説明することができる。	○	○	○	3. 病氣と共に生きる子どもたちの支援のために、家庭や学校・病院など関係諸機関との連携の重要性を説明することができる。	○	○	○	4. 情報や検査、観察などから、子どもの現状や課題を把握することの重要性を説明することができる。	○	○	○	5. 病氣と共に生きる子どもの生活や人生を支援する方法を提案できる。	○	○	○
86100	知的障害児教育	2	III	・障害のある子どものつまずきを捉え、その背景要因を検討した上で記述できる。	○	○	○	・保育、学校現場における子ども達の生活文脈の中で、多面的な視点から子ども達を捉え、それを具体的なエピソードとして語ったり記述したりできる。	○	○	○	・知的障害のある子どもの様子を想像しながら、そのつまずきに対する教材の工夫や支援の手立てを検討し、模擬授業、模擬保育案を作成できる。	○	○	○	・作成した指導案、保育案を元に模擬授業、模擬保育を行い、その振り返りによる学びや課題の内容をレポートに記述できる。	○	○	○	・これらの学びの内容を総合的に理解し、多面的な視点から知的障害のある子どもの保育・教育についてレポートを作成できる。	○	○	○
86150	肢体不自由児教育	2	III	1 肢体不自由児教育の歴史や教育的意義、特徴等について述べるができる。	○	○	○	2 肢体不自由児教育の多様な教育課程について、教育課程の編成や方法等、特徴について説明することができる。	○	○	○	3 肢体不自由の基礎的疾患や心理、生理等の障害特性や生活上、学習上の課題について説明することができる。	○	○	○	4 授業づくりにおいて、児童生徒の実態や課題に応じた指導支援(教材や環境、姿勢、ICTの活用等)の工夫を提案することができる。	○	○	○	5 肢体不自由児教育の教育制度や医療、福祉等との連携の在り方などの現状を踏まえ、肢体不自由教育における今後の課題について自分の意見を述べるができる。	○	○	○
86200	病弱児教育	2	III	子どもの疾患や学習空白などに応じた内容や授業時数を踏まえた教育課程の編成に関して理解し、説明することができる。	○	○	○	個別的教育支援計画を基に、それぞれの目標を設定して各教科等や自立活動の個別の指導計画を立てることの重要性を理解し、説明することができる。	○	○	○	病弱特別支援学校における各教科の指導計画の作成と内容の取扱いに関して、留意点を具体的に説明し、病状や学習空白など子どもたちの実態に応じて、情報機器の利用など授業の工夫を述べることができる。	○	○	○	自立活動における目標と内容に関して理解し、疾患や病状など子どもたちの実態に応じた内容の工夫を述べることができる。	○	○	○	カリキュラム・マネジメントの観点から、個別の指導計画実施状況の評価と改善について述べるができる。	○	○	○

各授業科目の到達目標と学科のディプロマ・ポリシーとの関係																				
授業コード	授業科目	単位数	配当年次	到達目標1			到達目標2			到達目標3			到達目標4			到達目標5				
				到達目標1	知識・技能	思考・判断・表現力	主体性	到達目標2	知識・技能	思考・判断・表現力	主体性	到達目標3	知識・技能	思考・判断・表現力	主体性	到達目標4	知識・技能	思考・判断・表現力	主体性	
86250	知的障害児教育総論	2	III	・知的障害のある児童・生徒の暮らしや教育に関心を持ち、その教育の基礎的事項について理解して小レポートにまとめた上でそれを発表できる。基礎的事項の中心は ・教育課程編成の考え方 ・教科と領域を合わせた指導の意味とその代表的な実践例 ・知的障害の各教科の目標及び内容や全体の構造 ・自立活動の指導における考え方	○	○	○	理解した基礎的事項を関連づけながら、知的障害のある児童生徒を育てるための教育のポイントを総合的に考え、自分自身のことばで表現できる。	○	○	○									
86300	肢体不自由児教育総論	2	III	脳性まひ等をはじめとする肢体不自由のある子どもの理解に基づきつつ、教育支援及び教育課程に関する知識を得て、説明できるようにする。	○	○	○													
86350	重複障害児教育総論	1	IV	1. 重複障害の状態や特性、実態把握の方法などについて述べることができる。	○	○	○	2. 重複障害の状態に即した教育課程について、その意義や編成について説明することができる。	○	○	○	3. 授業づくりにおいて、児童生徒の実態や課題に応じた指導支援の工夫（姿勢づくり、学習環境、効果的教材、学習支援教材等）を示すことができる。	○	○	○	4. 重複障害児の学校教育における今日的課題について、教育制度や医療・福祉との連携を踏まえて自分の意見を述べるることができる。	○	○	○	
86390	視覚障害児教育総論	1	III	1 視覚障害児の定義、視覚機能(眼球)について理解し、説明ができる。	○	○	○	2 視覚障害児教育の歴史について知り、現在の就学制度や教育課程について説明できる。	○	○	○	3 全盲児、弱視児、重複障害児、それぞれの実態に応じた教材教具の活用や配慮事項について説明ができる。	○	○	○	4 視覚障害児の生活上や学習上の合理的配慮について説明できる。	○	○	○	
86450	聴覚障害児教育総論	1	III	聴覚障害のある幼児児童生徒の聴覚器官の病理面、心理及び生理面の特徴について説明できる。	○	○	○	幼児児童生徒一人一人の間こえや言語発達の状態等による学習上の困難さや教育的支援、家庭や関係機関との連携について説明できる。	○	○	○	特別支援学校（聴覚障害）において編成される教育課程の意義や編成の方法、カリキュラム・マネジメントの考え方を説明できる。	○	○	○	聴覚障害の状態や特性及び心身の発達の段階等を踏まえた各教科等や自立活動の指導における配慮事項について説明できる。	○	○	○	課題に関連したスモールグループディスカッションを積極的に実行できる。
86500	LD児等教育総論	2	II	限局性学習障害、注意欠陥多動性障害、自閉症スペクトラム障害の状態像について説明できる。	○	○	○	彼らの生活環境とその影響について説明できる。	○	○	○	一人一人の特性と環境との相互作用から生じる問題について説明できる。	○	○	○	個々の特徴に応じた支援計画を作成することができる。	○	○	○	
86640	特別支援教育実習事前事後指導	1	IV	・実習に臨む基礎的知識を修得して、それを自分のことばで表現できる。	○	○	○	・特別支援学校での教育実習での自分自身の学びについて、テーマを1つ設定する。そのテーマについて、具体的なエピソードを取り上げながら、視覚的なプレゼンテーションの工夫を行って表現することができる。また、その学びの内容について、自分自身のことばで考察を行うことができる。	○	○	○	・他の実習生の発表と自分の教育実習での学びを重ね合わせて考察し、その気付き等をレポートにまとめることができる。	○	○	○					
86690	特別支援教育実習	2	IV	障害のある児童・生徒に対する特別支援学校における教育のあり方を理解し、基本的技能を習得する。	○	○	○	・教育実習での日々の実践を積み重ねて、そこで得た学び、気付き、課題等を実習担当教員に話したり、実習日誌に記述したりすることができる。	○	○	○	・各教科もしくは各教科と領域を合わせた指導の学習指導案を作成し、授業を実施することができる。	○	○	○					
86740	社会福祉学	2	II III IV	少子高齢化をはじめとした社会福祉の課題について理解し、解決策を提案することができる。	○	○	○	生活を支えている福祉制度やサービスの仕組みを説明することができる。	○	○	○	社会福祉全体のなかでの児童福祉の位置づけを把握し、児童をめぐる諸課題に対して、福祉の立場から援助していくことができる。	○	○	○	専門職のあり方や、社会保障制度など関連領域について説明することができる。	○	○	○	

各授業科目の到達目標と学科のディプロマ・ポリシーとの関係																								
授業コード	授業科目	単位数	配当年次	到達目標1			到達目標2			到達目標3			到達目標4			到達目標5								
				到達目標1	知識・技能	思考・判断・表現力	到達目標2	知識・技能	思考・判断・表現力	到達目標3	知識・技能	思考・判断・表現力	到達目標4	知識・技能	思考・判断・表現力	到達目標5	知識・技能	思考・判断・表現力						
86900	児童福祉学	2	I	子どもや家庭を取り巻く社会状況や福祉ニーズについて説明できる。	○	○	○	現代社会における子ども家庭福祉の意義と歴史の変遷について説明できる。	○	○	○	子どもの権利保障・子ども家庭福祉の制度について説明することができる。	○	○	○	子ども家庭福祉の現状や動向を理解し、記述することができる。	○	○	○	子ども家庭福祉の課題と、今後の展望について自分の意見をまとめ、レポートに記述または発表することができる。	○	○	○	
86950	保育原理	2	I	1. 乳幼児の発達や遊びについて総合的に捉える視点について、その基礎を理解し、説明することができる。	○	○	○	2. 保育士の専門性とその重要性を理解し、その基礎を説明することができる。	○	○	○													
87026	子ども家庭支援論	2	III IV	子育て家庭に対する支援の意義・目的を説明することができる。	○	○	○	保育の専門性を活かした子ども家庭支援の意義と基本について説明することができる。	○	○	○	育て家庭に対する支援の体制について説明することができる。	○	○	○	子育て家庭のニーズに応じた多様な支援の展開と子ども家庭支援の現状、課題について記述することができる。	○	○	○	子育て支援の場で、実際の支援を行うことができる。	○	○	○	
87032	社会的養護I	2	II	現代社会における社会的養護の意義と歴史の変遷について理解し、説明することができる。	○	○	○	子どもの権利と、子どもの権利擁護をふまえた社会的養護の基本（基本理念・原理）について理解し、説明することができる。	○	○	○	日本における社会的養護の対象・形態・専門職等について理解し、説明することができる。	○	○	○	日本における社会的養護の制度的枠組みを理解し、説明することができる。	○	○	○	社会的養護の現状と課題について理解し、説明することができる。	○	○	○	
87034	社会的養護II	1	III	社会的養護の理念と体系について説明できる。	○	○	○	支援計画を作成することができる。	○	○	○	家庭養護のあり方について説明できる。	○	○	○	養護を要する児童・心理治療を必要とする児童と施設養護について説明できる。	○	○	○	非行行為のある児童・障害のある児童と施設養護について説明できる。	○	○	○	
87040	保育者論	2	I	保育者の職務の内容や専門性、制度的位置づけなど、授業で学んだことを理解し、説明できる。	○	○	○	保育者としての役割や責務、専門性について理解した上で、保育に対する自分の考えを説明したり、表現したりすることができる。	○	○	○													
87055	児童臨床心理学（心理学的支援法）	2	II	児童の臨床・発達の危機について説明できる。	○	○	○	児童に現れる社会生活上の困難について説明できる。	○	○	○	児童の心理・行動アセスメント方法を説明できる。	○	○	○	ストレスや怒りの生産的な活用方法について理解、実行できる。	○	○	○					
87150	小児医学	2	II	母子保健、小児の発育・発達、栄養、主要な小児の病気、安全教育などについて、基本的な知識を身につけ必要に応じて初期対応を実践できる。	○	○	○	小児の特徴を理解して、説明することができる。	○	○	○	小児の健康を積極的に増進し、障害を理解し、病気や事故を予防することに取り組んでいく。	○	○	○									
87200	子どもの理解と援助	1	III	授業で紹介した保育事例にもとづきながら、子どもを多面的に理解し、そこでの解釈を他者に伝えることができる。	○	○	○	保育実践において、実態に応じた子ども一人一人の心身の発達や学びを把握することの意義について理解し、応用することができる。	○	○	○	子どもの理解に基づく援助や態度の基本について理解し、応用することができる。												
87300	子どもの保健演習	1	IV	1. 子どものさまざまな生活場面における健康や病気・事故等についての知識を習得し、子どもや保護者に説明できる。	○	○	○	2. 注意子どものさまざまな生活場面における健康や病気・事故等についての知識の習得にとどまらず、保育者として子どもの健康状態を見極める観点について理解する。	○	○	○	3. 生活場面において、子どもの健康に留意した保育環境について評価できる。												
87310	子どもの食と栄養	2	II	1 子どもの健やかな発育・発達の基本となる食と栄養について説明することができる。	○	○	○	2 演習を通して、調乳・簡単な離乳食を調理することができる。	○	○	○	3 保育者として、食育を通して子ども・保護者へ正しい食生活の実践を助言できる。	○	○	○	4 自分の食生活についても見直し、健康的な食生活を実践できる。	○	○	○					
87340	保育内容総論	1	II	①乳幼児の生活や遊びが養護と教育の一体性により展開されていくことを説明できる。	○	○	○	②5領域が関連しあって総合的に展開されていくことを説明できる。	○	○	○	③演習を通じ、子どもにとって「遊びとは何か」ということを、説明できる。												
87348	乳児保育I	2	I	1. 0・1・2歳児の保育について、保育所保育指針を踏まえて理解し、その基本を説明することができる。	○	○	○	2. 0・1・2歳児の保育において、保育者に必要とされる専門性や資質について、保育所保育指針を踏まえた自分自身の考えを説明することができる。	○	○	○													
87360	乳児保育II	1	II	3 歳未満児の発達と保育者の援助の実践について理解し、その基本を説明することができる。	○	○	○	3 歳未満児の保育における援助を具体的にイメージし、計画（指導案）例を作成することができる。	○	○	○													

各授業科目の到達目標と学科のディプロマ・ポリシーとの関係																							
授業コード	授業科目	単位数	配当年次	到達目標1			到達目標2			到達目標3			到達目標4			到達目標5							
				到達目標 1	知識・技能	思考・判断・表現力	主体性	到達目標 2	知識・技能	思考・判断・表現力	主体性	到達目標 3	知識・技能	思考・判断・表現力	主体性	到達目標 4	知識・技能	思考・判断・表現力	主体性				
87380	障害児保育	2	IV	障害の概念と障害児を「保育する」ことについて説明できる。	○	○	○	肢体不自由、視覚・聴覚障害児の特性と援助方法について説明できる。	○	○	○	知的障害児の特性と援助方法について説明できる。	○	○	○	発達障害児の特性と援助方法について説明できる。	○	○	○	個別支援計画を作成し、保護者・現場・地域資源の活用による連携について説明できる。	○	○	○
87400	子育て支援	1	III IV	保育相談支援の特性と展開を具体的に理解し、考察することができる。	○	○	○	子育て支援の内容・方法・技術について具体的に理解し、考察することができる。	○	○	○												
87470	保育実習指導Ⅰ	2	II III	保育所実習：実習前に、自ら主体的に必要な準備を行うことができる。施設実習：実習先施設種の概要、法的根拠、環境などに関して自分で調べて説明できる。	○	○	○	施設実習：実習先施設種の利用児者の特性に関して自分で調べて説明できる。	○	○	○	施設実習：実習先施設種の現状に基づいて、施設の課題を説明できる。	○	○	○	実習を行うにあたっての自分の実習課題あるいは目標を明確に述べる事ができる。	○	○	○	実習で獲得した学びを省察し、自分の今後の課題を明確に述べる事ができる。	○	○	○
87480	保育実習指導ⅠⅠ	1	IV	1. 実習前に、自ら主体的に必要な準備を行うことができる。	○	○	○	2. 実習後に、自らの保育への省察を発表し、考察を述べる事ができる。	○	○	○												
87490	保育実習指導ⅠⅠⅠ	1	IV	実習Ⅰの学びを基盤として、自分の実習課題を明確に説明できる。	○	○	○	実習課題を達成するために、福祉現場や利用児に関する必要な知識を自ら調べ、実践に応用するべくまとめることができる。	○	○	○	福祉現場で実習した後、実習で獲得した学びを省察し、自分の今後の課題を明確に述べる事ができる。	○	○	○								
87500	保育実習Ⅰ	4	II III	保育所と福祉施設の生活に参与し、乳幼児・児童、障害児・者の特性や保育・養護・支援ニーズなどを理解し、説明することができる。	○	○	○	保育所と福祉施設の日々の生活、乳幼児・児童、障害児・者の保育・養護・支援について省察し、日誌に記述することができる。	○	○	○	それぞれの保育・施設現場の機能と保育士の職務、役割、連携、職業倫理について理解し、説明できる。	○	○	○	乳幼児・児童、障害児・者の保育・養護・支援について、特性や支援ニーズの理解に基づいて、状況に合わせ工夫した保育・支援を行うことができる。	○	○	○	新たな実習課題を見つけることができる。	○	○	○
87550	保育実習ⅠⅠ	2	IV	1. 保育所の生活に参加し、乳幼児への理解を深めるとともに、実習生として自ら保育にあたる事ができる。	○	○	○	2. 日々の保育所の生活、乳幼児の保育・支援について省察し、日誌に記述することができる。	○	○	○	3. それぞれの保育現場の現場の機能と、そこでの保育士の職務について理解し、実習生として連携をとりながら保育にあたる事ができる。	○	○	○								
87600	保育実習ⅠⅠⅠ	2	IV	職業倫理に基づいた施設養護の在り方に関して説明できる。	○	○	○	乳幼児・児童、障害児・者の特性や課題に対する支援計画を理解し、それらを基にして個別的な支援を計画し実践することができる。	○	○	○	各施設の利用児・者のニーズに対するサービスやサポートシステムを理解し、連携・協働しながら実習生として支援にあたる事ができる。	○	○	○	施設養護に共通する支援の原則と課題を説明できる。	○	○	○	実習を通して、保育士としての自分の課題を明確にし説明できる。	○	○	○
87650	モンテッソーリ教育理論	2	III	「一人できよう手伝う」支援について説明することができる。	○	○	○	子どもの思いや考えに焦点を当てて観察することができる。	○	○	○	モンテッソーリ教具に触れることにより、環境構成の要点をまとめることができる。	○	○	○	子どもの発達段階を想定し、教材を制作することができる。	○	○	○	モンテッソーリ教育実践上の意義と課題を述べる事ができる。	○	○	○
87700	モンテッソーリ教育実習Ⅰ	2	III	「日常生活の練習」の教具について理解し、幼児に分かりやすく提示できる。	○	○	○	「感覚」の教具について理解し、幼児に分かりやすく提示できる。	○	○	○	自ら創意工夫し、環境を整えることができる。	○	○	○	子ども一人一人の自己発展のプロセスに貢献しようとする。	○	○	○				
87750	モンテッソーリ教育実習ⅠⅠ	2	IV	「言語・文化」の教具について理解し、幼児に分かりやすく提示できる。	○	○	○	「数」の教具について理解し、幼児に分かりやすく提示できる。	○	○	○	自ら創意工夫し、環境を整えることができる。	○	○	○	子ども一人一人の自己発展のプロセスに貢献しようとする。	○	○	○	個と集団のバランスを取りながら指導しようとする。	○	○	○
87815	保育・教育基礎実習	1	I II	・自分で計画立案して、学校園の現場でボランティア実習の実践をすることができる。			○	学校園の現場で体験したことを各自でポートフォリオにまとめ、指導体験を集積していくことができる。	○	○	○	・学校園現場で働く保育士・教師の指導の様子を観察し、実践的な指導観をもつことができる。	○	○	○	・事前事後指導、合同カンファレンス等に参加し、ボランティア実習の成果と課題を明らかにし、自分自身の今後の課題（取り組むべきこと）を明らかにすることができる。	○	○	○				
87850	保育・教育インターンシップ	1	III IV	・学校園現場の多様な指導を体験することで、それぞれの場に合った指導のあり方を考察することができる。			○	・学校園の現場で体験したことを各自でポートフォリオにまとめ、指導体験を集積していくことができる。	○	○	○	・カンファレンスを通して体験を自分でポートフォリオにまとめ、実践的な情報を仲間と共有したりすることができる。	○	○	○	・事前事後指導、合同カンファレンス等に参加し、ボランティア実習の成果と課題を明らかにして、自分自身の今後の課題（取り組むべきこと）を見出すことができる。	○	○	○				

各授業科目の到達目標と学科のディプロマ・ポリシーとの関係																			
授業コード	授業科目	単位数	配当年次	到達目標1			到達目標2			到達目標3			到達目標4			到達目標5			
				到達目標1	知識・技能	思考・判断・表現力	主体性	到達目標2	知識・技能	思考・判断・表現力	主体性	到達目標3	知識・技能	思考・判断・表現力	主体性	到達目標4	知識・技能	思考・判断・表現力	主体性
87880	インクルーシブインターンシップ	1	I II III IV	・ 学校園や福祉関連事業所等で多様な実態の幼児・児童・生徒等と出会いつきあいを重ねながら、その言動の背景を押さえて実態を把握したり、内面を推察して思いを感じ取ったりして、それらをエピソードとして自分のことばで表現することができる。	○	○	○	多様な幼児・児童・生徒の実態と学校園や福祉関連事業所等で指導・支援・交流を体験し、そのポイントを理解して自分のことばで表現できる。	○	○	○	カンファレンスで自身の体験を言語化し、助言を受けて意味づけることで、自分自身を振り返って新たな知識を得たり、人間観、保育観、教育観、支援観についての考えを深めたりする。それらを自分のことばで表現することができる。							
88000	卒業論文	6	III IV	文献活用、現場での実践、作品の鑑賞など様々な方法で研究領域にアプローチして、研究したいことを見出すことができる。	○	○	○	研究の仕方を体得する。ディスカッションしながら、よりよい研究になるように試行錯誤を重ね、自分で研究を進めていくことができる。	○	○	○	研究の成果をまとめ、成果を卒論発表会で発表することができる。							

カリキュラムマップ

年度	2024年度
学部名	人間生活学部
学科名	食品栄養学科

食品栄養学科のディプロマ・ポリシー

<知識・技能> 生活習慣病をはじめとする疾病の予防や治療、あるいは児童・生徒の栄養管理や栄養教育の推進に資することのできる管理栄養士及び栄養教諭としての知識と技能を身につけている。	<思考・判断・表現力> 自らの考えに基づき、蓄えた知識や技能を、医療や教育の現場において適切に発揮するための、思考力・判断力・表現力等の能力を有している。	<主体性> 栄養の専門家として、高い倫理観をもち、人々の健康の保持増進に貢献する関心・意欲を有している。そのために、日進月歩である栄養学・医学の分野において、主体性を持って多様な人々と協働して学び、常に自己研鑽を継続する態度を身につけている。
---	--	--

食品栄養学科のカリキュラム・ポリシー

<知識・技能> はじめに、学科科目を理解するための基礎知識の修得を図る。その後、管理栄養士として必須である、食品と調理、社会・環境と健康、人体と疾病、栄養などに関する専門知識・技能を修得する。さらに、保健・医療・福祉の現場で使える実践力・応用力を身につける。また、児童・生徒の食生活と健康を守るために必要な栄養教諭としての知識と技能を修得する。	<思考・判断・表現力> 栄養のスペシャリストとして保健・医療・福祉や学校現場で活躍するためには、現場のニーズを読み取る深い思考力、幅広い知識を背景とした的確な判断力、そして、判断したことを実行するための力強い表現力等の能力が必要である。そのために、実験や実習を少数のグループで実施し、思考力・判断力を高めるとともに、双方向的な授業形態により、学生の表現力を身につけるためのカリキュラムを組んでいる。	<主体性> さまざまな方面で管理栄養士として活躍するためには、将来の方向性を定め、自らの社会的役割を理解する必要がある。本学科では、入学直後に専攻科目として管理栄養士論を設け、「管理栄養士とは何か、どうあるべきか」について学生一人ひとりに問いかけている。このプロセスを経て、自ら関心を持った事柄に対して、主体性・多様性・協働性を持って意欲的かつ積極的な態度で、勉学に励むことができる。
---	--	---

各授業科目の到達目標と学科のディプロマ・ポリシーとの関係

授業コード	授業科目	単位数	配当年次	到達目標1			到達目標2			到達目標3			到達目標4			到達目標5		
				知識・技能	思考・判断・表現力	主体性	知識・技能	思考・判断・表現力	主体性	知識・技能	思考・判断・表現力	主体性	知識・技能	思考・判断・表現力	主体性	知識・技能	思考・判断・表現力	主体性
90000	基礎化学	2	I	物質の成り立ちや状態について説明できる。	○	○		身近な物質や現象を化学的な視点で捉え、考えることができる。	○	○	○							
90050	栄養学基礎演習	2	I	食品や栄養に関する研究に必要な以下の事項について具体的手法を学び、レポートや卒業論文に活用できるようにする。・研究の構想・研究テーマの設定・研究の発展および論文の書き方・文献の収集と整理、分析・論文・データの読み方・論文・レポートの書き方・文章構成・研究発表の方法（プレゼンテーション、スライド、ポスターの作り方）、研究倫理や知的財産	○	○	○											
90111	栄養学応用演習I	2	IV	各専門科目を通して修得した知識を複合的に結びつけることにより、管理栄養士の現場で必要な対応力・応用力を發揮できる	○	○												
90115	栄養学応用演習II	2	IV	各専門科目を通して修得した知識を複合的に結びつけることにより、管理栄養士の現場で必要な対応力・応用力を身に付ける	○	○												
90150	公衆衛生学	2	II	・公衆衛生の概念や歴史を知り、社会と健康の関わりについて理解を深める	○			・保健統計資料から、わが国の健康・疾病状況を理解する		○		・主要疾患の疫学とその予防対策について理解する	○					
90200	社会福祉概論	2	II	社会福祉の理念、歴史、思想について理解する、	○	○		社会福祉の法律や制度について説明することができる。	○		○	管理栄養士の業務と社会福祉との関係について説明することができる。	○	○	高齢者、障害者、児童など福祉サービスを必要とする人について、適切にサービスを活用することができる。			
90250	健康情報管理論	2	II	・環境基準や環境問題を知り、環境と健康との関わりについて理解を深める				・ライフスタイルが健康に及ぼす影響について理解する				・わが国の保健・医療・福祉体制を理解する						
90300	健康情報管理論実習	1	II	・疫学の方法や指標について理解する	○			・統計学の基礎を理解し、データを客観的に評価・判定する	○									
90355	解剖生理学I	2	I	①学生は、生命体である人体機能を細胞から個体レベルまで説明できる。	○	○		②今後のカリキュラムにおいて、応用・臨床的な授業科目の理解に応用できる。	○		○							

各授業科目の到達目標と学科のディプロマ・ポリシーとの関係																			
授業コード	授業科目	単位数	配当年次	到達目標1			到達目標2			到達目標3			到達目標4			到達目標5			
				到達目標 1	知識・技能	思考・判断・表現力	主体性	到達目標 2	知識・技能	思考・判断・表現力	主体性	到達目標 3	知識・技能	思考・判断・表現力	主体性	到達目標 4	知識・技能	思考・判断・表現力	主体性
90405	解剖生理学II	2	I	①学生は、生命体である人体機能を細胞から個体レベルまで説明できる。	○	○		②学生は、今後のカリキュラムにおいて、応用・臨床的な授業科目の理解に応用できる。	○										
90455	解剖生理学III	2	II	①学生は、人体の正常な構造・機能および疾病に関する基礎的事項を説明できる。	○	○		②学生は、疾病の病態とその治療薬の基礎的な作用メカニズムを記述できる。	○										
90500	解剖生理学実験 I	1	II	①学生は、実験で取り扱ったテーマについて、人体機能を細胞から個体レベルまで論述できる。	○	○	○	②学生は、実験テーマに関する実験手技および機器の取扱について理解し、習得する。	○										
90550	解剖生理学実験 II	1	II	①学生は、実験で取り扱ったテーマについて、人体機能を細胞から個体レベルまで論述できる。	○	○	○	②学生は、実験テーマに関する実験手技および機器の取扱について理解し、習得する。	○										
90600	生化学 I	2	I	3大栄養素が体内でどのような生化学的応答を経て代謝されるのかについて、科学的・論理的に説明できるようになる。	○			生活習慣病をはじめとする疾病の予防や治療に関わる、基盤となる生化学的知識を身につけることができる。	○			管理栄養士および食に関する専門的職業人として、医療や教育の現場のみならず、広く社会の現場に必要な、思考力・判断力・表現力の基礎を身につけることができる。	○		栄養の専門家として、先進的な情報を常に入手していこうとする関心と意欲を持つための基盤を構築することができる。			○	
90650	生化学 II	2	I	酵素やビタミン、ミネラルの化学的理解を通じて代謝調節機構について理解できるようになり、個体の恒常性維持機構や遺伝子発現機構について説明できるようになることを目標とする。	○			生活習慣病をはじめとする疾病の予防や治療に関わる、基盤となる生化学的知識を身につけることができる。	○			管理栄養士および食に関する専門的職業人として、医療や教育の現場のみならず、広く社会の現場に必要な、思考力・判断力・表現力の基礎を身につけることができる。	○		栄養の専門家として、先進的な情報を常に入手していこうとする関心と意欲を持つための基盤を構築することができる。			○	
90700	生化学実験	1	II	・酵素、たんぱく質、核酸を取り扱う際に必要な基本的な研究手法と操作を身につけられる。	○	○		・酵素、たんぱく質、核酸の化学的性質について説明できるようになる。	○			生化学的なデータを正確に解析し、そこから論理的に考察できる能力を身につけることができる。	○		栄養の専門家として、科学的な関心と意欲を持つための基盤を構築することができる。			○	
90750	病理学	2	II	1. 病気とはどんなものなのか。なぜ病気になるのか、病気になるとどんな症状が出るのかなどの病気についての基礎が説明できる。	○			2. 管理栄養士として、知っておかねばならない食事制限や栄養管理の意義について、病理学の知識をもとに正しく説明できる。	○	○	○	3. 各種臓器の代表的な疾患について、説明できる。	○	○					
90800	臨床医学 I	2	II	各疾患の病態・症状・診断・治療の概要について説明できる。	○	○		各疾患の予防や療養において必要な指導ができる。	○	○	○	管理栄養士の予防医学、急性・慢性期医療における重要性が説明できる。	○	○					
90850	臨床医学 II	2	III	各疾患の病態・症状・診断・治療の概要について説明できる。	○	○	○	各疾患の予防や療養において必要な指導ができる。	○	○	○	管理栄養士の予防医学、急性・慢性期医療における重要性が説明できる。	○	○					
90900	臨床情報管理実習	1	II	疾患の病態に関連した、検査測定値について説明できる。	○	○		疾患の予防、病態を評価するための手技を適切に行うことができる。	○	○	○	疾患ごとに病態や検査結果、療養上の注意点などについて適切な説明ができる。	○	○					
90950	微生物学	2	II	微生物の発見と理解の歴史について説明できる。				細菌、ウイルス、真菌、原虫とは何か、どのように違うのか説明できる。				代表的な細菌の代謝やウイルスの増殖メカニズムについて説明できる。							
91000	生体防御論	2	III	免疫システムの概要を説明できる。	○	○		アレルギーや自己免疫疾患、生体防御能を左右する内的外的要因について説明できる。	○	○									

各授業科目の到達目標と学科のディプロマ・ポリシーとの関係

授業コード	授業科目	単位数	配当年次	到達目標1			到達目標2			到達目標3			到達目標4			到達目標5				
				到達目標 1	知識・技能	思考・判断・表現力	主体性	到達目標 2	知識・技能	思考・判断・表現力	主体性	到達目標 3	知識・技能	思考・判断・表現力	主体性	到達目標 4	知識・技能	思考・判断・表現力	主体性	
91030	生体防衛論実験	1	III	生体防衛に関わる微生物や培養細胞の観察、分析を通して、微生物とヒトとの関係を説明できる。	○	○	○	抗原抗体反応やPCRの原理を理解し、基本的手技を実践できるようになる。	○	○	○									
91050	食品学 I	2	I	各種食品成分を分類できる。				各種食品成分と3つの機能との関わりを説明できる。				食品を科学的に捉えることができる。								
91100	食品学 I I	2	I	食品素材を分類でき、含まれる成分を説明できる。	○			食品の各過程で起こる食品成分の変化を説明できる。	○			食品の表示や加工技術について説明できる。	○			食品を科学的にとらえ、食品素材を選択・活用することができる。	○	○	○	
91150	食品学実験	1	I	実験を行う上での基礎的な注意事項、器具などの取り扱い方を理解し、安全・正確に実験を行うことができる。	○			定性・定量実験の違いについて説明できる。	○			実験レポートをまとめることができる。	○	○	○					
91200	食品衛生学 I	2	II	微生物的・化学的要因による食品の変質や食中毒の機序を説明できる。	○	○		食中毒に対する国内外の法令や行政組織について説明できる。	○	○										
91250	食品衛生学 I I	2	II	寄生虫による食中毒や人獣共通感染症の概要について説明できる。	○	○		カビ毒、ダイオキシン、重金属などによる食品汚染と人体への影響について説明できる。	○	○		食品添加物の種類や使用目的を理解し、その有効性と安全性を説明できる。	○	○		食品添加物や遺伝子組換え食品に関する食品表示および食品表示法について説明できる。	○	○		
91300	食品衛生学実験	1	II	食品や身近な環境中の微生物を検出することで、その存在を認識するとともに基本的な微生物の扱い方を身につける。	○	○	○	食品衛生法に基づく食品等の検査に必要な基礎的な実験手法を身につける。	○	○	○									
91350	調理学	2	I	調理操作によるおいしさに関与する要因を説明できる。	○	○		食品の調理・加工機能（調理科学的性質）を各種の調理・加工操作と関連づけて記述できる。	○	○		習得した理論を家庭で作る日常調理や応用調理、並びに加工食品等に活かす能力として身につけ応用ができる。	○	○	○					
91400	調理学実習 I	1	I	基本調理操作である基礎加熱調理操作を、理論とつなげながら行える。	○	○		食材や調理器具の衛生・安全管理、作業効率を考慮しながら、安全に効率よく調理ができる。	○	○	○	管理栄養士として食教育につながる食事提供のための基礎的な調理が実践できる。	○	○	○					
91470	調理学実習 I I	1	I	調理学実習 I の基本的な調理技術を基礎に、応用へ展開する調理法を習得する。	○	○	○	各種材料の性質や操作を基礎実験等から科学的に理解し、その特徴から適した調理法や調味の工夫が判別できる。	○	○	○	健康的な食事を計画・実践する能力を習得することができる。	○	○	○					
91500	管理栄養士論	2	I	管理栄養士制度の変遷について説明することができる。	○	○		食生活の変遷と管理栄養士の関わりについて説明することができる。	○	○		地域社会・学校・医療などにおける管理栄養士の役割と重要性について説明することができる。	○	○	○	管理栄養士に必要なホスピタリティについて理解することができる。	○	○	○	
91550	基礎栄養学	2	I	栄養素の消化・吸収・代謝の全体像を把握できるようになるとともに、栄養素の生体内での分子レベルの役割を説明できる能力を身につけることができる。	○	○		生活習慣病をはじめとする疾病の予防や治療に関わる、基盤となる基礎栄養学的知識を身につけることができる。	○	○		管理栄養士および食に関する専門的職業人として、医療や教育の現場のみならず、広く社会の現場に必要な、思考力・判断力・表現力の基礎を身につけることができる。	○	○	○	栄養の専門家として、先進的な情報を常に入手していこうとする関心と意欲を持つための基盤を構築することができる。		○		
91600	基礎栄養学実習	1	II	健康の保持・増進、生活習慣病の予防におけるエネルギー代謝や脂質代謝の栄養学的意義を説明できるようになる。	○			基礎栄養学に関する実験手法を身につけることができる。	○			基礎栄養学的なデータを正確に解析し、そこから論理的に考察できる能力を身につけることができる。	○			基礎栄養学的なデータを適切に理解し、説得力ある説明ができるようになる。	○	○	○	○

各授業科目の到達目標と学科のディプロマ・ポリシーとの関係																			
授業コード	授業科目	単位数	配当年次	到達目標1			到達目標2			到達目標3			到達目標4			到達目標5			
				到達目標 1	知識・技能	思考・判断・表現力	主体性	到達目標 2	知識・技能	思考・判断・表現力	主体性	到達目標 3	知識・技能	思考・判断・表現力	主体性	到達目標 4	知識・技能	思考・判断・表現力	主体性
91650	応用栄養学Ⅰ	2	Ⅱ	1. 栄養マネジメントの概念を理解し、その各過程について説明ができる。	○	○		2. 栄養アセスメントの基本となる臨床検査、身体測定、食事調査結果の評価基準および食事摂取基準の基本的な考え方を理解し、活用ができる。	○	○		3. 妊娠期、乳児期の身体機能、栄養状態の変化、栄養アセスメントの基準を具体的に習得し、栄養管理、食事管理に応用できる。	○	○	○				
91700	応用栄養学ⅠⅠ	2	Ⅱ	幼児期から成人期に至る成長・発達・加齢に伴う身体機能や栄養状態の変化、栄養アセスメントの基準を判別し説明できる。	○	○		欠食、偏食、肥満、生活習慣病の発症など、各年齢層における諸問題を把握し、それらに対応した栄養管理や食事管理について記述できる。	○	○	○								
91750	応用栄養学ⅠⅠⅠ	2	Ⅲ	加齢（特に更年期、高齢期）や運動・スポーツ、ストレスや特殊環境の強弱による生体反応や栄養状態の変化を説明できる。	○	○		各種の条件下での身体状況に応じた栄養アセスメントを判別し、栄養管理の基本が実行できる。	○	○	○								
91800	応用栄養学実習	1	Ⅲ	1.対象に応じた栄養アセスメントの方法を適切に判別し、必要な栄養ケアを説明できる。	○	○		2.栄養アセスメントの結果から、適切な栄養ケアプランを作成できる。	○	○		3.ライフステージ別栄養アセスメントの実施、栄養ケアプランの作成、食事計画の立案・調理を行い、栄養管理を具体的に実行できる。	○	○	○				
91850	栄養教育論Ⅰ	2	Ⅱ	栄養教育の必要性と基本的な知識と理論について説明できる。				栄養教育マネジメントの一連の流れについて説明できる。				個人や集団に対して適切な栄養指導・栄養教育を行うために、求められる知識・技法について考察することができる。							
91900	栄養教育論ⅠⅠ	2	Ⅲ	対象者の特性について説明できる。	○			対象者に応じた栄養教育の理論と方法について説明できる。	○	○		対象別栄養教育プログラムの作成とその評価について考察することができる。	○	○	○				
91950	栄養教育論ⅠⅠⅠ	2	Ⅳ	一連の栄養教育活動（栄養教育プログラムの作成・実施・評価）について説明できる。	○	○		一連の栄養教育活動に必要な理論・技法について、対象者に応じて判別することができる。	○	○		学内や学外で得た専門知識が各分野における一連の栄養教育活動に活用することができる。	○	○	○				
92000	栄養教育論実習	1	Ⅲ	栄養教育に必要な情報を主体的に読み解き活用することができる。	○		○	対象者の実態把握並びに優先課題を特定することができる。	○	○		対象者の理解を促し、行動変容につながる教育内容を企画することができる。	○	○	○	対象者との人間関係構築に必要なカウンセリング技法を活用することができる。	○	○	○
92050	臨床栄養学Ⅰ	2	Ⅲ	各疾患の病態生理と食事療法の関係について説明することができる。	○	○		栄養ケア・プロセスにしたがって、傷病者の栄養管理ができる。	○	○	○	各疾患の食事療法のプランを提示することができる。	○	○	○				
92100	臨床栄養学ⅠⅠ	2	Ⅲ	1 各種疾患別に傷病者の病態が説明できる。	○	○		2 各種疾病別の傷病者の栄養状態の特徴が説明できる。	○	○		3 各種疾病別の傷病者の適切な栄養マネジメントが説明できる。	○	○	○				
92150	臨床栄養学ⅠⅠⅠ	2	Ⅳ	各疾患の病態生理と食事療法の関係について説明することができる。	○	○		栄養ケア・プロセスにしたがって、傷病者の栄養管理ができる。	○	○	○	各疾患の食事療法のプランを提示することができる。	○	○	○	関連分野の国家試験レベルの問題に正答することができる。	○	○	○
92200	臨床栄養学ⅠⅣ	2	Ⅳ	1 各種疾患に応じた適切な栄養管理を理解し、栄養状態の評価・判定ができる。	○	○	○	2 各種疾患に応じた栄養管理方法が提案できる。	○	○	○	3 各種疾患に応じた栄養教育計画が立案できる。	○	○	○				
92250	臨床栄養学実習Ⅰ	1	Ⅲ	NCP（栄養ケアプロセス）の方法を理解して記録することができる。	○	○		栄養アセスメントデータを正しく読み取り、その評価ができる。	○	○		栄養診断とそれに基づいた栄養プランを立てることができる。	○	○	○	代表的な疾患とその食事療法を理解し、個別栄養指導を行うことができる。	○	○	○
92300	臨床栄養学実習ⅠⅠ	1	Ⅲ	1 各疾患の病態生理と食事療法の関係について説明できる。	○	○	○	2 一般治療食の献立が作成ができる。	○	○	○	3 一般治療食の調理が実行できる。	○	○	○	4 一般治療食から病態に応じた献立が展開できる。	○	○	○
															5 一般治療食から病態に応じた献立が展開できる。	○	○	○	

各授業科目の到達目標と学科のディプロマ・ポリシーとの関係																							
授業コード	授業科目	単位数	配当年次	到達目標1				到達目標2				到達目標3				到達目標4				到達目標5			
				到達目標 1	知識・技能	思考・判断・表現力	主体性	到達目標 2	知識・技能	思考・判断・表現力	主体性	到達目標 3	知識・技能	思考・判断・表現力	主体性	到達目標 4	知識・技能	思考・判断・表現力	主体性	到達目標 5	知識・技能	思考・判断・表現力	主体性
92400	臨床栄養学実習ⅠⅠⅠ	1	Ⅳ	1 病態生理とそれに即した栄養療法について説明することができる	○	○	○	2 症例の病態の把握や栄養状態の評価を的確に行うことができる	○	○	○	3 症例の栄養食事計画の立案ができる	○	○	○	4 対象者に対して、適切な栄養食事指導を行うことができる	○	○	○				
92450	公衆栄養学Ⅰ	2	Ⅱ	1. わが国の保健・医療・福祉システムの中での公衆栄養の役割を説明できる。	○	○	○	2. わが国の人口および疾病構造の変化と現状に関連づけて、栄養問題を説明できる。	○	○	○	3. わが国における食環境の変化に関連づけて、食事の変化と現状・課題を説明できる。	○	○	○	4. わが国の法律や制度並びに政策と関連づけて、公衆栄養活動の意義を説明できる。	○	○	○	5. 諸外国の健康・栄養問題の現状と課題の説明および健康・栄養政策に関する国際的な枠組みと動向を説明できる。	○	○	○
92513	公衆栄養学Ⅰ	2	Ⅲ	1. 疫学の目的と方法を理解し、栄養疫学のための各種食事調査方法および調査データの処理について説明できる。	○	○	○	2. 公衆栄養マネジメントの必要性と具体的プロセスについて説明できる。	○	○	○	3. コミュニティオーガニゼーション、エンパワーメントの意義について説明できる。	○	○	○	4. 地域における連携やネットワークづくりの意義と方法について説明できる。	○	○	○				
92550	公衆栄養学実習	1	Ⅲ	1. 地域や職域等の健康・栄養問題とそれを取り巻く様々な要因に関する情報を収集・分析し、総合的に評価・判定ができる。	○	○	○	2. 保健・医療・福祉・介護システムの中で、栄養上のハイリスク集団の特定ができる。	○	○	○	3. あらゆる健康・栄養状態の者に対し適切な栄養関連サービスを提供するプログラムの作成・実施・評価の総合的なマネジメントに必要な理論と方法について説明ができる。	○	○	○	4. 各種サービスやプログラムの調整、人的資源など社会資源の活用、栄養情報の管理、コミュニケーションの管理などの仕組みについて説明ができる。	○	○	○				
92600	給食経営管理論Ⅰ	2	Ⅱ	給食施設における給食の運営管理、集団給食におけるシステムの特徴を理解する。また、特定給食施設における利用者の身体状況、栄養状態、生活習慣などに基づいた食事の提供に関わる栄養・食事管理についての基礎が理解できる。	○	○	○	給食システムと給食運営に必要な関連法規が説明できる。	○	○	○	給食を生産するために必要なプロセス（食事基準の作成から生産、提供に至るまで）が説明できる。	○	○	○	安全な給食を提供するために必要な衛生管理の基本事項が説明できる。	○	○	○	対象者のニーズに合わせた質の高い給食を提供する必要性が説明できる。	○	○	○
92650	給食経営管理論ⅠⅠ	2	Ⅱ	マーケティングの原理や応用を理解する。さらに経営管理の理論に沿って管理栄養士業務を組み立てること、すなわち給食運営に関わるシステムやマネジメントについての理解を深め、実践につなげることのできる能力が修得できる。	○	○	○	給食の経営管理的側面から対象者のニーズに合ったメニュー戦略の仕組みが説明できる。	○	○	○	給食運営に必要な会計・原価管理の仕組みについて説明できる。	○	○	○	各種事故や災害に対する危機管理への備えと対応について説明できる。	○	○	○	学校・病院・高齢者福祉施設など、対象者や施設の状況に応じた給食運営の具体的方法について説明できる。	○	○	○
92700	給食経営管理論実習Ⅰ	1	Ⅱ	集団を対象とした給食を提供するための栄養・食事計画、調理作業計画に基づいて実習を行い、大量調理の方法、HACCP概念に基づいた衛生管理、食事サービスといった給食の運営管理のための基本的な技術を修得する。集団を対象とした栄養アセスメントを行い、給食栄養目標量の設定ができる。	○	○	○	設定した給食栄養目標量に対応し、かつ対象者のニーズに合った献立作成ができる。給食提供後に残食調査や満足度調査を行い、評価をまとめ改善点の把握と計画への反映方法を習得する。	○	○	○	予定献立表、発注書、作業指示書、作業工程表など各種給食運営に必要な帳票類が作成できる。	○	○	○	安全な給食を提供するために必要な衛生管理が実行できる。	○	○	○	大量調理機器等を用いた調理を行うことで、少量調理との違いを説明できる。	○	○	○
92750	給食経営管理論実習ⅠⅠ	1	Ⅲ	集団を対象とした栄養アセスメントを行い、給食栄養目標量の設定ができる。	○	○	○	設定した給食栄養目標量に対応し、かつ対象者のニーズや特性に合わせた献立作成ができる。	○	○	○	予定献立表、発注書、作業指示書、作業工程表など各種給食運営に必要な帳票類が作成できる。	○	○	○	安全な給食を提供するために必要な衛生管理が実行できる。	○	○	○	対象者に合わせた食事形態で給食提供ができる。併せて給食献立を媒体とした栄養教育媒体の作成及び実行ができる。	○	○	○
92815	臨地実習事前事後指導Ⅰ	1	ⅢⅣ	代表的な疾患の病態生理とそれに即した栄養療法について説明することができる	○	○	○	対象者の栄養食事計画の立案ができる	○	○	○	対象者に適した食事献立の作成ができる	○	○	○	グループの中で自分の役割を果たしながら、協力して課題に取り組むことができる	○	○	○				

各授業科目の到達目標と学科のディプロマ・ポリシーとの関係

授業コード	授業科目	単位数	配当年次	到達目標1			到達目標2			到達目標3			到達目標4			到達目標5							
				到達目標 1	知識・技能	思考・判断・表現力	主体性	到達目標 2	知識・技能	思考・判断・表現力	主体性	到達目標 3	知識・技能	思考・判断・表現力	主体性	到達目標 4	知識・技能	思考・判断・表現力	主体性				
92820	臨地実習事前事後指導ⅠⅠ	1	Ⅲ	実践活動の場における問題発見、解決を通して、栄養評価・判定に基づく適切なマネジメントを行うために必要とされる専門的な知識および技術の統合を図り、管理栄養士として具備すべき知識及び技能を修得する能力を養う。	○	○	○	給食経営管理の知識や技術について説明することができる。	○	○	○	対象者の特性に応じた栄養管理や献立作成ができる。	○	○	○	社会人として常識的な行動をとることができる。	○	○	○	課題を設定した上で実践の場を体験し、そこから見出された問題点とその解決策について考察できるようになる。	○	○	○
92831	臨地実習事前事後指導ⅠⅠⅠ	1	Ⅲ	1. 公衆栄養学臨地実習の目的と保健所・市町村保健センターの業務について説明できる。	○			2. 公衆栄養マネジメントの具体的なプロセスについて説明できる。	○	○	○	3. 該当実習施設の管轄地域における健康・栄養問題とそれを取り巻く様々な要因の概略について説明できる。	○	○	○	4. 個人が設定した実習課題テーマの目的について説明できる。	○	○	○				
92840	臨地実習事前事後指導ⅠⅠⅠ	1	Ⅲ	利用者の心身の状況や栄養状態、病状、日々の過ごし方や潜在的な希望等を把握し、個人に適した栄養食事計画の作成及び評価・判定ができる能力を養う。また、臨地実習Ⅱでの学びをさらに深め、将来管理栄養士として業務に携わるために必要な判断力、応用力を含む総合的なマネジメント能力を身につける。利用者の栄養管理について、栄養ケア計画の作成、実施、評価が説明できる。	○	○	○	摂食嚥下障害や褥瘡、認知症など高齢者の特性について説明できる。	○	○	○	個別支援計画の総合的なマネジメントの考え方を理解し説明できる。	○	○	○	社会人として常識的な行動をとることができる。		○	○	施設における体験を通して、自分自身の課題とその解決策について気づくことで、実行できるようになる。	○	○	○
92855	栄養学総合演習	1	ⅢⅣ																				
92915	臨地実習Ⅰ	2	ⅢⅣ																				
93050	臨地実習ⅠⅠ	1	Ⅲ	給食経営管理のマネジメントを行う管理栄養士の業務について、それぞれの業務が有機的に関連し、実習施設独自の給食運営が行われていることを体験する。給食経営管理の知識や技術が、給食現場においてどのように生かされているか説明できる。		○	○	食数管理や個別対応の実際を学び、給食サービス提供に関する技術を習得し、実行できる。	○	○	○	衛生管理（HACCP、危機管理など）について、食中毒予防の観点から理解し、説明できる。	○	○	○	嗜好調査や摂取量の調査などを行うことにより、特定給食施設における栄養・食事に関する課題について考察し、総合的に評価・判定することができる。	○	○	○	他職種や児童、高齢者などとのコミュニケーションのとり方を習得し、実行できる。	○	○	○
93055	臨地実習ⅠⅠⅠ	1	Ⅲ	1. 地域社会において保健所・市町村保健センターがどのように栄養評価・判定に基づくマネジメントを行っているかが説明できる。	○	○	○	2. 法律に基づいて行われている健康・栄養行政における様々な施策について具体的に説明できる。	○	○	○	3. 各種サービスやプログラムの調整、人的資源など社会資源の活用、栄養情報の管理、コミュニケーションの管理などの仕組みについて説明ができる。	○	○	○	4. 公衆栄養活動における保健所と市町村保健センターの役割および業務内容の違いについて説明できる。	○						

各授業科目の到達目標と学科のディプロマ・ポリシーとの関係																								
授業コード	授業科目	単位数	配当年次	到達目標1			到達目標2			到達目標3			到達目標4			到達目標5								
				到達目標 1	知識・技能	思考・判断・表現力	主体性	到達目標 2	知識・技能	思考・判断・表現力	主体性	到達目標 3	知識・技能	思考・判断・表現力	主体性	到達目標 4	知識・技能	思考・判断・表現力	主体性					
93070	臨地実習Ⅴ	1	Ⅲ	施設利用者への適切な栄養管理の実際を学び、利用者への対応やチームケアにおける他職種との連携方法など、管理栄養士の役割について体験を通して実行できる。給食施設の特質を理解し、入所者の食事ニーズへの対応方法や、介護食および摂食嚥下機能訓練食の必要性と調理方法の実際を実行できる。	○	○	○	カンファレンスへの参画を通して個別支援計画の検討・作成の実際について説明できる。	○	○	○	他部門とのコミュニケーションと連携の具体的な方法を学び、実行できる。	○	○	○	入所者の栄養状態の評価及び本人・家族の意向に基づく栄養ケアプランの作成について説明できる。	○	○	○	入所者やその家族への栄養指導・教育の実際から課題を見つけることで、応用できるようになる。	○	○	○	
93250	健康の保持・増進Ⅰ	2	Ⅰ	物質の成り立ちや状態について説明できる。	○	○		身近な物質や現象を化学的な視点で捉え、考えることができる。	○	○	○													
93350	健康の保持・増進ⅠⅠⅠ	2	Ⅳ	これまでに修得した知識を整理・復習し、管理栄養士および栄養教諭として必要な栄養と基礎的な能力を身につけることを目的とする。		○																		
93450	学校栄養教育論Ⅰ	2	Ⅲ	1 学校給食の意義と役割を理解し、栄養教諭の職務を述べることができる。	○		○	2 児童・生徒の発達段階に応じた食に関する指導の必要性と課題を説明できる。	○	○	○													
93500	学校栄養教育論ⅠⅠ	2	Ⅲ	1 食に関する指導の全体計画や各教科等における指導の内容が説明できる。	○		○	2 児童・生徒の発達段階に応じた学習指導案を作成し、授業を工夫することができる。	○	○	○													
94000	卒業論文	6	ⅢⅣ	研究テーマの設定、研究計画の立案・遂行、ならびに研究論文作成・発表を通し、研究を実施する上で必要な一連の能力を身につける。	○	○	○																	

各授業科目の到達目標と学科のディプロマ・ポリシーとの関係

授業コード	授業科目	単位数	配当年次	到達目標1			到達目標2			到達目標3			到達目標4			到達目標5							
				到達目標1	知識・技能	思考・判断・表現力	主体性	到達目標2	知識・技能	思考・判断・表現力	主体性	到達目標3	知識・技能	思考・判断・表現力	主体性	到達目標4	知識・技能	思考・判断・表現力	主体性				
73070	Intensive English	2	1	英語4 技能 (Listening, Speaking, Reading, Writing) を総合的に伸ばす	○	○	○	TOEIC・IELTS・TOEFL などの検定試験でのスコアアップを目指す	○	○	○	特に日本人学生が苦手とする Speaking力をつける	○	○	○								
73090	Practical English	2	1	様々なジャンルや話題の英語を聞いて読んで、目的に応じて情報や考えなどを理解することができること。	○	○	○	様々な話題について、目的や場面、状況等に応じて英語で話すこと [やり取り・発表] ができること。	○	○	○	様々な話題について、目的や場面、状況等に応じて英語で書くことができること。	○	○	○	複数の領域を統合した言語活動を遂行することができること。	○	○	○	チームワークができること。	○	○	○